

訟預ケ小作證不戻リノ詞訟並ニ違約金督責ノ詞訟ハ總テ消滅ト心得ヘシトノ判決ニ服セス
 上告ヲ爲シタル末明治十五年五月廿五日大審院ニ於テ原裁判所カ證憑ヲ採擇シテ之ヲ關係
 人ノ供述ニ參照シ其實實ヲ認定シタル者ナレハ法律上不法ト認ムヘキ點ナク尙上告人カ證
 憑ヲ提舉シ反覆辨論スルモ破毀スヘキ理由ナシトシ上告狀却下スル旨ヲ旨渡シタリ
 右裁判確定ノ後被告志希留ハ明治十七年二月廿二日付ケテ以テ再審ノ訴ヘテ爲シタリ其要
 領ハ珠玖清左衛門カ吟味願ノ證憑即チ辻清右衛門ヨリ清左衛門ヘ宛タル丙第一號地所賣買
 ノ證書ハ全ク偽造シタル者ニシテ其證憑ハ當時清右衛門ハ勿論川島五郎左衛門ニ於テモ賣
 買ヲ遂ケサル以前ノ儀ナレハ該證書ノ成リ立ツヘキ謂レナシ且ツ清左衛門並ニ北村善吉ヨ
 リ滋賀縣廳ヘ伺書ニ珠玖清左衛門金主ニテ買入云々トアル而已ナラス再度賣買約定ヲ爲ス
 ノ理由ナシ況ンヤ被告カ五郎左衛門ヨリ該地ヲ買得シタル際清左衛門並ニ清右衛門ヘ協議
 ヲ遂ケ認諾ヲ得タル者ナリ其他類項ノ證憑ニ據テ見レハ該證書ノ偽造タルコト明ラカナリ又
 丙第五號即チ被告及ヒ證人濱部儀八郎連名ニテ清左衛門代理高田吉兵衛ヘ宛タル約定證ハ
 被告ノ印ヲ盜捺シ偽造シタル者ニシテ既ニ清左衛門等ニ於テ右偽證ノ宣告ヲ受ケタルヲ以
 テ明ラカナリ而シテ京都裁判所大津支廳ニ於テ申シ渡サレタル宣告中ニ被告ノ捺印アル假
 口供ヲ登記アルモ右ハ文字ヲ増減變亂シタル者ニシテ其證明白ナリ抑モ被告ハ論地ヲ公正
 ノ證書ヲ以テ買得シ既ニ代金モ授受シタル者ナルニ京都裁判所大津支廳ニ於テ謂レナク被
 告ノ陳述及ヒ諸證ヲ排斥シ刑ノ旨渡シタ爲シタルハ即チ事實理由ノ齟齬アル裁判ナレハ各
 證憑ヲ呈シ偽造證書及ヒ事實背違ノ理ヲ明ラカシメ治罪法第四百二十九條ニ據リ再審ヲ求

ト云フニ在リ

大津輕罪裁判所檢事補久保覺二郎ハ小林志希留カ喋々論告スト雖モ治罪法第四百二十九條
 各項ノ理由ニモ之レナシ萬一ノ僥倖ヲ試ミル不當ノ訴訟ト思料スル旨意見ヲ附セリ
 大審院檢事長渡邊驥ハ小林志希留カ再審ノ訴ヲ爲シタル趣旨ヲ熟閱スルニ徒ラニ自己妄想
 ノ事實ヲ構造シ之ヲ論據ト爲スニ過キス且提供スル處ノ一切ノ書類モ一ツトシテ治罪法第
 四百二十九條ノ項目ニ定ムル再審ノ理由ヲ證明スルコ足ルヘキモノナキヲ以テ到底法律上
 無効ノ訴ヘナリト思考スル旨意見ヲ附セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百四十四條ノ公式ヲ履行シ判決スルコ左ノ如シ
 被告カ再審ノ理由トスル處ハ辻清右衛門ヨリ珠玖清左衛門ヘ宛タル地所賣買ノ證書及ヒ被
 告ヨリ清左衛門代理高田吉兵衛ヘ宛タル約定證ハ清左衛門等カ偽造證書ノ宣告書及ヒ清右
 衛門等カ縣廳ヘノ伺書其他各證憑ニ據テ其偽造證書タルコト判然タリ又論地ヲ被告カ公然買
 得シタル事實及ヒ被告口供ノ變造ニ係ルコトハ是亦諸證憑ニ據テ明白ナルニ京都裁判所大津
 支廳ニ於テ川島五郎左衛門ヨリ賣渡シ肯シセサル情ヲ知リナカラ五郎左衛門ヨリ買得ノ体
 ニ仕成シ云々ト旨渡シタルハ所謂事實理由ノ齟齬アル裁判ナリト云フアレハ同應ニ於テハ
 被告カ明治十年十月十三日捺印セシ假口供ニ善吉ヨリ該田地ハ其節清左衛門名義ニ可改ノ
 處都合ニ依リ五郎左衛門名義ニ致シ代金ハ清左衛門ヨリ受取リ其節渡シ濟ノ次第承ルトフ
 ルヲ眞實ノ白狀ナリト認メ判決シタル者ニシテ必竟被告ハ自己ノ事實トスル處ヲ主張シ又
 ハ二三ノ證憑ヲ偽造ナリ變造ナリト論辨スル者ニシテ其陳述スル處ノ件々及ヒ各證憑ハ總

テ治罪法第四百三十九條ニ定ル處ノ各項ニ一モ適當スルモノナシ又被告ハ明治十七年三月七日附テ以テ大津輕罪裁判所へ檢事ノ意見書及ヒ辻清右衛門外六名ノ宣告書ノ原本ヲ請願シタルニ許可ナキヲ以テ被告カ右關係人ノ宣告書並ニ檢事ノ意見書ニ對スル答辨ノ相成ル機處分ヲ求ムト雖モ再審ノ原由ト爲スヘキコトニ非ルヲ以テ採用セス
右ノ理由ナルヲ以テ本案再審ノ訴ハ之ヲ棄却スル者也

第一千二十五號

○判文(證書偽造)明治十六年二月十四日上告
同 十七年四月廿二日發付

山口縣長門國阿武郡川島村
士族無職業

木村 貫一

明治十六年二月二十八日

右貫一カ被告事件ニ付明治十六年二月八日山口輕罪裁判所カ私書偽造及ヒ詐欺取財ノ事實アリト認テ刑法第百條ニ從ヒ一ノ同第二百十條同第二百十二條ニ依リ一年ノ重禁錮ニ處シ拾圓ノ罰金一年ノ監視ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ第一原裁判ハ明治十四年十月中阿部長吉ヘノ貸金ハ全ク詐欺ニテ現金ヲ貸渡サ、ル者ナリト判定セラレタルモ金員ヲ受取ラズシテ證書ヲ渡メヘキノ理由ナリ加ルニ公正ノ證書ニテ長吉カ身代限ノ際進訴ノ上裏書トナリタル者ニテ決テ不正ノ成立ニアラサルニ田村新二等カ口頭無證ノ片言ヲ信據シテ詐欺取財ト認ラレタルハ不當ナリト云ヒ其第二ハ三戸利一カ金貳拾七圓

ノ受領證ヲ偽造シタルモノト判定セラレタルモ利一カ直筆ナリ又林素介ハ宿怨アルヲ以テ利一ト謀リ告發シタルモノコト其證言ハ證ト爲スニ足ラズ因テ原裁判破毀アリテト要求セリ

對手入檢事補湯淺龍輔ハ原裁判允當ナリト趣旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ

上告ノ理由トスル處詐欺ニアラス眞正ノ貸金ナリ又偽造證ニアラス是亦眞正ノモノナルコト宿怨アル證人ノ證言ヲ以テ冤罪ニ陥リタリト云フニアリト雖モ要スルニ原裁判所カ各種ノ證憑ニ依リ認メタル事實ニ對シテ不服ヲ唱ヘ又ハ採證ノ不當ヲ唱フルニ過キサレハ破毀ヲ求ムルノ原由ト爲スヲ得ス何ントナレハ治罪法第百四十六條ニ被告人ノ自狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ證憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリ加ルニ同第四百十條ニ上告ヲ爲シ得ル場合ヲ定メタル第一ヨリ第十一ニ至ル明文ニ適合セサル訴旨ナレハナリ因テ上告ノ趣旨相立タルモノト判定ス以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却スル者也

第一千二十六號

○判文(煙草稅則犯)明治十六年四月十一日上告
同 十七年四月廿二日發付

兵庫縣攝津國神戸區下山手

通七丁目平民

國松 藤兵衛

三七五

明治十五年十二月十四日神戸輕罪裁判所ニ於テ右國松藤兵衛ハ烟草出賣鑑札ヲ借り受ケ烟
草ヲ行商シ其烟草貳拾個ニ印紙ヲ貼用セザリシ罪アリト判定シ明治九年第五十九號布告烟
草稅則追加第三則第十三條明治八年第五百五十號布告烟草稅則第三則第七條ニ依リ鑑札取上
ケ其鑑札料十倍ノ科料金壹圓及印紙稅高廿倍ノ罰金四圓三拾八錢ニ處スル旨宣告セリ

原裁判所檢察官檢事補渡邊音次郎於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ上告ヲナシタル要旨ハ本案
被告事件ハ第一出賣鑑札ヲ借受ケ烟草ヲ行商シタルト第二烟草ニ印紙ヲ貼用シ置カザリシ
ト第三無鑑札ニテ小賣シタルト三罪ナル故右三個ノ行爲ニ對シ公訴ヲナシタルニ原裁判所
ハ右ノ内無鑑札ニテ行商ヲナシタル行爲ニ對シ判決ヲ下サ、リシハ不當ナリト云ニアリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事加納久宜ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ
本件ハ原裁判言渡書ニ掲載スル如ク他人ノ烟草出賣鑑札ヲ借り受ケ烟草ヲ行商シ其烟草ニ
印紙ヲ貼用セサル事實ナリトス故ニ此犯罪ヲ斷スルニ明治九年第五十九號布告烟草稅則追
加第三則第十三條明治八年第五百五十號布告烟草稅則第三則第七條ヲ適用シタルハ相當ナリ

ト雖モ果シテ前記ノ事實ナリトセハ被告ハ他人ノ鑑札ヲ借り受ケ行商シタルノミニ止ラス
無鑑札ニテ烟草ヲ小賣シタル犯罪アルヤ明瞭ナリ然ラハ則チ此罪ニ對シテハ明治八年第百
五十號布告烟草稅則第三則第三條ヲ適用スヘキ者ナリトス然ルニ原裁判所於テ右等ノ公訴
ヲ受ケナカシ無鑑札ニテ小賣營業ヲナシタル所爲ニ對シ判決ヲ下サ、リシハ不法ノ裁判ナ
リトス因テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ大坂輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セ

シムル者ナリ

第千二十七號

○判文(恐喝證書騙取)明治十六年五月十一日上告
同 十七年四月廿二日發付

山形縣羽前國西田川郡茅原
村平民

五十嵐藤次郎
明治十六年四月
四十年

同縣同郡鶴岡幸町士族
久生父

松平久治
明治十六年四月
五十四年

同縣同郡鶴岡下着町平民市
太郎父

齋藤力藏
明治十六年四月
四十六年

明治十六年四月二十六日山形輕罪裁判所酒田支廳ニ於テ右五十嵐藤次郎外二名ノ被告事件
ヲ審判シ被告人等ハ梅木友吉ハ對スル預リ金ノ利子辨償義務ヲ免カレシメン爲メ人ヲ恐喝
シテ證書ヲ騙取シタルモノト認定シ刑法第三百九十條ニ依リ各重禁錮三月ニ處シ罰金五圓

三七七

三七七

三七七

三七七

三七七

○附加ノ尙ホ刑法第三百九十四條ニ依リ七月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ服セズ被告五十嵐藤次郎外二名ハ上告セリ其要領ハ本案ノ原由ハ告訴人梅木友吉先代三藏ヨリ當時村方へ米穀ヲ預ケ置タル處梅木次郎兵衛肝煎勤役中金員ニテ梅木友吉へ對シ悉皆相渡シタルヲ未タ受取ラサル旨再ヒ掛合テ受ルノミナラス暴言ヲ加フルニ至リタルニ付被告人等ニ於テ警察署へ同道スヘキ旨再三應答ナシタル所之ニ恐怖シ謝罪シタルニヨリ爾後斯ル舉動ナカランメン爲メ本件證書ヲ領掌セリ然ルテ預リ金ノ利子辨償義務ヲ免カレンメン爲メ梅木治郎兵衛ト共謀シ恐喝シテ證書ヲ騙取シタリト認定セラレタルハ原裁判官ガ偏見ニテ事實ノ審理ヲ盡サス片言ヲ採リ判定シタル不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人檢事中西盾雄ハ原裁判ハ相當ナルヲ以テ之ニ對シ上告スヘキ理由ナキモノト思料スル旨答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案被告事件ノ如キハ原裁判所ニ於テ證據微憑ヲ審擇シ以テ被告人等ハ預リ金ノ利子辨償義務ヲ免カレン爲メ人ヲ恐喝シテ證書ヲ騙取シタルモノナリト事實ヲ判定シ之ヲ法律ニ照シ相當ノ刑ニ處シタルモノナレハ毫モ不法ト認ムヘキ點アルニ非ス然ルニ上告ノ旨趣ハ事實ノ有無探證ノ當否ヲ論辨スルニ過キヌンテ治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉ルヲ以テ上告ノ理由ナキモノトス

右ノ如シナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ遵ヒ上告ヲ棄却スルモノナリ

第一千二十八號

○判文(偽證) 明治十六年四月三十日上告
同 十七年四月廿二日發付

兵庫縣攝津國有馬郡深谷村
平民

向井 由藏
明治十六年三月三十五年

右由藏ハ被告事件ニ付明治十六年三月二十二日神戸輕罪裁判所ニ於テ偽證ノ罪アリト認メ刑法第二百十八條第二項同第八十九條同第九十條ニ依リ十五日ノ重禁錮ニ處シ壹圓ノ科料ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ植田吉介カ毆打創傷ノ被告事件ニ付證人トシテ訊問ヲ受ケタル際知り得タル條件ヲ知り得サルモノ、如ク陳述セシヲ以テ始メテ偽證ノ罪相生シタルモノナリ而テ刑法ニ於テハ偽證ノ罪ヲ罰スルニハ治罪法第百八十條ニ規定スル所ニ從ヒ宣誓ヲ爲シタル後證人ノ資格ヲ有セル者ニ限り宣誓ヲ爲サ、ル者ハ偽證ノ罪アリト云フヘカラス況ンヤ保證書ヲ渡シタルハ被害者ノ需メニ應セシモノニテ裁判所ニ上呈セルモノニ非サルニ於テオヤ然ルニ原裁判所ハ該保證書ニ根據セシモノ、如ク判定シタルハ事實ノ理由ノ齟齬スルモノナリ且右保證書ヲ以テ犯罪ノ用ニ供シタルモノトセ

○刑法第四十三條第二項ヲ適用シ官ニ沒收スヘキヲ其言渡シ無キハ擬律錯誤アル不當ノ裁判ナリト云フニアリ

對手人檢事補渡邊音次郎ハ上告趣旨ノ理ナキヲ辨駁シ然レモ罰金ヲ減シタルトハ只其主刑ノミヲ科スヘキモノナルニ原裁判ハ附加ノ科料壹圓ヲ科シタルハ擬律錯誤ナリト答辨

ニ併セテ附帶上告セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ上告理由トスル被害者ノ需メニヨリ渡シタル保證書ハ偽證ノ一付毫モ關係セサルモノナルニ原裁判所ハ該證ニ根據セシモノ、如ク認メラレタリ果テ然ラハ犯罪ノ用ニ供シタルモノナルニ之ヲ沒收セラレサルハ不當ナリト云フト雖モ治罪法第四百四十六條第二項ニ被告人ノ自狀官吏ノ檢證調書證據物件云々其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ事實裁判所ニ一任セシモノナレハ之カ當不當ヲ論スルモ上告ノ理由ト爲スヲ得ヌ又其證書ハ犯罪ノ用ニ供シタルト認メラレハ之ヲ沒收セサルモ敢テ不當ニアラサルナリ又其宣誓セサル前ノ偽證ナレハ罪トナラスト云フコアルモ縱令宣誓セヌ又ハ事實參考ノ證人ノ陳述タルモ事實裁判官ノ採テ以テ心證ヲ作ルノ材料タルヘキモノナレハ偽證ノ爲メ其害ノ及フ處何ソ正當ノ資格アル證人ノ偽證ト異ナルノ道理アラシヤ故ニ偽證罪ノ成リ立タサルモノナリトノ上告モ亦相立タズ附帶上告ノ理由トスル附加ノ科料ヲ科シタルハ法律ニ明文ナキ處分ニテ不當タルヲ免カレ得可カラサルモ單ニ本刑ノミヲ科スヘキモノナリトノ論旨モ亦其當ヲ得サルモノナリトスレハ十五日以上六月以下ノ重禁錮壹圓以上二十圓以下ノ罰金ヨリ二等ヲ減雖モ其長期罰金ノ部内ニアリテ未ダ以テ之ヲ減シ盡シタルモノニアラサレハ貳圓以上拾圓以下ノ範圍内ニ於テ宜其刑ヲ定メヌシハアルヘカラス然ルニ原裁判ハ此ノ範圍ヲ出テ科料

ヲ附加シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト判定ス

以上ノ如ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ノ全部ヲ破毀シ直ニ裁判スルノ左ノ如ク

向井 由藏

原裁判言渡ニ掲ケタル事實理由各證據ニ依リ刑法第二百十八條第二ニテ罰スヘキ輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽證ヲ爲シタル罪ナリトス
 其第二百十八條第二ニ輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ一年以上以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ストアルニ該ルモ酌量スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條同第九十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ十五日以上六月以下ノ重禁錮貳圓以上十圓以下ノ罰金トナル

因テ被告向井由藏ヲ十五日ノ重禁錮ニ處シ貳圓ノ罰金ヲ附加スル者也

第千二十九號

○判文(偽造貨幣行使) 明治十六年十一月一日上告 同 十七年四月廿二日發付

高知縣土佐國香美郡岸本村

士族無職業

川村 覺馬

明治十六年十月二日高知重罪裁判所ニ於テ右川村覺馬ニ對シ被告ハ偽造ノ舊金銀ナルヲ

知テ之レヲ賣却シ其後之レヲ抵當ノ姿ニ取持ヘタルト判定シ刑法第九十條第百八十二條ニ依リ無期徒刑ヨリ二等ヲ減シ仍ホ情狀ヲ酌量シ本刑重懲役ヨリ二等ヲ減シ同法第六十九條ニ照シ重禁錮二年以上五年以下ノ範圍内ニ於テ重禁錮二年ニ處シ同法第九十一條ニ依リ監視一年ヲ付スル旨ヲ言渡シタリ被告覺馬ハ之ヲ不當トシ上告及ヒタリ其趣意書及ヒ退仲ノ要旨ハ偽造ノ舊金銀ナルヲ知テ行使シタル覺ヘアルコトナシ只其惡質ナルヲ知テ尙中「シマ」ハ抵當ニ差入レタル而已又假リニ偽造物タルヲ知テ收受行使シタリトモ舊金銀貨ハ明治七年第九十三號明治九年第九十五號公布ヲ以テ已ニ民間取引ヲ被廢通常地金ト一般ナレハ被告ノ所爲ハ法律ノ支配ヲ受ク可キ限リニアラス隨テ重罪裁判所於テモ公訴ヲ受理判決シ能ハサルモノナリ旁治罪法第四百十條ノ項目ニ照シ破毀ノ原由アルモノト云フコトアリ對手人檢事補相原市之丞カ答辨ノ要ハ被告ハ惡質ノ金銀ト心付ナカラ低價ニ買取島中「シマ」ハ高價ニ賣渡シタリ又其抵當證書ノ如キハ賣買ノ當時授受セシモノニ非サレハ素ヨリ探ルニ足ラズ到底上告ノ旨趣ハ其理由ナキモノト云々シタリ

茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニヨリ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

被告カ偽造ノ舊金銀タルヲ知テ行使シタル覺ヘナシトノ點ハ專ラ事實認定ニ對スル非難ニ過キサルヲ以テ上告ノ原由ト爲ヌヲ得ヌ又舊金銀貨ハ已ニ地金ト變シタレハ假令情ヲ知テ行使スルモ罪トナル可キ道理ナシトノ點ハ舊金銀貨ハ純平タル地金ナリトノ謂ヒナル可クセントモ其價格比較ヲ以テ上納ニ使用スルコト許サレタルモノナレハ例ヒ民間ノ取引ハ廢止セラレタルモ未ダ全ク通貨タルノ効ヲ失ヒタルモノニ非サレハ通貨ヲ以テ論ス可キハ

勿論ナリ故ニ原裁判所ニ於テ被告ハ偽造ノ舊金銀貨ナルヲ知テ收受行使シタル者ト判定シタルハ當然ニシテ本案上告ハ治罪法第四百十條ノ各項ニ適スル原由ナキモノトス依テ同法第四百二十七條ニ從ヒ上告ハ棄却スルモノナリ

第三十號

○判文(詐欺取財) 明治十六年十月三十日上告
十七年四月廿二日發付

神奈川縣橫濱區住吉町三丁
目三十四番地平民

森 忠次郎

明治十六年十月
三十五年

右森忠次郎カ被告事件ニ對シ明治十六年十月六日橫濱輕罪裁判所ニ於テ被告ハ橫濱燈臺局職工ニ雇ハレ會テ同局ヨリ下ケ渡シタル鍍拾六挺ヲ明治十六年三月四日以來三ヶ度ニ鈴木梅吉ハ賣却シタル者ト判定シ刑法第三百九十五條ニ照シ重禁錮二月ニ處スト言渡シタリ

原裁判所檢事補島村文耕ハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲シタリ其要領ハ本件ニ就テ警察署カ被告ヲ訊問セシニ燈臺局ノ職工ナルカ故ニ官ヨリ貸渡シニ相成シ品ヲ販賣セシナリト申立タリ然ルニ豫審並公判廷ニ於テ燈臺局ノ官吏ヲ喚問セシニ被告ハ渡シタル物品ハ其員數一モ不足スル所ナシト證言シ而テ被告ハ前口供ヲ翻異シテ東京銀坐ニ於テ買取タリト申立タリ斯ノ如キ事實ナルヲ以テ被告カ前キニ官ノ貸渡品ヲ費消セシトノ事實ハ該局官吏ノ證明ト共ニ消滅セシ者ニシテ被告カ該物品ヲ買得タルノ場所ヲ證明シ能ハサルヲ以テ思

考スレハ燈臺局ニ附屬スル處ノ鑓ヲ竊取セシメテ明シカナリ依テ被告ノ所爲ハ刑法第三百六十六條同第三百七十六條ヲ適用スヘキ者ナルニ原裁判所ニ於テ同第三百九十五條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤アル裁判ニシテ治罪法第四百十條第十項ニ相當スル上告ノ原由アル者ト認ムト云フコアリ

被告森忠次郎ハ右ノ上告ニ對シ答辨セズ本院ニ於テ專任判事ノ報告ニヨリ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

本案上告ノ旨趣タル被告ノ所爲ハ燈臺局ニ附屬スル鑓ヲ竊取シタルコト證人ノ陳述及被告ノ申立ニヨリ明カナルニ原裁判所於テ該局ヨリ下ケ渡シタル鑓ヲ賣却シタル者ト判定セシハ不當ニシテ從テ擬律ノ錯誤ニ出タル裁判ナリト云フコアレハ凡ソ諸般ノ證憑ニ依リ事實ノ認定ヲ爲スハ原裁判所ノ特權ニシテ固ヨリ本院ニ於テ之カ當否ヲ判別スルノ限リニ非ス而テ原判文(被告ハ横濱燈臺局職工ニ雇ハレ會テ同局ヨリ下ケ渡シタル鑓拾得テ明治十六年三月四日以來三ケ度ニ鈴木梅吉ヘ賣却シタル者ト判定ス)トアリテ即被告ノ所爲ハ受托ノ物品ヲ費消シタル者ト認メタルコト明カナレハ玆ニ原裁判所カ刑法第二百九十五條ヲ適用セシハ相當ニシテ治罪法第四百十條第十項ニ規定セル擬律ノ錯誤ナキ者トス
右ノ理由ナルヲ以テ本案上告ハ之ヲ棄却ス
第三十三號

○判文(詐欺取財)明治十六年四月廿日上告
同十七年四月廿二日發付

廣島縣備後國深津郡手城村

士族荷車挽業

高橋六藏

明治十五年十二月

五十年

同縣同國同郡同村平民農業

藤井彦三郎

明治十五年十二月

三十八年六月

右高橋六藏外一名カ被告事件ニ付明治十五年十二月二十五日尾道輕罪裁判所ニ於テ詐欺取財證書偽造ノ罪アリト認メ刑法第四百條第二百十條第一項第二百一十一條第二百一十二條第三百九十九條第一項第三百九十四條第三百九十七條第三百九十九條第二項等ニ依照シ重禁錮二月ニ處シ罰金五圓六月ノ監視ヲ付スト言渡シタル裁判ニ對シ被告六藏外一名ハ上告セリ

被告高橋六藏カ上告ノ要領ハ岩田良助ヘ金百二十圓ヲ預ケ其證書ヲ受取リタルモノナリ然ルニ藤井彦三郎ト共謀シテ該證書ヲ偽造セシモノト爲シ裁判セラレタルハ越權ノ處分ナリト云フコアリ

藤井彦三郎カ上告ノ要領ハ證書ノ筆跡カ被告ノ手跡ニ類似スルモ其實決シテ被告カ偽造セシモノニ非ス加フルニ其印影ハ岩田良助ノ印影ニ相違アラサレハ其證書ノ偽造ニ係ラサル事分明ナリ然ルニ原裁判所ノ爰ニ出サリシハ擬律錯誤ニ付破毀ヲ求ムルト云フコアリ
對手人檢事補永井次郎ハ上告ノ不理ナルヲ辨駁シ原裁判相當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審按スルコ
上告ノ要旨ハ本案證書ハ真正ノ成立コシテ偽造ニアラス然ルチ原裁判所カ偽造ト爲シタル
ハ越權ノ處分擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニアリト雖モ其越權ノ處分或ハ擬律錯誤トスル理
由ハ唯證書ヲ偽造セシモノニ非ス真正ノ成立ナリト辨駁シ事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサ
レハ無効ノ上告ナリトス何ントナレハ原裁判所カ各種ノ證據ニ依リ其事實ヲ認定シタルモ
ノコト之レヲ認定スルハ裁判官ノ職權内ニアリ治罪法第四百十條各項目外ニ渉ル論旨ナレ
ハナリ因テ上告ノ趣旨相立ス

然ルニ原判文ヲ閱スレハ高橋六藏外一名ハ岩田良助ヨリ金百二十圓ヲ詐キ取ラント藤井彦
三郎ト共謀シ岩田良助ノ金百二十圓預リ證書ヲ偽造シ之ヲ以テ出訴ニ及ヒタルモ敗訴シテ
其目的ヲ遂ケサリシモノト認定シトアリナカテ其刑ヲ適用スルニ至リ預證書偽造行使未遂
ノ罪云々トアリ夫レ被告等ノ行爲タル既ニ偽造ノ證書ヲ以テ出訴ニ及ヒタル上ハタトヘ目
的トスル金圓ヲ詐取スルニ至ラサルモ證書ヲ行使シタルモノニテ未遂ト云フ可ラス然ルチ
未遂犯罪トシ刑法第百十二條ヲ適用シ減等シタルハ擬律ノ錯誤アル不當ノ裁判ナリトス
以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ棄却シ治罪法第四百二十九
條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ裁判スル左ノ如シ

高橋 六藏
藤井彦 三郎

右ノ理由ナルヲ以テ被告カ所爲ハ原裁判所ニ於テ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ詐

欺取財未遂ノ罪ハ刑法第三百九十條第三百九十四條第三百九十七條第百十二條ニ當リ證書
偽造ノ罪ハ刑法第二百十條第一項第二百十二條ニ該當スニ罪俱發ニ係ルヲ以テ刑法第百條
第三項ニ從ヒ一ノ重キ證書偽造ノ罪ヲ以テ論シ刑法第二百十條第一項第二百十二條ニ依リ
各重禁錮四月罰金十圓ヲ附加シ十月ノ監視ニ付スルヲ言渡スモノ也
但偽造證書ハ沒收シ裁判費用ハ被告連帶負擔スヘシ
第千三十二號

○判文(官吏抗拒)明治十六年六月一日上告
同 十七年四月廿二日發付

愛媛縣伊豫國温泉郡新町士
族古道具商

越 智 正 庸

明治十六年五月
三十四年

右正庸カ被告事件ニ付明治十六年五月七日松山輕罪裁判所カ第一脅迫第二官吏侮辱第三官
吏職務ヲ行フニ當リ暴行ヲ以テ抗拒シ第四ハ棄毀器物ノ罪アルモノト認メ刑法第百條末項
ニ依リ一ノ同第百三十九條同第百四十條ニ依リ三年ノ重禁錮ニ處シ三十圓ノ罰金ヲ附加ス
ト言渡タル裁判ヲ不當ナリトシ被告正庸ハ上告ヲ爲シタリ其要領ニ曰ク裁判言渡ニ井手「
ミツ」ヲ殺サント脅迫シタリトアルモ決シテ脅迫セシニアラス事實相違セリト云ヒ又巡查
ニ對シ暴行ナシタルニ非ス暴行ヲ加ヘラレ止ムナク之ヲ防衛シタルモノナリ而シテ警察署
ニ於テハ苛酷ノ所爲ヲ受ケタレハ此事實ヲ口述トシ告訴ノ義申立タルモ一應ノ訊問モナク

裁判官渡サレタルモ被告人ハ無罪ノモノナレハ更ニ公明至當ノ裁判ヲ仰クト要求セリ退テ再ニ辨明書ヲ以テ上告趣意ヲ擴張シ被告人ハ無罪ノモノナリトノ趣意ヲ反覆辨述セリ

對手人檢事補山下興作ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判毫モ不當ニアラスト答辨セリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ上告ノ理由トスル脅迫シタル事實アルコアラズ巡査ニ對シ暴行ヲ爲シタルコアラズ却テ暴行ヲ加ヘシレタリ又ハ警察署ノ苛酷ノ所爲ヲ受ケタリト云フト雖モ原裁判所カ各種ノ徵憑ニ依リ認定セタル事實ニ對シ徒ニ不服ヲ訴フルニ過キヌシテ治罪法第四百十條ニ定メタル上告ヲ爲シ得ヘキ各項目ニ適當セサル訴旨ナルニ因リ上告ノ趣旨相立タルモノト判定ス以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ

第三十三號
○判文(飲料水汚穢)明治十六年十一月一日上告
同 十七年四月廿二日發付

鹿兒島縣薩摩國川邊郡坊村
平民

出口仁左衛門
明治十六年九月

右仁左衛門カ飲料水汚穢被告事件ニ付鹿兒島縣裁判所ニ於テ明治十六年九月二十日刑法第二百四十四條ヲ適用セシ裁判ニ對シ檢事補江貞繼ハ之ヲ不當ナリトシ上告セシ要領ハ被告カ所爲タル水質ヲ變セシメタルコアラズ又腐敗セシメタルニ非ス一杓ノ人糞ヲ投棄シ

瞬間汚穢セシメタル事實ナレハ刑法第二百四十三條ヲ適用セサル可カラズト云コアリ對手人出口仁左衛門ハ答辨セシ

大審院ニ於テ治罪法第四二十五條ノ法式ニ從ヒ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聞キ以テ判決スル左ノ如シ

原裁判官渡シ略「冷泉場飲用水ノ筒ヲ取外ケ且其水源へ人糞ヲ投棄シ該水質ヲ變スルニ至ラシメタルモノ云々ト」夫被告カ所爲タルヤ承審官ニ於テ被害者ノ告訴及ヒ各般ノ證憑ニ據リ前項ノ事實ヲ判定セシ上ハ刑法第二百四十四條ヲ適用セシハ有ル可カラズ抑事實ノ判定ニ對シテハ他ヨリ輒シ其有無ヲ批難シ之ヲ動カシ得可カラサルハ治罪法第四百六十六條ニ規定スル所ナルニ本案上告ハ全ク事實ノ有無ヲ左右スル論旨ナレハ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲ヌヲ得サルモノトス

右ノ理由ナルニ依リ治罪法第四百二十七條ニ基キ本案上告ヲ棄却スルモノ也

第三十四號
○判文(竊盜及詐欺取財)明治十六年四月十一日上告
同 十七年四月廿二日發付

福井縣越前國足羽郡東上町
平民

水野茂三郎
明治十六年一月

右茂三郎カ被告事件ニ付明治十六年一月二十六日福井縣裁判所ニ於テ被告ハ犯罪ノ當時

癡狂病ニ罹リタルモノト認め刑法第七十八條治罪法第二百五十八條第二項ニ依リ免訴ヲ言
渡シタルヲ不當トシ檢事補吉岡信徳カ上告ノ趣旨ハ明治十五年十月十一日ノ前後即チ十日
十二日ノ兩日モ被告カ癡狂病ニ罹リタルノ事實ハ其證人ノ證書ニ依テ明瞭ナリト言渡シタ
ルハ事實ノ錯誤ニ出ルモノナリ本案ノ盜罪ハ決シテ癡狂病ニ因テ精神ノ喪失シタル所爲ナ
リト證明シタル者一ハモ在ラサルナリ然ルニ馬車ヲ雇ヒタル時及ヒ馬車ヲ飛下タル時ノ摸
擬ヲ以テ癡狂病ニ罹リ知覺精神ヲ失ヒ居者ト認定スト漠然タル一語ヲ以テシ學術上ニ涉ル
病人ノ一容跡ト認メタル該所爲ニ對シ毫モ醫術ノ力ヲ假ラズ判定ヲ爲シタルハ即チ言渡其
理由ヲ付セサルモノニテ不法ノ裁判ナレハ破毀ヲ求ムト云コアリ

對手人被告水野茂三郎ハ上告趣意書送達ヲ受ケルモ答辨書差出サス
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審接スルニ

上告ノ要旨ハ被告カ竊盜ハ精神喪失シタルノ所爲ニ非スト云フニアリテ證據判斷ノ當否ヲ
論難スルニ外ナラズト雖モ被告ハ犯罪ノ日即チ明治十五年十月十一日ハ果シテ癡狂病ヲ發
シ居タルヤ否其發時ニ於テモ之レヲ鑑診スルニ由ナカリシモ癡狂病ヲ患タル者ナルハ大岩
圓内田清増永伊三郎等ノ證書ニ徵シテ視ルニ足り而シテ武島「ハル」川村「フサ」澤崎清七加
藤久八等ノ證書ニ依ルニ其十日十一日ノ舉動タル尋常知覺精神ヲ具有スル者ノ所爲ニ非サ
ルニ似タリ且福井病院長河野徭外一名ノ診斷書ヲ閱スルニ「明治十五年十月十一日前後ノ
舉動モ亦推察スルニ自己ノ權力威風ニ矜リ粗暴痴呆ノ品行ニ屬スル所爲居多ニシテ云々」
トアリ蓋シ原裁判官ハ是等ノ證書ヲ必證ノ資料ト爲シ犯時知覺精神ヲ喪失シタルモノト認

定シタルモノナル可ケレハ敢テ無證ノ判決ト云フヲ得ス因テ本案上告ハ効ナキモノトス
右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ棄却スルモノナリ

第一千三十五號

○判文(證券印稅犯則)明治十六年四月十六日上告
十七年四月廿二日發付

札幌縣石狩國厚田郡別刈村
平民

瀬賀喜三郎
明治十五年十二月
四十三年

同縣同郡同村平民

山崎淺吉

明治十五年十二月
四十三年生月不詳

明治十五年十二月廿七日札幌輕罪裁判所於テ被告喜三郎外一名カ證券印稅規則違犯事件ヲ
審理シ該規則第四則第一條ニ依リ淺吉ハ科料金十錢喜三郎ハ科料金五錢ニ處スト言渡シタ
ル裁判ニ對シ同裁判所檢事補岡田博カ上告セル其要旨ハ抑證券印稅規則ノ主要ハ納稅セシ
ムルノ點ニアリテ其貼用シタル印紙ニ調印セサル者ヲ罰スルカ如キハ唯タ再用ノ弊ヲ防ク
ニアリトス果シテ然レハ官ニ發覺前ニ於テ證書受取人カ印紙ヲ貼用セシ上ハ其罪隨テ消滅
スヘクノ即チ本案被告ノ内淺吉ニ對シ言渡シタル裁判ハ適當ナルモ喜三郎ニ對シ證券印稅
規則第四則第八條ニ依リ處斷セサリシハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニアリ對手人被告喜三

三九二
郎外一名ハ警辨書差出サズ茲ニ大審院於テ專任判事ノ報告及立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルヲ左ノ如シ

本件ヲ審案スルニ被告淺吉ハ約定證書ヲ白紙ニ認メ相渡シ喜三郎ハ之ヲ受取リタルモノト認メ原裁判所於テ證券印稅規則第四則第一條ニ依リ淺吉ハ科料金拾錢喜三郎ハ科料金五錢ニ處スト言渡シタル裁判ナレハ假令ヒ喜三郎カ貼用セル印紙ニ漏印セサルニ付同規則第四則第八條ニ依リ過料ニ處スヘキモノトスルモ淺吉ニ對シ言渡シタル過料金額ヨリ重料スヘキモノニアラサレハ即チ本案ハ違警罪ノ範圍ニ於テ過料ニ處スヘキモノニ過サレハ上告論旨ノ當否如何ヲ問ハズ明治十四年第十四號布告ノ旨ニ依リ本件上告ハ成立タサルモノナリトス因テ該上告ハ棄却スル者也

第千二十六號
○判文(酒造稅犯則)明治十七年四月八日上告
同年四月廿二日發付

山形縣羽前國南置賜郡米澤
御小者町士族

橋爪 茂 太

犯時卅三年八ヶ月

右茂太カ被告事件ニ對シ明治十七年三月一日山形縣裁判所米澤支廳ニ於テ被告ハ明治十六年十二月廿七日ノ兩日ニ在リテ免許鑑札ヲ受ケス酒類壹石五斗八合密造シタル者トシ明治十三年第四十號布告附則第三條同第廿九條明治十五年第六十一號布告第三條ニ照依シ

仍ホ明治十四年第七十二號公布第三條ニ依リ免許稅金額三拾圓ノ二倍ノ罰金六拾圓ニ處シ密造ニ係ル酒類及ヒ酒桶二號酒樽壹個ハ之ヲ沒收スト言渡シタリ

右裁判確定ノ後被告カ再審ノ訴ヲ爲シタル要領ハ明治十六年十二月廿五日自家用料ノ酒造届ケヲナシ稅金ヲ上納シタルコトハ公正書換面ニ依テ明ラカナリ且釀造シタルハ同年十二月廿七八日ノ兩日ナレハ素ヨリ法ノ尤ムヘキナシ而シテ今日ノコトニ至リシハ當時其鑑札ノ自家ニ現在セサリシヲ以テ酒造檢査員カ容易ク密造ナリト誤認シ不實ノ告發ヲナシタルニ依リ那役所ニ於テ明治十六年十二月廿七日下附シタル鑑札ヲ徵收シ同年一月廿九日附ノ鑑札ニ書換タルコト起因スル者ナレハ所謂事實ノ錯誤ニ係ル條件ナルヲ以テ治罪法第四百三十九條第五項ノ明文ニ基キ再審ヲ求ムト云フニ在リ

同應檢事西村實ハ被告カ再審ノ訴ハ其理由ナキ旨ヲ述ヘ治罪法第四百三十九條第五項ニ適當セサル者ト思考スルヲ以テ棄却アリ度旨意見書ヲ送致セリ

大審院檢事長渡邊騷ハ酒造稅則各條ニ散見スル免許鑑札ヲ受ルトハ現ニ之ヲ受得タル以上ヲ云フ者ニシテ實ニ鑑札下付ノ手續トシテ其料金ヲ納メタル迄ヲ包含セシムルノ法意ニ非ルヲ明ラカナリ而シテ上告人カ提出セル鑑札料受取證書ハ其鑑札下付ノ手續ヲ盡シタル事實アルヲ見ルニ足ルヘキモノ已ニ之ヲ受得タル證トハ認メ難キニ依リ原裁判ノ錯誤ヲ證明スルノ効力ナキ者ト思考スル旨意見書ヲ付セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百四十四條ノ公式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ
被告カ再審ノ理由トスル所ハ本院檢事長意見ノ如ク原裁判ノ錯誤ヲ證明スルノ効力ナク到

三九四
底治罪法第四百二十九條各項ニ適當セラル上訴ナルヲ以テ之ヲ棄却スルモノナリ
第三十七號

○判文(證書偽造行使)明治十六年四月廿七日上告
同十七年四月廿二日發付

大坂府大和國葛上郡檜原村
平民湯屋業

土谷 久治

明治十六年三月
三十七年十一月
大坂府大和國葛上郡御所町
平民雜業

植田 熊次郎

明治十六年三月
三十年二月

證書偽造財物騙取被告事件ニ付明治十六年三月十五日大坂輕罪裁判所奈良支廳ニ於テ刑法
第三百九十條同第三百十二條及ヒ同第二百十條ニ依リ同第三百條末項ニ照シ其犯情重キ刑法第
二百十條ニ從ヒ各重禁錮四月ニ處シ罰金四圓ヲ附加シ尙ホ同第二百十二條ニ照シ監視六月
ヲ附スト旨渡タル裁判ニ服セテ被告土谷久治外一名ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ第一事實ヲ
詳陳シ本件證書ハ被告等ガ偽造シタルモノニ非ストノ一第二ハ假リニ偽造シタリトスルモ
捺印セシ不完全ノ證書ナレハ他ヲ害スルコト足ラサルモノナルヲ以テ刑法第二百十條ノ刑ニ
該當スルモノニアラザルトノ一第三ハ該證書ハ明治十二年八月八日ニ造リ同十四年ニ土谷

久治カ奈良區裁判所へ勸解ヲ仰ギタルモノニテ其五條治安裁判所へ訴ヘタルハ二回目ナレ
ハ偽造行使罪ハ新舊法ヲ比照シ處斷スヘキニ單ニ新法ニ依リタルハ不當ナリトノ一第四ハ
被害者岡田山三郎ノ名前ハ土谷藤吉カ記入シタルモノナレハ同人モ亦處斷アルヘキニ之ヲ
不問ニ措キ被告二人ノミヲ本刑ニ處斷シタルハ不當ナリト云フニ在リ

對手人檢事補御座中治ハ上告趣旨ハ不當ニシテ原裁判ハ破毀ノ理由ナキ旨答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處ハ四ヶノ點ナリトス其第一第二第四ノ點ハ之ヲ要スルコト事實裁判官ニ
任從シタル權内ニ侵入シ事實認定ノ當否探證ノ如何ヲ論難スルコト過スシテ治罪法第四百十
條ノ項目外ニ涉ルヲ以テ到底破毀ノ理由ト爲ヌ得サルモノトス其第三點ハ明治十二年
該證書ヲ偽造シ一次之ヲ行使シ明治十五年ニ至リ再ヒ之ヲ行使シタルモノナレハ新舊法ヲ
比照シ輕キ舊法ニ從フヘキモノナリト云フニ付訴訟書類ヲ檢案スルニ該偽證書ハ再度行使
シタルモノニ相違之ナキモ其第一ノ所爲ハ舊法ニ在リテハ改定律例第二百四十六條ニ依リ
不應爲ノ輕重ニ問ヘキモノニシテ新法ニ在リテハ刑法第二百十條ニ該當スルヲ以テ同法第
三條末項ニ照シ新舊法ヲ比照スレハ舊法輕キヲ以テ不應爲ノ輕重ニ問フ可キモノトス第二
ノ所爲ハ新法ノ管理スルモノナレハ即チ刑法第二百十條ニ依リ四月以上四年以下ノ重禁錮
ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス可キモノナリトス而シテ其所爲ハ各次ニ其刑ヲ
科スヘキモノナレハ即刑法第百條ニ照シ數罪併發ノ例ヲ用ヒ其重キ刑法第二百十條ニ依リ
處斷スルヲ相當ナリトス然ルニ原裁判所カ舊法部内ノ犯罪ニ對シ其刑ヲ言渡サハルハ少シ

シ瓊瑠ヲ免カレサルモノ、如シト雖モ其結果ハ毫モ本案ニ利害ヲ暨ホサ、レハ被毀ノ限ニ
アラサルモノトス因テ上告趣旨ハ總テ相立タルモノナリトス右ノ理由ナルヲ以テ治罪法
第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スルモノ也
第三十八號

○判文(誹毀)明治十六年五月廿五日上告
同 十七年四月廿二日發付

新潟縣越後國中頸城郡高田
四ノ辻町士族當時三ノ辻町
寄留高田新聞假編輯長

設 樂 正 吉

明治十六年五月
十九年二月

右正吉ヲ誹毀被告事件ニ付明治十六年五月八日新潟縣裁判所高田支廳ニ於テ刑法第三百
五十八條ニ依據シ仍ホ同法第八十一條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮十一日ニ處シ罰金三
圓七拾五錢ヲ附加スト言渡シテ裁判ニ對シ被告正吉カ上告シタル要旨ハ被告カ新聞紙ニ
掲載シタル富田直與ニ非スシテ他ノ富田ヲ指シタルモノナルニ單ニ直與ノ陳述ヲ信シ前後
反對ノ文詞ヲ掲ケ以テ直與ヲ誹毀シタル罪アルモノト斷了セラレタルハ不當ナリト云フニ
在リ同裁判所檢事補堀小太郎ハ原裁判至當ニシテ上告ノ非理ナルヲ答辨セリ
爰ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ上告代官人岡山兼吉ノ陳述及ヒ立會檢事ノ意見ヲ
聽キ之ヲ審察スルニ被告カ上告論旨タル承審官ノ職權ヲ以テ判定シタル事實探證上ニ對シ

徒ラニ不當ヲ鳴スニ過キス且原判文ヲ檢スルモ前後矛盾ナルノ文詞アルヲナケレハ到底上
告ヲ爲シ得ヘキ原由ナキモノトス然リ而シテ代官人ニ於テハ上告ノ旨趣ヲ敷衍シテ被告カ
人ヲ誹毀シタルノ事實ヲ新聞紙上ニ騰録シタルハ明治十六年四月二十六日ニ在リテ當時
已ニ同年四月十六日ヲ以テ改正新聞紙條例ヲ頒布セラレ其條例ニ依ルキハ被告ハ未丁年者
ナルヲ以テ編輯人タル資格ヲ有セサルモノニシテ假令編輯人トナルモ無効ナレハ隨テ其新
聞紙上ノ責ヲ受クヘキモノニ非ス殊ニ被告ハ富田直與ナルヲ知ラス唯タ富田某ト記載シ
タルモノニシテ直與ハ素ヨリ交際アル者ニアラサレハ其人アルヲ知ラス既ニ其人ヲ知ラザ
ル以上ハ之ヲ漫ニ憎ムノ理由アルコトナキヲ以テ惡意アルコトヲ誹毀罪ノ如キハ惡意ナキハ
ハ其罪ヲ構成スヘキモノニアラス然ルニ其惡意アラサルヤ否ヤノ事實理由ヲ掲擧セサルヨ
リ畢竟擬律ノ錯誤ヲ來シタルモノナリト陳辨スレド抑モ本案公訴タル新聞紙條例違犯ノ
公訴ニアラスシテ誹毀犯ノ公訴タルコトハ明確ナレハ編輯人タルノ資格有無ヲ審明スルニ
及ハサルハ勿論ニシテ誹毀罪ノ如キハ其資格ノ奈何且又惡意ノ有無ニ依テ此罪ヲ構造スル
ト否トニ關スヘキモノニアラス其掲載シタル事項ノ人ヲ誹毀スルニ該ルキハ其罪ヲ免カル
可カラサルモノトス今原判文ヲ閱スルニ「前略」被告カ富田某ト掲載シタルハ富田直與ヲ
指シタルモノニシテ即チ被告ハ富田直與ノ醜行ヲ摘發公布シテ同人ヲ誹毀シタルモノト認
定ス「トアリテ直與カ醜行ヲ摘發公布シタルモノトアレハ誹毀ノ事實ハ充分ニシテ毫モ問
然スル處ナケレハ之ヲ事實理由ノ不備ト爲スヲ得ス又隨テ擬律モ適當ニシテ錯誤ノ廉アル
コトナシ因テ該上告ハ都テ相立タルモノト判決ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ棄却スルモノ也
第三十九號

○判文(誹毀)明治十六年四月二日上告
同 十七年四月廿二日發付

茨城縣常陸國久慈郡東河内
村平民茨城日々新聞假編輯
長

齋藤 俊一郎

明治十五年十一月

右俊一郎カ被告事件ニ付明治十五年十一月三十日水戸輕罪裁判所カ誹毀ノ罪アルモノト認
メ刑法第三百五十八條同第九十二條同第八十條ニ依照シ十日ノ拘留ニ處シ十圓ノ罰金ヲ附
加スト旨渡シタル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ茨城日々新聞第四百六十三號雜報欄内ニ
茶屋ノ泣言ト題セル文詞ハ案ヨリ茨城監獄署ノ官吏ヲ指シタルモノニアラス又其際一滴
ノ酒ヲ用ヒサル宮川力太郎ヲ誹毀シタルモノニアラスハ原裁判所ハ概ク之ヲ誹毀シタルモノ
ト認メ刑ヲ旨渡サレタルハ不當ナリト云ヒ仍ホ上告退伸書ヲ以テ前意ヲ敷衍擴張スルニ在
リ
對手人檢事補若井平世ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁答辨シ而シテ原裁判ハ刑法第三百五十
八條第二項ノ刑ヲ本刑トシ之ニ一等ヲ加ヘ二等ヲ減シテ拘留十日ニ處シタルハ即チ違警罪
ノ刑ナリトス此ノ違警罪ノ刑ニ對シ明文アラサル罰金ヲ附加シ且再犯加重ハ一般ノ加重ニ

テ特別ニアラサレハ本刑ニ一等ヲ加ヘ二等ヲ減スレハ十一日以上ノ短期トナルハキモ原裁
判ノ玆ニ出テサルハ擬律錯誤ナリト思考シ附帶上告スト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ上告ノ理由トス
ル處茨城日々新聞第四百六十三號ニ掲ケタル茶屋ノ泣言ト題セル文詞ハ茨城監獄署ノ官吏
ヲ指シタルモノニアラス又一滴ノ酒ヲ用ヒサル宮川力太郎ヲ誹毀セシニアラサルニ原裁判所
ハ之ヲ誹毀ナリト認メタルハ不當ナリト云フト雖モ要スルニ事實裁判所カ各個ノ證據ヲ取
捨シ認定セシ事實ニ對シ徒ニ不服ヲ唱フルニ過キサレハ破毀ヲ求ムルノ原由トナスヲ得ス
何ソトナレハ治罪法第四百十條ニ定メタル上告ヲナスヲ得ヘキ各項目以外ニ涉ル訴旨ナレ
ハナリ因テ上告ノ趣旨相立ヌ

附帶上告ノ理由ハ特別ノ加重ニアラサレハ刑法第三百五十八條第二項ノ本刑ヨリ一等ヲ加
ヘ又二等ヲ減スレハ十一日以上ノ短期トナルヘキモノナリトノ論旨ナリト雖モ加重ト減輕
トナ同時ニ爲ス時ハ先ツ以テ之ヲ加重シ而シテ後チ之レニ減輕ト與フルハ法ノ原則コシテ
假令特別ノ加重ニアラサルモ加重減輕トナ同視シ得ヘキモノニアラサレハ其加重シタルモ
ノヨリ四分一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲スヘキモノコト本刑ヨリ加重減輕トモ通シテ爲スヘ
キモノニアラサレハ上告ノ趣旨不相立又原裁判所ハ刑法第三百五十八條第二項ヲ本刑トシ
之ニ一等ヲ加ヘ又二等ヲ減シ拘留十日ニ處斷セシモノコト即チ違警罪ノ刑ナレハ其違警罪
ノ刑ニ對シ輕罪ノ刑ヲ附加セシモノコト主刑ニ超過シタル附加刑アルヘキ法理アルコトアラ
サルニ原裁判所ハ主刑拘留ノ刑ニ處シ附加罰金拾圓ヲ科シタルハ擬律錯誤ニ係ル上告ノ原

由アルモノト判定ス

四〇〇

右ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十七條ニ依リ本按上告ヲ棄却シ附帶上告ニ付治罪法第四百三十一條ニ依リ被告齋藤俊一郎ニ言渡タル附加罰金拾圓トアル一部分ヲ破毀シ取消スモノナリ

第千四十號

○判文(持兇器強盜)明治十六年四月九日上告
同 十七年四月廿二日發付

大坂府高土新町平民温館商

中村 瀧 登

明治十六年三月

明治十六年三月十日愛媛重罪裁判所ニ於テ右中村瀧登カ被告事件ヲ審判シ二十八以上兇器ヲ持シ強盜ヲ爲シ及ヒ拘留中逃走未遂ノ罪アリトシ一ノ重キ強盜ノ罪ヲ論シ刑法第三百七十八條第三百七十九條ヲ適用シ有期徒刑十二年ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シ其趣意ハ被告人カ強盜ヲ爲シタリト認メラレシ當時ニ在テ疾病ニ罹リ歩行不自由ナリシハ衆人ノ知ル所ニテ固ヨリ強盜ヲ爲スコト能ハサル者ナレハ其無罪タル明白ナルニ裁判官ハ警察署ノ拷訊ニ成立タル不實ノ調書ヲ信認シ強盜ノ共犯ナリト判定セラレタルハ不當ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ上告代官大原健三郎カ辨論ヲ聽シ被告人ノ所爲ハ強盜及ヒ囚徒逃走未遂ノ罪アリト判定セラレシモ其強盜ノ所爲ナキハ上告趣意書ニ辨解スル所ノ如シ又被告人ハ警察署ニ護送ノ途中逃走セ

ノレシタル者ニシテ入監中逃走セントシタル者ニシテ入監中逃走セントシタル者ニシテ非ス然ルニ刑法第百四十四條ヲ適用ス可キ犯罪ナリト論決シタルハ擬律ノ錯誤ナリトノ旨趣ヲ陳述セリ依テ判決ヲ爲スニ左ノ如ク

上告ノ要點ハ強盜ノ所爲ナキ者ニ對シ刑ヲ言渡サレタルハ不當ナリト云フニ過キス抑證據ヲ採擇シテ犯罪ノ事實ヲ判定スルハ法律ニ於テ裁判官ニ任從シタル所ナレハ其職權内ニ侵入シ漫ニ事實判定ノ當否ヲ論難スルモノヲ以テ上告ノ原由ト爲スコト得サルモノトス又被告入ハ司法警察官ニ於テ已ニ拘留狀ヲ發シ之ヲ裁判所ニ護送スル途中逃走セントシタル者ナレハ即チ未決囚徒入監中逃走ノ未遂犯罪ナルヲ以テ原裁判所カ刑法第四百四十四條第四百十九條ニ依リ處斷ス可キ犯罪ナリト判定シタルハ相當ノ裁判ニシテ擬律ノ錯誤アルモノニ非サルナリ

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スルモノナリ

第千四十一號

○判文(水利妨害)明治十六年四月廿六日上告
同 十七年四月廿三日發付

山梨縣東山梨郡八幡村平民

大村 サヨ

明治十六年二月

明治十六年二月二十八日甲府輕罪裁判所ニ於テ右大村サヨカ水利ヲ妨害セシ被告事件ヲ審判シ刑法第四百十三條ニ依リ重禁錮一月罰金二圓ノ刑ヲ言渡タル裁判ニ對シ被告人ハ

四〇一

上告ヲ爲シ其要領ハ被告ニ於テ野澤政之丈ノ水車ニ引ケ所ノ水路ヲ破壊シタル原由ハ
政之丈ニ於テ水車營業中ハ自分所有地ノ冷料トシテ金二十五錢ツ、毎年七月二十五日限リ
差出スヘシ若シ違約セシ時ハ右水車ヲ差止メ其堰臺ヲ引潰ス約ナルニ同人カ兩度迄其義務
ヲ怠リタルニヨリ其契約ニ基キ水車ノ堰臺ヲ破壊シタルモノナリ且自ラ手ヲ下シ水路ヲ破
壞スル等ノコトハ刑法ノ禁スル所ナル可キモ被告ハ犯ス時罪ト爲ルヘキ事實ヲ知ラズシテ犯
シタルモノナレハ刑法第七十七條第二項ノ明文ニ從ヒ無罪タル可キモノナルヲ原裁判所ハ
直ニ刑法第四百十三條ニ依リ處斷セラレタルハ不當ナルヲ以テ原裁判ノ破壞ヲ求ムト云ヒ
仍ホ追申書ヲ以テ前意ヲ擴充セリ

對手人原裁判所檢事補若林爲三藏ハ上告ノ不理ナルヲ辨駁シ原裁判相當ニシテ毫モ破壞ノ
原由ナキモノナリト答辨セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲スコト左ノ如シ
本按被告事件ノ如キハ原裁判所ニ於テ證據微憑ニ據リ被告人ハ野澤政之丈ノ水車ニ引所ノ
水路ヲ破壞セシメ其營業ノ妨害ヲナシタル者ナリト事實ヲ判定シ之ヲ法律ニ照シ相當ノ刑

ニ處シタルモノノレハ毫モ不法ト見ルヘキ點アルニ非ス然ルニ上告ノ旨趣ハ一々事實判定
ニ對シ當否ヲ論辨スルニ過キヌシテ治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉ルヲ以テ上告ノ原由ナ
ラズトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ
第四百四十二號

○判文(摘錄) 明治十六年四月十六日上告
同十七年四月廿三日發付

山梨縣甲斐國東山梨郡鶴瀬

村四十一番地平民農業

小池 武右衛門

明治十五年十二月
四十九年十一月

同縣同郡同村十番地平

民農業

鹽野 太良平

明治十五年十二月
四十四年

右兩名カ被告事件ニ對シ明治十五年十二月廿二日甲府輕罪裁判所ニ於テ被告人等ハ同郡日
影村宇大山菅官民有未定ノ山林ニ於テ樹木ヲ竊取セント之ヲ伐倒シタル際見認メラレタル
モノト認定シ刑法第三百七十三條同第三百七十二條同第三百七十五條及ヒ同第一百十二條ニ
依リ同第七十條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ各重禁錮二十一日ニ處シ監視六月ヲ附加スル者ナ
リトシ裁判ニ服セヌ被告人小池武右衛門カ上告爲シタル要領ハ告發人等カ居村日影村ハ自
分等ノ住持鶴瀬村トハ當時現ニ該官民未定地ノ件ニ付大ニ軋轢ヲ生シ互ニ敵視スルノ際ナ
リシカ故該村人民等申合セ何物カ山林ニ行キタルヲ奇貨トシ強テ自分等ノ所爲ナリト云フ
コトアリ故ニ公判ノ節其不實ナルヲ證サンカ爲メ此ノ日自分味爽ヨリ駄馬ヲ牽テ他方ヨリ
リシコトヲ自認シ且之レニ關係セル東八代郡相與村平民廣瀬庄左衛門及ヒ日影村平民土屋清
作等ノ喚問ヲ請求シタルハ本件ノ證人ニアラズトテ採用セラレヌ又延期ノ上反證ヲ出サン

ト請ヒシモ尙之レテ許サレサルハ不當ナリト云ヒ被告人堀野太良平モ亦當日ハ同所ヘ行キ
 シコナシ故ニ公判廷於テ之レ等ノ證人ノ喚問アラナイヲ請求シタルニ採用セラレテ輕忽ニ
 裁判セラレタルハ不當ナリト云ヒ同裁判所檢察官ハ原裁判相當ナリト答辨セリ茲ニ大審院
 ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ本案ハ事實ノ判定ヲ非難スルモノ
 シテ到底上告ノ理由ナキモ原裁判官渡ヲ聞スルニ官民間未定ノ山林ニ於テ樹木ヲ竊取セ
 ト已ニ之レヲ伐倒シタル際云々トアリテ正ニ山村盜伐ノ既遂犯ナルニ未遂犯ノ法律ヲ適用
 セシハ擬律錯誤ノ裁判ナルニ付附帶上告ヲ爲ス旨ヲ陳辨セリ因テ判決スル左ノ如シ
 本接上告ノ旨趣ハ當日該所ヘ行キシコナシ故ニ公判廷於テ證人ノ訊問ヲ請求爲シタルニ之
 ヲ採用セラレサルハ不當ナリト云フコトアレハ該事實及ヒ證憑ヲ取捨鑒別スル等ハ固ヨリ法
 律上原裁判官ニ任スル所ノ職權ナルヲ以テ該證人ノ喚問ニ付之ヲ許否スルモ亦其權内ニ屬
 シ他ノ得テ非難スヘキ處ニアラサレハ之ヲ上告ノ理由ト爲スヲ得ス然レハ附帶上告ニ
 依リ原裁判官渡書ヲ查閱スルニ「官民有未定ノ山林ニ於テ樹木ヲ竊取セント已ニ之ヲ伐倒
 シタル際」トアリ正ニ犯罪ノ完全組成シタルモノニシテ原裁判官モ業ニ既ニ犯罪ヲ遂ケ得
 タル事實ヲ認メナカラ未遂犯トシ刑法第三百七十五條及ヒ第三百七十二條ヲ適用セタルハ擬律
 ノ錯誤ニシテ治罪法第四百十條第十項ニ適當スル不法ノ裁判ナルヲ以テ原裁判官破毀シ治罪
 法第四百二十九條ニ則リ本院ニ於テ直チニ判決スルヲ左ノ如シ

小池 武右衛門
 堀野 太良平

本件ノ事實ハ原裁判官カ確認スル所ニ依リ明確ナルヲ以テ刑法第三百七十三條山林ニ於テ
 竹木礦物其他ノ產物ヲ竊取シ又ハ云々ニ於テ人ノ生業ニ若クハ營業ニ關スル產物ヲ竊取シ
 タル者ハ亦前條ニ同シ其前條即チ同第三百七十二條田野ニ於テ穀物菜菓其他ノ產物ヲ竊取
 シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス及ヒ同第三百七十六條此節ニ記載シタル罪ヲ
 犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ依リ其範圍内ニ於テ被
 告ハ各自重禁錮一月ニ處シ監視六月ヲ付スルモノナリ

第四百二十三號

○判文(過失殺) 明治十六年五月廿三日上告
 同 十七年四月廿三日發付

長野縣信濃國小縣郡上田町
 士族

木 孝

明治十六年五月
 三十一年七月

明治十六年五月五日長野縣罪裁判所上田支廳ニ於テ被告者ハ瀕在紋之助ノ腸胃症ニ對シ適
 當ノ服藥ヲ投與シ尙ホ其節同人ノ需メニ應シ鼠ヲ殺スカ爲メニ「ストレキ」ヲ拾ケレト
 シ投與シタル處同人ノヲ取違ヒ服用シタルニ因リ死ニ至リタルヲ以テ之ヲ官ニ首出シタ
 ルモノナリ然ルニ毒藥ハ鼠ヲ殺スニ供スル等ノ需メニ應シテ容易ク人ニ與フ可キモノニ非
 サルニ之ヲ他ノ服藥ト共ニ投與シタルカ爲メニ誤テ之ヲ服用シ死ニ至ラシメタルモノトシ
 刑法第三百十七條同第八十五條同第七十條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ百圓ノ罰金ニ處スト言

渡シテ裁判ニ服セズ被告者ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ抑過失殺ノ如キハ之ヲ例スルニ醫師
タル者カ患者ノ病症ニ適當スヘキ藥品ヲ與ヘズシテ過テ毒藥ヲ投與シ患者之レヲ服用シ爲
メニ死亡セシメ如キノ場合ヲ云フモノニシテ今ヤ本件ハ被害者カ乞求ノ用法ハ鼠ヲ驅除スル
ニ在テ被告ハ其毒藥ナルコトヲ懸念シ置キタルコト拘ハラス被害者ニ於テ被告カ禁戒ニ背キ之
ヲ誤用シタル結果ナレハ其過失殺ニ非サルコト明灼ニシテ被告ハ刑法第二條ニ照シ無罪ノ旨
渡シ受クヘキナリナリト云フニ在リ原檢察官ニ於テハ原判定ハ更ニ問然スル所ナキ旨答辨
セリ

爰ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ判決ヲ與フルコト左ノ如ク
原裁判官渡書ヲ監査スルニ本件ノ事實ハ被害者紋之助ノ求需ニ應ジ鼠ヲ殺スニ供スル毒藥
ヲ投與シタルニ被害者自カラ誤テ之ヲ内服シ因テ死ニ至リタルニ在テ原裁判官既ニ此事實
ヲ明認セルコト拘ハラス又進テ毒藥ハ鼠ヲ殺スニ供スル等ノ小故ヲ以テ輕シク之ヲ人ニ與フ
ヘキニ非サルコト之ヲ投與シ遂ニ被害者カ誤用ヲ招キタルハ被告カ陳慮ニ原由スト判示シタ
ルハ乃チ被害者ノ過失ヲ以テ之ヲ被告ノ過失ニ充テタルカ如ク且ヤ前後理由ノ相離スル旨
渡シシテ即治罪法第四百十條第九項ニ相當スル不法ノ裁判ナリトス依テ治罪法第四百二十
八條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ更ニ適法ノ審判ヲ受ケシムカ爲メ之ヲ甲府輕罪裁判所ニ移スモ
モナリ

第四百四十四號

○判文(證書偽造) 明治十六年十一月一日上告
十七年四月廿三日發付

京都府南桑田郡龜岡橫町士
族農業當時上京區第廿五組

下御靈町土佐光一方寄留

辻

膏 之
明治十六年九月
三十六歲

同府下京區第六組備前島町

平民湯屋渡世

中

西 豐 七
明治十六年九月
四十五歲

右膏之豐七カ被告事件ニ對シ明治十六年九月十八日京都輕罪裁判所ニ於テ被告膏之ハ時計
二個ノ賣買ニ關スル無實ノ證書ヲ偽造シ以テ金圓騙取セシムルノ教唆ヲナシ豐七ハ其謀ニ
與カリ該證書ヲ收受シ之ヲ以テ澤田文ニテ原告ト爲シ植村宗七ニ係リ該時計賣戻ノ詞訟ヲ
爲サシメタルモ宗七ノ告訴ニ依リ遂ニ其目的ヲ果シ得サリシ者ト認定シ刑法第四百四條第百
五條ニ依リ皆正犯ト爲シ同法第三百九十條二項第二百十條一項第二百一十一條第百十二條第
二百十三條ニ照シ膏之ヲ重禁錮二月罰金十圓監視六月ニ處シ豐七ハ原諒スヘキ情狀アルヲ
以テ仍ホ同法第八十九條第九十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ重禁錮一月罰金五圓監視六月ニ
處スト首渡タル裁判ニ服セズ被告辻膏之中西豐七八上告セリ其要領ハ續々陳辨スル所アリ
ト雖モ結局前額ノ如キ不正ノ行爲ヲナシタルコトナキヲ以テ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云ニ在リ

對手八原裁判所檢事補恒河修一郎ハ之ヲ辨駁シ上告ノ理由ナキ旨答辨セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事加納久宜ハ被告兩名ノ上告ハ事實ノ點ニ止ル
 ヲ以テ其理由ナキハ勿論ナレド其偽造證書ヲ以テ詞訟ヲ爲セシハ即チ已遂犯罪ニシテ其金
 圓詐取セントシテ遂ケサリシハ即チ未遂犯罪タルヲ著明ナルニ原裁判ノ爰ニ出サリシハ不
 法ナルヲ以テ附帶上告ヲ爲シ破毀更正ヲ求ムト陳述セリ
 因テ之ヲ審按スルニ其被告カ前顯不正ノ行爲ヲナシタル覺ヘナシト主張スルハ原裁判所カ
 特任權内ニ於テ認定セシ事實ノ點ヲ非難スルニ過キスレバ治罪法第四百十條ノ項目ニ適應
 スルハ上告ノ理由ナシトス然リ而テ其認定セシ事實ニ依レバ該金圓ハ詐取セントシテ未
 遂ケサリシモ其偽造證書ヲ行使セシハ已ニ明了ナルヲ以テ其詐取金未遂ノ罪ハ刑法第三百
 九十條第三百九十七條第三百九十二條第三百九十四條ニ依リ其偽造行使ノ罪ハ刑法第三百
 項第三百十二條ニ依リ尙第百條ニ照シ一ノ重キヨ從テ處斷セサル可カラス然ルニ原裁判ノ
 玆ニ及ハサリシハ本院檢事附帶上告ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條十項ニ
 該當スル破毀ノ理由アルモノトス
 右ノ理由ナルヲ以テ被告兩名ノ上告ハ治罪法第四百廿七條ニ基キ之ヲ棄却シ本院檢事ノ附
 帶上告ヲ以テ同法第四百廿九條ニ從ヒ原裁判ノ上告ニ係ル部分ヲ破毀シ本院於テ直チニ其
 裁判爲スノ左ノ如ク

辻 膏 之
 中西 豐 七

原裁判所カ認定セシ事實ニ基キ刑法第一百五條第四條ニ照シ其金圓詐取セントシテ遂ケサル
 罪ハ同法第三百九十四條第三百九十七條第三百九十二條第三百九十四條ニ照シ其賣買ニ關スル證
 書ヲ偽造シテ行使セシ罪ハ同法第二百十條一項第二百十二條ニ依リ尙第百條ニ照シ一ノ重
 刑其偽造證書行使ノ罪ニ從ヒ四月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ附加罰金範
 圍内ニ於テ審之ヲ四月ノ重禁錮ニ處シ五圓ノ罰金ヲ附加シ六月以上二年以下ノ監視範圍内
 ニ於テ六月ノ監視ニ付ス豐七ハ原諒スルハキ情狀アルヲ以テ仍ホ刑法第八十九條第九十條第
 七十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ二月以上二年以下ノ重禁錮二圓以上二十圓以下ノ附加罰金
 範圍内ニ於テ二月ノ重禁錮ニ處シ貳圓五拾錢ノ罰金ヲ附加シ六月ノ監視ニ付ス
 第千四十五號

○判文(詐欺取財) 明治十六年四月廿八日上告
 十七年四月廿三日發付

大坂府西區立賣堀南通三丁
 目二十四番地平民米商

津田 德兵衛

明治十六年三月
 二十三年五月

詐欺取財被告事件ニ付大坂輕罪裁判所豫審掛リカ被告津田德兵衛ノ所爲ハ刑法第三百九十四
 條同第三百九十四條ニ依リ處分スルハ輕罪ナルヲ以テ其管轄ナル大坂輕罪裁判所公判ニ移
 ストシテ終結旨渡ニ服セス故障ヲ爲シ明治十六年三月十九日同裁判所會議局ニ於テ故障ヲ爲
 ス可キ原因ナキヲ以テ其申立ヲ棄却ストノ判決ニ對シ被告津田德兵衛ハ上告ヲ爲シテ其

要領ハ被告ハ阿波國ニ於テ藍玉ヲ買受ケ被害者ト荷爲替金ヲ取組ミ大坂へ着荷ノ上被告ヨリ其爲替金ヲ辨償ノ爲メ現金ト銀行手形トヲ交付シタリ而シテ該手形ハ八月三日五日渡シト記載アルモ全ク商業上ノ慣習ニヨリ彼我融通ノ爲メ渡シタルモノナレハ其實八月三十日ヲ以テ現金ト交換ノ約ヲ互ニ承諾ノ上取結ヒ置キタリ其證據ハ金十五圓ヲ其月ノ利子トシ被害者へ拂ヒ置キタルコト明瞭ニシテ決シテ詐欺ノ念慮アルモノコト非ス然ルチ豫審官ハ其事實ヲ推究セズ有罪者ナリト認定セラレ且被告カ該藍玉ヲ賣捌カント欲シ神戸へ運送シタルモ都合アリテ更ニ大坂へ持歸ル途中大坂梅田停車場ニ於テ被害者ノ告訴ニヨリ會根崎警署ヨリ之ヲ差押ヘラレタルニヨリ之ヲ警官ニ質問セタル所檢事ノ命令ナリトノナレモ惟フコト豫審官ニ於テ差押ヘタルヤ明カナリ然ルニ該物品ハ業已ニ被告ノ所有ニ歸セタルモノニシテ贓品ニ非サレハ豫審官カ差押ヘタルハ越權ナルニヨリ原判決ヲ破毀シ更ニ公明ノ裁判ヲ乞フト云ヒ尙カ上告退申書ヲ以テ前意ヲ擴張シタリ

對手入檢事補大野吉利ハ本按上告ハ不當ニシテ原判決ハ相當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本按上告ノ理由トスル所ハ二箇ノ點ニ出テス其一ハ被告カ行爲ハ互ノ承認上ニ出テ詐欺ノ念慮ナケレハ罪トナラサルモノナリト云フト雖モ要スルニ承審官カ職權ヲ以テ認定シタル事實ハ當否探證ノ如何ヲ批難スルニ止マリ其二ハ豫審判事カ藍玉ヲ差押ヘタルハ越權ナリト云フト雖モ今原會議局ノ判決ニ徴シ又一件書類ニ參スルモ絶テ豫審判事ニ於テ該物品ヲ差押ヘタルトノ事實アルヲ見サレハ本按上告ノ趣意ハ相立タサルモノトス因テ治罪法第

四百二十七條ノ成規ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノナリ

第四百四十六號

○判決(財産遺贈) 明治十六年三月九日上告 十七年四月廿三日發付

栃木縣下野國河内郡壺新田 村住戸長

菊地 吉造 年齢不詳

同村農 大島 竹藏 年齢不詳

同村農 大島 丑藏 年齢不詳

同村農 五月 女久五郎 年齢不詳

同村農 大島 彦藏

同村農 大島 彦藏

同村農

五月女仙吉

年齡不詳

同村農

平石勇造

年齡不詳

同村農

五月女貞藏

年齡不詳

同村農

荒井源平

年齡不詳

財產遺匿被告事件ニ付明治十五年十二月二十八日京都官廳罪裁判所會議局カ豫審終結ノ旨
渡ヲ認可セシメテ不當ナリトシ民事原告人高木權平ハ上告セリ其要領ハ被告等ハ共謀シ大島
竹藏カ身代限ノ處分ヲ受ルル者ニシテ犯罪ノ證據明確ナリトス然
ルニ原裁判所會議局ニ於テ大島竹藏カ財產ヲ賣却セタルハ民事原告人ノ訴訟ニ因リ身代限
ノ處分ノ適用ノ事ナレバ罪下ナルハキ所爲ニテラスト爲シ豫審終結ノ旨渡ヲ認可セシメハ不

當ニ判決ナレバ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ被告等ハ上告論旨ノ不理ナルヲ辨駁シ原會議
局ノ判決相當ナリト答辨セリ仍テ本院檢事ノ意見ヲ聞キ判決ヲ爲ス左ノ如シ
刑罰第三百八十八條ノ家資分散ノ際トハ其區域狹隘ナラスシテ苟モ債主ヲ欺クノ目的ヲ以
テ處傷ノ賣買ヲ行ヒタルニ於テハ違タ其以前ニ涉リ之ヲ罰スルノ謂ナリ然レハ本件ノ如キ
ハ豫審判官ニ於テ財產ヲ遺匿シタルノ確證ナキモノトシ免訴ノ旨渡ヲ爲シタルハ越權ノ處
分ト謂フヲ得サルヲ以テ原裁判所會議局カ其旨渡ニ對スル故障ヲ棄却セシハ至當ノ判決ナ
リトス因テ治罪法第四百二十七條ニ基キ本案上告ヲ棄却スルモノ也
第千四十七號

○判文(車稅犯則) 明治十六年四月十三日上告
同 十七年四月廿三日發付

長野縣信濃國諏訪郡原村平
民牛車營業

清水勝重郎

明治十六年三月
二十七年五月

明治十六年三月九日上諏訪治安裁判所ニ開キタル長野縣罪裁判所松本支廳ニ於テ右清水勝
重郎カ被告事件ノ公訴ヲ受理シ犯罪ノ證據不充分ナリト判定シ治罪法第三百五十八條ニ從
ヒ無罪ノ旨渡ヲナシタリ
原裁判所檢察官長野縣警部補藤田彌十郎ハ右ノ裁判ニ服セス上告ナシタル要旨ハ本案ハ
被告ノ自白其雇人ノ手續書巡查ノ告發狀ニ據リ犯罪ノ證據充分ナルニ原裁判所ニ於テ前記

如ノ無罪ノ旨渡ヲナシタルハ不當ノ裁判ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ專任判事ノ報告
ノ據リ立會檢事澄川拙三ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ原裁判所ニ於テ本案被告事件ハ犯罪
ノ證據充分ナラサルノ理由ヲ明示シ無罪ノ旨渡ヲナシタルモノニシテ其證據ノ取捨採擇事
實ニ認定ハ專ラ原裁判所承審官ノ職權内ニ歸シ他ヨリ際チ容ル、可カラサルモノナリトス
抑止告ヲナスニハ治罪法第四百十條各項ニ規定スル原由ナカルヘカラス本案上告ノ如キハ
原裁判官ノ探證ノ不當ヲ論告シ事實ノ認定ニ苦情ヲ唱フルニ過キサレハ素ヨリ上告ノ原由
トナスヲ得サル者トメ因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スル者也
第千四十八號

○判文(毆傷) 明治十六年四月九日上告
同 十七年四月廿三日發付

福島縣磐城國磐城郡駒込村

平民又右衛門弟磐前郡平町

寄留小賣商

根本拾治

明治十六年二月

二十六年一ヶ月

右拾治ヲ毆打創傷被告事件ニ付明治十六年二月一日福島縣裁判所平支廳ニ於テ被告ハ若
根鐵太郎方寄留小賣商トシテ「事谷」ナヨ「カ梅蕪」語ヲ發シテ「地忿怒」ナヨ「カ醫」執
事引摺シテ腕部ヲ毆打付爲メ「願助」内損病臥三十餘日ニ至ラシメタルハ證人及ヒ參考人ノ
供述醫師ノ鑑定書ニ照査シ證據充分ナル者ト判定シ刑法第三百二條ニ該テ重禁錮一年ニ處

本拾治ノ旨渡ヲ不服スル被告根本拾治ハ上告ヲ爲シテ其旨趣ハ被告ニ於テ「事谷」ナヨ
「カ梅蕪」語ヲ發シテ「地忿怒」ナヨ「カ醫」執事引摺シテ腕部ヲ毆打付爲メ「願助」内損病臥
三十餘日ニ至ラシメタルハ證人及ヒ參考人ノ供述醫師ノ鑑定書ニ照査シ證據充分ナル者ト判定
シ刑法第三百二條ニ該テ重禁錮一年ニ處スル旨ニ在リ然レハ被告ハ毆打セサルコト明カナリ原裁判所ハ既ニ五日間
ヲ經過シタル後ニ診査シタル醫師山田忠夫カ鑑定書ヲ徴證ト爲シタルモ是レ他ノ病ヒナル
歟其後ノ負傷ニ係ル歟證人及ヒ參考人ノ陳述ハ固ヨリ信ス可カラサルノ事情アリ因テ被告
ハ醫師ノ再診斷ヲ請求シタルモ之ヲ採用セズ理由ノ齟齬アル不當ノ裁判ナリト云フニ在リ
又追申書ヲ以テ前趣意ヲ擴張シ尙ホ再追申書ヲ差出シ被告カ在監中菊地喜平ナル者ハ「事谷」
ナヨ「カ梅蕪」其持病ノ癩ノ爲メニ臥シ居タルヲ毆打ノ内損ナリト証告セシメタルヲ喜
平同監人三浦德三郎外二名ヨリ聞及ヒ該事件ハ平支廳ニ告訴ニ及ヒ置被告ハ如斯冤罪ナレ
ハ速ニ公明ノ判決ヲ仰シト陳述セリ

原裁判所檢事補片岡泰一郎ハ上告不理ニシテ原裁判至當ナリト答辨シ又辨明書ヲ以テ被告
ハ証告セラレタリトノ申供ハ信ヲ置クニ足ラス該証告事件ハ平支廳ニ於テ被告タル菊地喜
平「事谷」ナヨ「カ梅蕪」兩名ハ證據不充分ナルヲ以テ既ニ免訴ノ旨渡ヲ受タリト追申セリ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ判決ヲ爲ス左ノ如シ
凡シ諸般ノ證據ヲ取捨監別シ事實ノ認定ヲ爲スハ治罪法第四百十六條第二項法文ノ如ク事
實承審官ノ職權ニシテ他ヨリ權シ之ニ侵入論難スルヲ得ス今被告カ論告ノ要點則信スヘカ
ラサル者ノ旨ヲ採リ證據ト爲シ又ハ當時疵傷ノ無カリシヲ知ルヘキ醫師松村某ノ鑑定ニ據

ラス信シ難キ山田忠夫カ鑑定ヲ信用シ尙又再鑑定ノ要求ヲ棄却シテ被告カ所爲ニ因リ被害者ハ二十日以上ノ疾病ニ罹リシモノトシタルハ不法ナリト云フノ數點ハ總テ承審官職權内ノ處分ヲ論難スルニ外ナラス又誣告云々ノ如キハ原裁判所へ提出セザリシモノナルヲ以テ假令誣告ノ證アリトスルモ原裁判破毀ノ材料ト爲ヌテ得サルモノコトヲ上告ノ旨趣ハ一モ治罪法第四百十條ノ各項目ニ適當セザルモノナリトス
仍テ治罪法第四百二十七條ニ基キ之ヲ棄却スル者也
第千四十九號

○判文(賭博) 明治十六年四月六日上告
同 十七年四月廿三日發付

新潟縣新潟區榮町一番地平
民

松野 熊五郎

明治十六年二月
二十八年七月

松野五郎カ被告事件ニ付明治十六年二月二十三日新潟縣裁判所ニ於テ被告ハ賭博ヲ爲シタル者トシ刑法第二百六十一條ニ依リ重禁錮四月罰金十圓ノ刑ヲ言渡シタル裁判ニ對シ被告松野五郎カ上告ヲ爲シタル旨趣ハ被告ニ於テ賭博ヲ爲シタル覺ナキコト事實相違シタル巡査ノ傷害ヲ以テ賭博犯者ナリト判定セラレタルハ不當ナリト云フニ在リ原檢察官ハ原裁判至當ニ以テ上告ノ不當ナル旨答辨セリ
茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案上告ハ原裁判官カ職權ヲ以テ爲シタル探證及事實判定上ニ不服ヲ唱ヘ有罪無罪ノ事實ヲ爭フニ適キヌシテ治罪法第四百十條外ニ互ルヲ以テ上告ノ理由ト爲ヌテ得サルモノトス因テ同法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノ也
第千五十號

○判文(證券偽造) 明治十六年十一月八日上告
同 十七年四月廿四日發付

山口縣長門國美禰郡岩永下
鄉村平民

宮 喜代松

明治十六年十月
四十年三月

右喜代松カ被告事件ニ對シ明治十六年十月十三日山口縣裁判所ニ於テ被告ハ武藤淺吉阿部清助ト共謀シテ山本米藏ノ借用證書ヲ偽造シ且金員ヲ詐取セントシタルモノト判定シ證書ヲ偽造シタル所爲ハ刑法第四百四條同第二百十條同第二百十二條同第九十二條ニ照シ七月ノ重禁錮七圓ノ附加罰金六月ノ監視金員ヲ詐取セントシタル所爲ハ同第四百四條同第三百九十條同第三百九十四條同第三百九十七條同第一百二十二條同第九十二條ニ照シ四月ノ重禁錮七圓ノ附加罰金六月ノ監視ニ該當シ以上數罪ノ内同第一百條末項ニ照シ證券偽造ノ所爲ヲ以テ其情狀重キモノトシ重禁錮七月ニ處シ罰金七圓監視六月ヲ附加スト旨渡シタリ
右ノ裁判ニ對シ被告喜代松ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告於テ武藤淺吉ノ依頼ヲ受ケ偽造證書ヲ認メシタルコトヲ武藤淺吉阿部清助カ被告ノ名義ヲ以テ山本米藏ニ對スル貸金證

審判認メタリト聽キ被告カ之ヲ山本米藏ニ告知シタルヨリ武藤淺吉阿部清助ニ於テ憤リノ餘リ被告ヲ共謀者ナリトノ詐言ヲ爲シタルモノナリ其證據ハ貸金證書ノ草案並印刷文ノ離形ニ依テ明カナリ然ルニ原裁判所於テ右證據ノ有無正否ヲ判別セス被告二人ノ詐言ヲ採リ裁判ヲ下シタルハ理由ノ顛倒擬律ノ錯誤ニ出タル不法ノ裁判ナリト云フニアリ

原裁判所檢事補屬恭亮ハ原裁判至當ニシテ上告ノ理由ナキ旨答辨セリ

本院ニ於テ專任判事ノ報告ニヨリ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルノ左ノ如シ

本案上告ノ旨趣ハ要スルニ原裁判所ノ特權ニ係ル事實ノ認定及ヒ證據ノ取捨ニ對シ其當否ヲ論スルニ止マリ治罪法第四百十條第九項第十項ニ適當ニシタル上告ノ理由ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第一千五百一號

○判文(詐欺未遂)明治十六年十一月十四日上告
同 十七年四月廿四日發付

高知縣土佐國土佐郡素泉寺
村當時同郡廿代町寄留士候
代書業

半田正勝

明治十六年十月

三十四年

右半田正勝ヲ被告事件ニ付明治十六年十月十六日高知輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十六年

九月十日以後今井浦次郎井上竹次ト共謀シ借用證書及約定證書ノ寫ヲ造リ松井玄太ヨリ金圓ヲ詐取セントシ未ダ遂ケ得ザリシモノト判定シ刑法第三百九十條同第三百九十七條同第三百十三條同第三百十二條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮三月ニ處シ罰金五圓ヲ加附シ同第三百九十四條ニ依リ監視十月ニ付スル旨言渡シタル裁判ニ服セス被告半田正勝ハ上告ヲ爲シテ其要領ハ高芝龜太郎ヨリ依頼サレ證書ヲ手寫シ該證書ヲ以テ松井玄太ニ對シ金圓返辨ノ督促ヲ爲シタルニ同人ニ於テ借用シタル覺ナキ旨ヲ主張スルニ依リ其覺ナキトノ證ヲ取リ右ノ依頼ヲ辭セントナシタルモ金圓ヲ詐取セントシタル覺之レナク而シテ原裁判所ニ對シ證人ノ喚問ヲ請求スルモ採用セラレズ今井浦次郎等カ無證ノ妄言ヲ採リ詐欺未遂罪ト判定セラレタルハ不當ナリト云フニアリ

對手人檢事補村田穂ハ本按上告ハ原裁判官カ事實證據ノ取捨ヲ非難スルニ外ナラス上告ノ理由ナキモノナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審理判決スル左ノ如シ

被告半田正勝上告ノ旨趣ハ要スルニ被告ハ金圓ヲ詐取セントシタル覺ナク而シテ原裁判所カ證人ノ請求ヲ採用セス今井浦次郎等ノ妄言ヲ採リ詐欺未遂犯ト認定セシハ不當ナリト原裁判官カ認定セシ事實ニ對シ其當否ヲ論難シ以テ上告ノ理由ト爲スト雖凡ソ諸般ノ證據ヲ採リ事實ヲ判定シ且證人ヲ喚問スルト否トハ原裁判官ノ特有スル權内ニ屬スルヲ以テ他ヨリ漫リニ論及スルヲ得サルモノトス而シテ今訴訟書類ニ徴スルニ原裁判ハ毫モ不法ノ點アルヲ見サレハ本按上告ノ旨趣ハ相立ナサルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之

ヲ棄却スルモノ也

第千五十二號

○判文(印影盜用) 明治十六年五月八日上告
同 十七年四月廿四日發付

岡山縣美作國久米北條郡中

山手與村平民

日 並 忠 作

明治十六年四月

四十年一ヶ月

明治十六年四月十一日岡山縣裁判所津山支廳ニ於テ右日並忠作ハ印影盜用ノ罪アリト判
定シ刑法第二百八條同第二百十二條ニ依リ重禁錮十月罰金六圓附加監視八月ニ處スル旨宣
告セリ

日並忠作ハ右ノ裁判ニ服セス上告ヲナシタル要旨第一點ハ原裁判言渡書ニ明示スル事實ニ
因レハ刑法第二百八條同第二百十條同第二百十二條同第四百條ヲ適用スヘキニ原裁判所ハ
單ニ刑法第二百八條同第二百十二條ノミヲ適用シタルハ事實ノ理由ニ齟齬アルトノ其第
二點ハ被告ハ刑法第二百八條ノ罪アリトスルモ重禁錮ト罰金ト二箇ノ主刑ヲ併科シタルハ
擬律錯誤ナリトノ其第三點ハ共犯福島光太郎カ詐欺取財未遂罪ノ事件ニ對シ刑法第九
十七條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ナリトノ事其第四點ハ被告ハ同被告人明石春太郎ノ依頼ニ
應ジ其祖父集達ノ承諾ヲ得同人名義ノ證書ヲ起草シタル行爲ナレハ印影盜用ノ犯罪者ニア
ラズト云フノ四點ニアリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事武内維積ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

上告要旨第一點ニ於テ原裁判ハ事實ノ理由ニ齟齬アル旨論告スト雖モ今原裁判書ヲ閱スル
ニ被告ハ明石春太郎外一名ト共謀シテ春太郎ノ祖父明石集達ノ實印ヲ盜用シ權利義務ニ關
スル證書ヲ偽造シ未ダ行使セザリシ事實ヲ明記セリ果シテ然ラハ印影盜用ノ罪ハ其盜用シ
タル證書ヲ行使スルト否トヲ論セス已ニ盜用スル時ニ於テ成立スト雖モ證書偽造ノ罪ノ如
キハ其證書ヲ行使セザル以上ハ偽造罪ノ成立セザルハ即チ刑法第二百十條ノ明文アリテ明
瞭ナリ然ラハ則チ原裁判ハ右ノ事實ニ對シ證書偽造ノ罪ハ未ダ成立タサルモノトナシ單ニ
印影盜用ノ罪ノミヲ論シ刑法第二百八條同第二百十二條ヲ適用シタルハ相當ニシテ之不
當ノ裁判ト爲スヲ得ス又第二點ニ於テ原裁判ハ二箇ノ主刑ヲ併科シタル云々ト論告スレモ
則チ刑法第二百八條ニ他人ノ私印ヲ偽造シ云々六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上
五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ他人ノ印影ヲ盜用シタル者ハ一等ヲ減ストアルヲ以テ此條
ニ該ルノ罪ヲ犯シタル者ハ禁錮罰金ヲ併科スルハ本條ノ律意ニシテ必シモ原裁判書ニ罰金
ヲ附加スト記載セザルトテ之ヲ以テ擬律錯誤ノ裁判ト云フヲ得サルモノトス然リ而シテ上
告要旨第三點ハ他人ノ判決ニ對シ不服ヲ訴ヘ其第四點ハ原裁判所承審官ノ認定シタル事實
ニ不服ヲ訴フル者コソテ共ニ治罪法第四百十條各項ニ規定スル上告ノ原由ナキモノトス因
テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スル者也

第千五十三號

○判文(官印及證書偽造) 明治十六年四月十六日上告
同 十七年四月廿四日發付

静岡縣駿河國志太郡高柳上
村平民

三宅梅吉

明治十六年一月
二十二年十一月

同縣同國同郡南新屋村平民

青島角藏

明治十六年一月
四十五年十月

明治十六年一月九日静岡重罪裁判所ニ於テ右三宅梅吉青島角藏カ被告事件ヲ審判シ數罪中
一ノ偽造官印ヲ使用セシ罪ヲ重シト爲シ刑法第九十五條ニ依リ梅吉ハ重懲役九年角藏ハ
自首セシヲ以テ一等ヲ減シ輕懲役六年ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ原裁判所檢事補三浦
翁輔ハ上告ヲ爲シタリ其趣意ハ被告人等カ兵長役場ノ偽印ヲ押捺シテ田地抵當ノ證書ヲ偽
造シ之ヲ以テ金圓ヲ借受ケントシテ未ダ遂ケザリシ所爲ハ偽印使用ノ未遂犯ナルニ原裁判
官ハ其事實ヲ認メナカラテ刑法第九十五條ニ依リ既遂犯ト爲シテ處斷セシハ擬律ノ錯誤ナ
リ抑偽印ヲ使用スルトハ之ヲ押捺シタルノミノ所爲ヲ指スニ非スシテ必ス之ヲ僞用シテ其
目的ヲ果スルニ要ス今被告人等ハ偽印ヲ押捺セシモ其金圓ヲ借受ケルノ目的ヲ果スルヲ得ザ
リシモノナレハ未遂犯タル明瞭ナリト云フニ在リ大審院於テ治罪法第四百二十五條ノ定
式ヲ履行シ檢事武内維精ノ意見ヲ聽クニ原檢察官ハ被告事件ヲ以テ未遂犯ナリト論告スル
モ偽印使用ノ罪ハ之ヲ文書ニ押捺セシ時ニ成立タルモノナレハ假令其目的ヲ果スルヲ能ハサ

ルモ之ヲ以テ未遂ナリト云フヲ得ス故ニ原裁判所カ其偽造證書ハ未ダ行使ヲ遂ケサルモ
偽印ハ已ニ使用シタル者ト判決セシハ相當ノ裁判ニシテ上告ノ論旨ハ使用ト行使トノ區別
ヲ誤解セシモノナレハ因リ速ニ棄却ノ言渡アラント望ムト陳述セリ被告代官八高梨香四
郎ハ附帶ノ上告ヲ爲シタリ其要領第一本案一件書類ニ依ルニ被告角藏ニ於テ池谷源七所有
ノ地券ヲ以テ大澤莊四郎ニ依頼シ佐藤敬作ヨリ金五十圓借受ケントシタルモ其石上喜平所
有地抵當證書等ハ會テ他人ニ示シタルヲナク之ヲ以テ金圓借受ケントシタル事實ナキハ本
犯及ヒ各證人ノ陳述相符合セリ然ルニ原裁判所カ被告人等ハ石上喜平所有地抵當ノ金百圓
借用證書ヲ偽造シ之ヲ以テ佐藤敬作ヨリ金圓ヲ借受ケントシタリト認定セシハ事實違背ノ
認定ニシテ即チ越權ノ處分ナリ第二原判文ニ刑法第九十五條第二百四條及ヒ第二百十條
ヲ適用セシモ右數條中ニハ各種ノ罪狀ヲ掲載セシニ因リ被告人ノ所爲ハ何等ノ罪ニ該當ス
ルトノ理由ヲ一々明示セサル可カラズ然ルニ之ヲ明示セサルハ法律ノ理由ヲ付セサルモノ
ナリ第三被告人等ノ目的ハ詐欺取財ニ在リテ其官印及ヒ證書類ヲ偽造セシハ共ニ目的ヲ達
スルノ材料ニ供セントスルニ過キス而シテ未ダ之ヲ行使セス其事ヲ行ハサルモノナレハ即
チ詐欺取財ノ豫備ヲ爲スニ止リ法律上之ヲ罰ス可キモノニ非ス然ルニ偽印使用ノ罪アリト
斷定セシハ擬律ノ錯誤ナリ以上三個ノ原由ニ因リ原裁判ヲ破毀ス可キモノト思考スルヲ以
テ上告ノ論旨ニ對シ別ニ答辨ヲ爲スヲ要セスト論告シタリ依テ判決ヲ爲スノ左ノ如シ
原裁判言渡書ニ被告ハ明治十四年十月中田中虎吉ニ依頼シ駿河國志太郡高柳下村戶長役場
ノ印ヲ偽造シ賞ヒ明治十五年七月中青島角藏ト相謀リ右高柳下村石上喜平所有ノ田地ヲ抵

當ニ喜平ヲ借主角藏ヲ證人ト爲シ戸長代理用係青島權平ノ公證シタル金百圓ノ借用證書并
 青島權平ノ地券預リ證書及ヒ石上喜平ノ委任狀ヲ偽造シ各名下へ有合印ヲ押用シ偽造シタ
 ル戸長役場印ヲ捺捺シ右證書ヲ以テ佐藤敬作ヨリ金圓ヲ借受ケント已ニ其事ヲ行フト雖モ
 信容セラレシテ果サハリシコトハ云々トアル事實ニ依レハ偽造證書ヲ行使シテ金圓ヲ騙取
 セントシタル所爲アル者ノ如シ而シテ其擬律ニ至テハ證書偽造ノ所爲ニ對シ未遂犯罪ノ例
 ヲ適用シ詐欺取財ノ所爲ハ之ヲ論擬セス且訴訟書類ニ徵スルニ被告角藏ハ他ノ地券ヲ以テ
 金圓ヲ借受ケントシタル者ニシテ石上喜平記名ノ證書ヲ行使セシ事實ハ毫モ見ル可キモノ
 ナン之ヲ要スルコト言渡書ニ掲載スル所ノ事實ノ理由明瞭ナラサルヲ以テ被告人等ノ所爲ヲ
 確認スルコトヲ得ス故ニ原檢察官ノ上告及ヒ被告代理人附帶上告第三ノ論旨ハ共ニ擬律ノ錯
 誤アリト云フニ在ルモ其事實ヲ確認スルコトヲ得サルニ依リ法律ノ適用上果シテ錯誤アリヤ
 否ノ理由ヲ監査スルニ由ナキモノニシテ即チ事實ノ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリトス已
 ニ此點ヲ以テ原裁判ヲ破毀スヘキモノナレハ其他上告論旨ノ當否ハ一々之ヲ辨明セズ
 右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十八條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ被告事
 件ヲ名古屋重罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ
 第千五十四號

○判文(詐欺取財)明治十六年十一月六日上告
 十七年四月廿四日發付

高知縣土佐國高岡郡能津村
 字大端二十二番地平民農

岩川林三郎

明治十六年九月

三十二年

右林三郎カ被告事件ニ付明治十六年九月二十八日高知輕罪裁判所於テ被告人ハ同郡佐川村
 米田吉兵衛方ニテ止宿料飲食代金共無拂ノ儘程能申許リ立去リタルモノト認定シ刑法第三
 百九十條ニ依リ重禁錮二月十五日ニ處シ罰金五圓ヲ附加シ同第三百九十四條ニ依リ監視八
 月ニ付スト言渡タリ
 右ノ裁判ニ對シ被告人林三郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ同宿人中山作三郎ナル者ニ該金ノ仕
 拂ヲ依頼シタルノ事實ナレハ須崎警察署佐川分署ニ於テ同人ヲ召喚アツテ其取調アランコ
 ト申立シモ採用セラレヌ又其後一回ノ豫審調ヲモ受ケヌシテ刑ニ處セラレタルハ不當ノ裁
 判ナリト云フコトアリ

原裁判所檢察補村田穂ハ原裁判至當ニシテ上告ノ理由ナキ旨答辨セリ
 本院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ
 本案上告ノ旨趣ハ證人ノ召喚ヲ採用セス又豫審ノ取調ヲ受ケヌシテ刑ノ言渡アリタルハ不
 當ナリト云フコトアレトモ一件書類ニ依テ徵スルニ該證人ノ召喚ヲ請求シタル證據更ニ之ナ
 キヲ以テ無根ノ陳言ニ過サルモノトス又輕罪ト思料シタル事件ニ付テ豫審ノ取調ヲ要スル
 ト否トハ原檢察官ノ權内ニアリテ毫モ治罪法ノ定規ニ違背セシ廉ナケレハ之ヲ以テ上告ノ
 理由ト爲スヲ得ス其他止宿料飲食代金ノ仕拂ヲ中山作三郎ニ依頼シタリトハ只原裁判官ノ
 認定ニ反シタル事實ヲ陳ルニ止マリ固ヨリ本院ニ於テ之レカ當否ヲ判別スルノ限ニ非ス

右ノ理由ナルヲ以テ該上告ハ總テ相立サルニ付治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

第五十五號

○判文(詐欺取財)明治十六年十一月廿六日上告
十七年四月廿四日發付

東京府淺草區材木町居住平

民油商

齋藤安右衛門

明治十六年九月

四十二歲

詐欺取財被告事件ニ付明治十六年十月三十一日橫濱輕罪裁判所ニ於テ右被告人ニ對シ物質ヲ變換シタル魚蠟ヲ以テ他ヲ欺罔シ將ニ賣買ヲ結了セントスルニ方リ其不真ノ所爲ヲ發見セラレタル者ト判定シ刑法第三百九十條及ヒ第三百九十四條ニ依リ重禁錮三月ニ處シ罰金八圓監視六月ヲ附加ストノ旨渡テ爲シタリ
被告齋藤安右衛門ハ該裁判ニ服セスシテ上告ヲ爲シ其趣意ヲ四項ニ開陳スト雖也之レヲ要スルニ本件ハ第一號證乃至第三號證ニ因リ導引ノ魚蠟ヲモルフ商會ニ輸送シ其代價ハ貫々即チ試驗ノ上授受ス可キ未必ノ條件ニシテ殊ニ第四號證ノ如ク注文主平間屋萬吉ヨリ約定期限ニ先チ火急ノ催促依頼ヲ受ケタルニ因リ雇人等ニ命ジ迅速製造センメタルハ或ハ粗製ノ物質アリタルヤモ難測故チ以テモルフ商會ヨリ談判ニ應ジ更ニ一罐ニ付三拾錢宛直下ケノ旨ヲ諾シタリ是等渾テ民事上ノ契約ニ成立ナタルヲ勿論ニシテ若シ雙方合意セサレハ其

義務ヲ解除スル平或ハ損害ノ要償ヲ爲ス平ノ問題ニシテ決シテ刑法ノ制裁ヲ受ク可キ者ニアラヌ且該魚蠟ハ上告人自ラ手ヲ下シ製シタル平雇人等之ヲ製シタル乎其區分ヲ爲ス最モ關係ヲ有スル者ナリ又物質變換トハ惡意ヲ以テ詐術ヲ施スノ義ニシテ上告人カ有心故造及ヒ詐欺ノ性質ハ何等ノ點チ指稱セシ平原裁判所ハ毫モ是等ノ理由ヲ證明セスシテ上告人ニ刑ヲ首渡シタルハ治罪法第四百十條第七項第九項第十項ニ相當スル不法ノ裁判ナリト思料ス假ニ原裁判ヲ當レリト看做スモ其言渡書ニ掲ケルカ如ク其物件ハ試驗ノ際發見セラレタル者トアリテ未ダ半錢ノ代價モ受取リタル者ニ非サレハ未遂犯罪ノ例ニ照ス可キヲ當然ニシテ是亦法律錯誤ノ裁判ナリトス依テ破毀シテ更ニ無罪ノ旨渡アラントチ冀望スト謂フニ在リ

對手人檢事深美友成ハ被告人ニ於テ上告ノ論旨ヲ四項ニ分ツモ其第一乃至第三ハ事實點ニ涉ルヲ以テ其効ナカル可シ其第四擬律錯誤アリト言フノ點ハ固ヨリ言渡書ニ因リ未遂犯罪ナルヲ明晰ナレハ其理由アリトノ旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ被告代官人今村角太郎ノ論辨ヲ聽クニ上告趣意書ニ掲ケタル理由ヲ敷衍シ且擴張ノ趣旨ヲ約言シテ曰本案ニ對シ原裁判官カ金城鐵壁トシ據テ以テ認定シ下シタル犯罪ノ證據ハ第一ヨリ第四ニ至ル事實ニ外ナラス此事實タルハ徒ニ第二號證以下云々ヲ陳列シタル迄ニシテ是ノ犯罪ノ證據ナリト明示シタルニアラス且其第二ニ掲ケタル被告自白スルコトアル事實ノ如キハ各調查ニ於テ未ダ曾テ被告人自白シタルコトアルニ非ス以上ハ事實ノ理由不備又越權ノ處分アル者ト思考ス加之原裁判ハ擬律錯誤ノ甚キ

者二個アリ何ソヤ被告事件ハ故意ノ所爲アルニ非ラス故ニ原裁判所モ亦其犯罪ヲ證明スル
 不能ハサルニ非スヤ然レハ則無罪純白ヲ以テ待ツヘキニ失當ナル判決ヲ爲シタルト是レ其
 第一點ナリ假ニ原裁判ニ數歩ヲ與フルモ其未遂犯罪タルト照々ナリ是レ其第二點ナリ依テ
 其第一點ニ原キ破毀ヲ無罪ノ言渡アラント望ムト痛論シ檢事武内維積ハ原裁判言渡ハ
 不完全ノ慶アルニ因リ附帶ノ上告ヲ爲シ破毀ヲ求メント欲スルヲ以テ敢テ上告論旨ニ對シ
 逐一辨明ヲ爲サスシテ直ニ其趣意ヲ開陳ス可シ

抑原判文中ヨリ引魚蠟云々不頁ノ所爲ヲ發見セラレ末文將ニ被告ノ術中ニ陷ラントスル迄
 ニ至リシモノトアルハ則チ未遂犯罪ノ事實ヲ示シタル者ノ如ク而シテ刑ノ適用ニ至テハ單ニ
 刑法第三百九十條ヲ適用シタルハ被告ノ人カ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス加之原
 判全文體ニ就キ之ヲ熟閱スルニ詐欺ノ罪ヲ構造ス可キ原素ヲ明示セヌ又財ヲ得タルヤ否ヤ
 不分明ニシテ要スルニ事實ノ理由完備セサルカ爲メ被告犯罪ハ已遂ナルヤ將タ未遂ナリヤ
 抑又故意ニ出タリヤ否ヲ檢案スルニ由ナキ者ニシテ治罪法第四百十條第九項ノ場合ニ相當
 スル不法ノ裁判ナリトス然レハ上告人カ第一ヨリ第三ニ至ル論辨ハ畢竟事實點ニ涉ルヲ以
 テ其理由不相当者トノ旨ヲ述ヘタリ仍テ判決スルノ如ク
 原裁判官渡書ヲ審按スルニ被告ノ阿部萬吉ノ注文ニ應ジ魚蠟二百七十函百斤ニ付代價五
 圓五拾錢ノ約定ヲ爲シ内二百廿函善長ナル物質ノ如ク裝飾シ萬吉ノ約定主ナル外國人居留
 地百七十番館へ輸送シ品改ノ上將ニ賣買ヲ完了セントスルニ方リ不頁ノ所爲ヲ發見セラレ
 タル者ト判定シタル者ナリ其證據トスル所ハ第一被告人ヨリ差入タル第二號約定證第二魚

蠟ヲ沸騰セシメ滓ノ沈澱スルヲ待タズ雖詰セシトノ被告人自白第三鑑定人ノ陳述第四鑑定
 書ナリトス其二號證明治十六年五月十日付齋藤安右衛門ヨリ横倉徳藏へ宛タル約定書ノ騰
 本ヲ閱スルニ「一ナリ引魚蠟石油明銅子ニッ入二百七十函云々賣館納メノ期限ハ本月廿五
 日限り荷物不殘無相違相納メ貫々相濟次第代金御拂可被成下」云々トアリ而シテ被告人ノ
 自白ハナリノ沈澱スルヲ待タズ雖詰セシ所以ハ注文主ヨリ渡シ期限ヲ短縮セシニ因リ調製
 ヲ急キ斯ク鹿製ニ及ヒタリト云フノ趣意ニ在リ又鑑定人石川周藏外二名カ陳述ハ沸騰ノ後
 暫ク時間ヲ經サレハアメ又ハヤケヲ混入スルヲ免レ難シト云フノ意ニシテ其鑑定書ニ述
 ブル所モ亦大同小異ナレハ要スルニ鹿製品ト云フニ外ナラスシテ故テ不頁物ヲ混淆シタ
 ルトノ言ヒアルニ非ラス由是觀之該約定書ニ所謂ナリ引魚蠟トアルニ違背シタル民事上ノ
 責任アリヤ否ヤハ茲ニ無用ナルヲ以テ之ヲ辨明セスト雖トモ以上掲ケル證據ニ因リ被告人
 カ故意ニ濫惡ノ魚蠟ヲ製出シタル證トハ看做ス可ラサル也況ヤ物質ヲ變換シタルノ證左チ
 學示セサルニ於テオヤ又該約定書ニ所謂貫々トハ檢査ヲ終ヘタル後授受ス可キ主旨ナル乎
 其意義ノ解釋ヲ聽クニ由ナシト雖モ果シテ檢査ヲ終ヘタル後授受ス可キ主旨ナル乎
 爲發覺シタル者ナレハ詐取シタル金ハ若干ナル乎明示セサル可カラズ原裁判官渡書ニハ一
 且檢査ヲ終ヘ直引ノ談判ヲ爲シ將ニ被告ノ術中ニ陷ラントスル迄ニ至リシ者ナレハ他チ欺
 罔セントノ惡意ニ出シテ明確トアリテ已ニ其金品ヲ詐取シ得タリヤ否ハ不問ニ附シタリ若
 シ未タ財物ヲ詐取セシニ非サレハ單ニ刑法第三百九十條ヲ適用ス可キ者ニアラス何トナレ
 ハ該條ハ人チ欺罔シ財物若シハ證書類ヲ騙取シタル者ニ適用スヘキ法律ナレハナリ抑詐欺

ノ原素タル民事ノ詭計ト刑事ノ詭計トノ二種ヲ區別スルコト最モ緊要的ニシテ即チ刑法ノ制
裁ヲ受ク可キ部分ヲ證明セシムルハアル可ラス夫レ刑法ニ定ムル所ノ詐欺取財ノ罪多端ナリ
ト雖モ其原素ハ詐欺ノ方法不正ノ策略財物ノ交付等ニ因テ成立ツ者ナリ故ニ本案ノ如キハ
其詭計ノ起因如何詐欺取財ノ性質ヲ具備スルヤ否ヲ審察シ而シテ其實及ヒ法律ノ理由ヲ
明示スルニアラサレハ本院ニ於テ裁判ノ當否ヲ監査スルコト能ハサル者トス然レハ被告人カ
前數項ニ論告スル所ハ專ラ事實點ニ在リテ之カ覆審ヲ求ムルノ資料ト爲ルモ上告破毀ヲ求
ムノ理由ト爲スニ足ラス其末項未遂犯罪ナリトノ論旨ハ正當ノ理由アルモノトス結局原裁
判ハ治罪法第四百十條ニ定メタル第九第十ニ相當スル上告ノ理由アル不法ノ裁判ナリト判
定ス

右ノ理由ナルヲ以テ上告中法律點ニ係ル部分及ヒ附帶上告ノ趣旨ニ依リ治罪法第四百廿八
條ニ從ヒ原裁判旨渡ノ全部ヲ破毀シ東京輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムル者也
第千五十六號

○判文(毆傷) 明治十六年四月五日上告
同 十七年四月廿四日發付

群馬縣上野國南勢多郡青柳
村平民

塚田常三郎

毆打創傷被告事件ニ付明治十五年十二月十五日前橋輕罪裁判所ニ於テ刑罰法第二百一十一條ニ依
三十五年十二月
三十五年四月
刑罰法第二百一十一條ニ依

リ同第九十條ニ照シ六月ノ重禁錮ニ處スト言渡タル裁判ニ對シ被告塚田常三郎ハ上告ヲ爲
シテ其要領ヲ約スルニ豫審ト公判ト其言渡ニ示シタル證據ノ相違アルハ被告カ犯罪ノ證
憑不充分ナリトシテ證人山本「ミカ」ハ被害者ノ親屬ナリトシテ被害者ノ傷ハ輕微ナリシ
其手當ヲ拒ミ求メテ其傷ヲ重大ナラシメタルモノナリトシテ以上陳述スル如キノ次第ナル
ニ原裁判所カ有罪ナリト認定セシムル不當ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人檢事補山村貫一郎ハ原裁判ハ相當ニシテ上告趣旨ハ破毀ノ理由ナキ旨答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
諸般ノ證據ヲ取捨鑑別シ事實ヲ判定スルハ裁判官ニ任從シタル特權ナレハ職ノ之ニ侵入シ
左右ス可カラサルハ治罪法ニ其明文ヲ掲載セリ然ルニ本案上告論旨ハ豫審ト公判ニ證據ノ
相違アリ證人ハ被害者ノ親屬被害者ノ傷ハ輕微ナルヲ求メテ重大ナラシメタルト云フト雖
モ要スルニ事實ノ當否探證ノ如何ヲ批難スルニ過スシテ治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉ル
ヲ以テ上告ノ理由ト爲ス得サルモノナレハ其趣旨ハ總テ相立タサルモノナリトス因テ治
罪法第四百二十七條ニ違ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノ也
第千五十七號

○判文(水利妨害) 明治十六年四月廿八日上告
同 十七年四月廿四日發付

秋田縣羽後國北秋田郡二井
田村平民

嘉成治兵衛

四三二
明治十六年三月
三十三年
同縣同國同郡同村平民

荒谷忠助

明治十六年三月

三十五年六月

明治十六年三月二日能代治安裁判所ニ開キタル秋田輕罪裁判所ニ於テ右嘉成治兵衛荒谷忠助カ被告事件ヲ審判シ夏候旱天ノ際近傍數村ノ用水ニ供スル引欠川ノ堰根留ヲ修築スルニ託シ水流ヲ壅塞シテ自村ノ田面ニノミ溢流セシメ下流片貝村ニ一擱ノ水ヲ流通セサルニ至ラシメタル所爲即チ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ他人ノ水利ヲ妨害シタル罪アリトシ刑法第四百十三條ニ依リ各重禁錮二月罰金五圓ニ處スト旨渡シタル裁判ニ對シ被告人二名ハ上告ヲ爲シタリ其趣意被告人等ニ於テ引欠川ノ堰根口ヲ修築シ用水ヲ耕田ニ灌カント爲シタル片貝村人民多衆ヲ集メ擅ニ其堰根ヲ破壞シ水利ヲ妨害シタル事實ナルニ裁判官ハ犯罪者ナルヲ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲ス左ノ如シ
被告事件ニ付諸般ノ證據ヲ採擇シテ犯罪ノ有無ヲ判定スルハ法律ニ於テ裁判官ニ任從シタル所ナレハ其職權内ニ侵入シ事實判定ノ當否ヲ論告スルモ之ヲ以テ破毀ノ原由ト爲スルヲ得サルモノトス本案上告ノ如キハ單ニ事實ノ有無ヲ陳辨シ裁判官ノ判定ニ對シ不服ノ旨ヲ訴フルニ過キヌテ要スルニ治罪法第四百十條ノ各項ニ定メタル上告ヲ爲スルヲ得ルノ場合ニ於テ一モ適當スルモノアルニ非ス使テ上告ノ理由ナント判定シ治罪法第四百二十七條

ノ成規ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

第千五十八號

○判文(烟草稅則犯) 明治十六年十一月一日上告
同 十七年四月廿四日發付

東京府麹町區麹町五丁目平
民煙草製造小賣營業

宮下主枝

明治十六年十月

三十八歲十一月

右宮下主枝カ被告事件ニ對シ明治十六年十月十八日東京輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十六年九月二十日舊製造ニ係ル刻煙草量目三匁五分代價三錢五厘賣ノ玉造四百六十箇ニ各二厘不足ヲ生スル二厘印紙ヲ貼用シテ所持シタル者ト認定シ明治十五年第六十三號公布煙草稅則第二十二條及ヒ第三十五條ニ依リ拾圓ノ罰金ニ處スト旨渡シタル裁判ニ服セヌ上告セリ其要領ハ被告カ所持セシ煙草ハ原ト量目三匁五分ニ製造セシモノナレト明治十六年九月二十日前後ハ雨天勝ニテ濕氣ヲ含ミ檢査官島村滿姓ノ臨檢アリシ時ニ於テハ爲メニ其量目四五分モ増加セシモノアリシヲ以テ其際此頓末ヲ具陳シ置キタル次第モアレハ原裁判所ニ向ヒ其事實篤ト取調アリタリト請求シタルニ何ノ理由ヲモ付セヌシテ之ヲ採用セザリシハ審理不盡ノ裁判ナリ尙且該煙草ハ量目五匁以下ノモノニシテ煙草稅則第十五條ニ依レハ毫モ違犯ノ嫌ナキニ之レヲ同則第二十二條及ヒ第二十五條ニ照シ處シタルハ擬律錯誤ノ裁判ニ付被毀ヲ求ムト云ニ在リ

四三三

對手人原裁判所檢事補菊池武夫ハ其上告ノ理由ナキ旨答辨セリ

因テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ審按スルニ其被告カ製造煙草增加量目ノ點ニ就キ仍ホ取調ヲ請求セシコ原裁判所カ之ヲ容レザリシハ不法ナリト主張スレハ箇ハ上告ノ理由トナラズ何トナレハ凡ソ各證據ヲ鑒別シ以テ事實ヲ認定スルハ承審官ニ任從スルモノナレハ其請求ノ事點果テ必要ナリト認メサル場合ニ於テハ敢テ之ヲ許容スルヲ要セサルハ治罪法第四百十六條及ヒ第三百五十七條ニ依テ灼明タルハナリ然レハ其被告カ所持セシ煙草ハ量目五匁以下ニシテ二厘印紙ヲ貼用アリシハ既ニ原裁判所カ認定シナカラテ之ヲ明治十五年第六十三號煙草稅則第二十二條及ヒ第三十五條ニ依リ罰シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス何トナレハ同則第十三條ハ量目五匁以上ノ規則ニシテ其五匁以下ニ係ルモノハ同則第十五條ニ(刻煙草ヲ五匁以下崩シ賣コ爲ストキハ二厘ノ帶印紙ヲ以テ結束ス可シ)トアルニ依ルモノナレハ本案被告ノ如キハ則チ其第十五條ヲ遵守セタル者ニシテ毫モ犯則ノ廉ナクレハナリ是即チ治罪法第四百十條第十項ニ適當スル上告ノ原由アルモノトス右ノ理由ナルヲ以テ審理不盡ナリトノ點ハ治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却シ擬律錯誤ナリトノ點ニ付同法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ其裁判ヲ爲ス可左ノ如シ

宮下 主 枝

原裁判所カ認定セシ事實ハ犯則ノ廉無キヲ以テ無罪
第千五十九號

◎判文(度量衡犯) 明治十六年三月十五日上告
同 十七年四月廿四日發付

德島縣阿波國名東郡佐古町

平民穀物及醬油商

多滿 城源平

明治十五年十二月
二十三年

明治十五年十二月二十二日德島縣罪裁判所ニ於テ右多滿城源平カ所爲ヲ審判シ被告ハ穀物商人コシテ定規ヲ減シタル辨ヲ所有スルノ罪ヲ犯シタルモノト認定シ刑法第八十九條第九十條第二百二十九條第四十三條ニ照シ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加スヘキ所原諒スヘキ情狀アルコト付本刑ニ二等ヲ減シ十五日ノ重禁錮ニ處シ貳圓ノ罰金ヲ附加シ辨ヲ沒收スト旨渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告本人ハ上告セリ其要領ハ本件舊辨ハ亡父源平ノ代明治九年第十七號公布ニ依リ檢査ヲ受ケ不適合ニ付廢字ノ燒印ヲ捺シ下戻サレタルヲ與ノ問押入ノ内ニ置タルニ被告不在中同居ノ幼者カ取出シ玩弄物ノ竹切レト共ニ半切リノ中へ投込置タルヲ檢査官ノ認ムル所ト爲リタルモノニテ決シテ辨ニアラサシテ箱ニ變シタルモノナレハ隨意ニ藏棄シテ妨ケナキモノト信スルナリ又斗概ハ玩弄物ノ竹切レナレハ檢査官モ之ヲ證據トシテ舉示セラレヌ又本件廢器ノ如キ其四方及ヒ裏面ニ廢字ノ燒印アレハ之ヲ以テ賣買セントスルモ他人コ於テ之ヲ諾スルノ道理アラサレハ營業上ニ用ヒサルヤ明カナリ又該辨ハ偽造鑿造ニ係ルモノニ非サレハ刑法第四十三條ニ依リ沒收セラルヘキモノニ非ス然ルニ原裁判所ハ刑法第二百二十九條同第四十三條ニ依リ

處断セシハ不當ナルニ因リ破毀ヲ求ムト云フニ在リ
對手人檢事補川久保亮太ハ本按上告ハ事實上ノ論辨ニ止マリ治罪法第四百十條ニ適當セサ
ル無効ノ上告ニ付棄却アラントテ望ムト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事林三介ノ意見ヲ聽クニ刑法第二百二十九條ハ
偽造變造ニ因リ定規ヲ増減シタル量ヲ所有シタル場合ヲ云フモノニシテ本按ノ如キモノニ
適用スルヲ得ヌ如何トナレハ本按被告人カ所有シタル樹ハ明治九年第十七號公布ニヨリ新
器ニ適合セサルヲ以テ廢印ヲ捺捺セラレタルモ敢テ偽造變造ニ係ルノ證據アルニアラス加
之該公布第二條但書ニ於テ廢スヘキ分ハ廢ノ字ヲ印シ總テ所持人へ下戻スヘシトアルニ依
レハ被告カ之ヲ所有スルハ法律ノ許シタルモノナレハ該樹ヲ使用シテ利ヲ計ラサル限リハ
刑法ノ制裁ヲ受クヘキモノニ非サレハ被告人上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ナリトス且原判文
ヲ閱スルニ被告人ハ該樹ヲ營業上ニ用ヒ現行樹ノ用ヲ爲シタルモノニ有之云々ト明記シテ
於テ該事實タルヤ刑法第三百九十條ニ照シ詐欺取財ヲ以テ論スヘキ者ノ如ク而シテ其末段
ノ理由前後相齟齬スル者ニシテ治罪法第四百十條第九項ニ相當スル不法ノ裁判ナリトス因
テ附帶上告ヲ爲スニ付原裁判ヲ破毀シ相當ノ處分アラントテ望ムト因テ之ヲ審按判決スル
左ノ如シ

本按上告ノ理由トスル所ハ一ニ原裁判官ノ心證判斷ニ對シ其當否ヲ論難スルニ止マルヲ以
テ其効ナキモノトス

附帶上告ノ論旨ニ依リ原裁判官渡書ヲ査閱スルニ中零檢査官カ該樹ヲ發見シタルトキ該樹ハ
現ニ斗概ト共ニ被告人店頭販賣麥半切器ノ内ニアリタルニ依レハ該樹ニ廢印アルニ拘ハラ
ヌ被告人ハ該樹ヲ營業上ニ用ヒ現行樹ノ用ヲ爲シタルモノニ有之云々トアリ而シテ後段ニ
該樹ノ容量ハ定規ノ樹ヨリ三夕六才餘ヲ減シタレハ被告人ノ該樹ヲ所有シタル所爲ハ穀物
商人ニシテ定規ヲ減シタル樹ヲ所有スルノ罪ヲ犯シタルモノト認定ストアリテ一ツハ以テ
廢樹ヲ營業上ニ用ヒ現行樹ノ用ヲ爲シタルモノトシ一ツハ以テ定規ヲ減シタル量ヲ所有セ
シモノトシ其事實前後相齟齬シ未タ法律適用ノ基礎タル事實ノ理由ヲ認定セサルヲ以テ其
擬律ノ當否ヲ鑑別スルニ由ナキ者ニシテ即チ附帶上告論旨ノ如ク治罪法第四百十條第九項
ニ相當スル不法ノ裁判ナリトス因テ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ松山輕罪
裁判所高松支廳へ移シ更ニ審判セシムル者ナリ

第千六十號
○判文(監視規則違犯) 明治十七年四月十日 上告
同 年四月廿四日 發付

三重縣伊賀國阿拜郡小田村
平民大工職

南 出 兼 吉
明治十七年三月
十八年五月

右兼吉カ監視規則違背被告事件ニ付明治十七年三月十九日上野治安裁判所ニ開キシ安濃津
輕罪裁判所ニ於テ被告ハ監視規則ニ違背シ他ノ地方へ旅行シ大坂府天王寺警察署へ自首シ
四三七

而シテ逮捕ノ處分ヲ受ケタル事件ニ付治罪法第四十一條第四十八條ニ依リ大坂輕罪裁判所
 ノ管轄ナリトシ管轄違ノ言渡ヲ爲シタリ原檢察官警部補宮原小三郎ハ此言渡ヲ不法ナリト
 シ上告セリ其要旨ハ抑モ被告カ監視ノ執行ヲ追レタル現行犯ナリシコトハ三重縣監獄本署チ
 引出スニ當リ顯然ナルヲ以テ逮捕搜索ノ手續ヲ爲セリ被告カ犯罪ハ數箇ノ裁判所管轄地内
 ニ於テ爲シタルモノニ非ス亦犯罪ノ地分明ナラサルコトアラス只監視ノ執行ヲ追レ各所徘徊
 セシノミナリ之ヲ法律ニ規定スル繼續犯ト謂フヘキモノニ非ルハ明了ナリ然ルニ原裁判所
 カ管轄違ヲ言渡シタルハ不當ナレハ治罪法第四十條第三項ノ定例ヨリ上告スト云フニ
 在リ本院檢察官ハ被告カ逮捕ノ地ハ天王寺警察署ナリト雖モ犯罪ノ地ハ上野警察署管轄部
 内ナルヲ以テ本件ハ上野裁判所ノ管理スヘキモノナレハ原裁判ノ破毀ヲ求ムトノ意見書ヲ
 送付セリ大審院ニ於テ治罪法第四百五十條ノ公式ヲ執行シ判決スルノ理由ハ
 被告南出兼吉ハ明治十六年十月中詐欺取財ノ罪ニ因リ上野治安裁判所ニ開キ安濃津輕罪
 裁判所ニ於テ重禁錮三月罰金七圓監視十月ノ刑ニ處セラレ主刑滿期後乃チ監視執行中管轄
 署即上野警察署ノ許可ヲ得テ自儘ニ他國ニ立去リ大阪府管内ニ至リ自首セシモノナリ右ノ
 罪ハ現行即時犯ニシテ繼續犯ニ非レハ假令逮捕ノ地ハ天王寺警察署ナリト雖モ犯罪ノ地ハ
 上野警察署ノ管內ナルヲ以テ治罪法第四十條ノ明文ニ因リ勿論安濃津輕罪裁判所ノ管轄ス
 ヘキ事件ナリトス然ルニ原裁判所カ大坂輕罪裁判所ノ管轄ナリトシ管轄違ノ言渡ヲ爲シタ
 ルハ錯誤ヲ免レサル不法ノ裁判ナリトス因テ原言渡ヲ破毀シ直ニ裁判スル左ノ如シ
 前理由ノ如ク被告南出兼吉カ監視規則違反ノ事件ハ上野治安裁判所ニ開ク可キ安濃津輕

罪裁判所ノ管轄ナリトス

第六十一號

○判文(毆傷) 明治十六年四月七日上告
同 十七年四月廿四日發付

岩手縣陸中國九戸郡輕前村

平民徳右衛門次男

關 向 喜 八

明治十五年十二月

三十一年

毆打創傷被告事件ニ付明治十五年十二月二十五日函館重罪裁判所カ刑法第三百一條第一項
 ニ依リ重禁錮二年六月ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ原裁判所檢察根岸敬ハ明治十五年十
 二月二十八日上告申立テ爲シ明治十六年一月八日ニ至リテ其趣意書ヲ差出シタリ而シテ上
 告趣意書ノ期限ハ其申立ノ日ヨリ滿五日ナリト雖モ其最終ノ日即チ明治十六年一月二日及
 ヒ三日ハ休暇ニ當ルニ因リ同月四日ヲ以テ其期限ナリトス然ルニ同月八日ニ至テ趣意書ヲ
 差出シタルハ成規ノ期限ヲ經過シ治罪法第二十條ニ依リ上告ヲ爲スノ權ヲ失ヒタルモノト
 ス因テ本案上告ヲ棄却スルモノ也

第六十二號

○判文(隱匿品交換) 明治十六年五月廿八日上告
同 十七年四月廿四日發付

岐阜縣美濃國可兒郡伊岐津

志村平民

川村金市郎

明治十六年五月二十八日

明治十六年五月八日御嵩治安裁判所ニ開キタル岐阜縣輕罪裁判所ニ於テ右川村金市郎カ被告事件ノ公訴ヲ受理シ被告カ遺失物ヲ拾ヒ得テ隱匿シタル物品ナルヲ知テ交換シタルハ刑法ニ正條ナシトシ刑法第二條ニ依リ無罪ノ旨渡シテ原裁判所檢察官岐阜縣警部補稻吉綱五郎カ右ノ裁判ニ服セス上告ヲナシタル要旨ハ被告カ遺失物ヲ拾ヒ得テ隱匿シタル物品ナルヲ知テ交換シタルハ刑法第四百一條ニ依リ罰スヘキノ所爲ナリ然ルチ原裁判所ハ右ノ事實ヲ認メナカテ無罪ノ旨渡シテタルハ不當ナリト云フコ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事池上三郎ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルコ原裁判書ニ明示スル事實ニ據レハ被告カ志村羽助ト交換シタル烟管ハ交換ノ際羽助カ遺失物ヲ拾ヒ得テ隱匿シタル物品ナルヲ知タルヲ明瞭ナリトス此所爲タル刑法第四百一條詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルヲ知テ之ヲ受ケ云々トアルニ依リ處斷スヘキ者ナリ抑受ルト稱スルハ自己ノ所有物ニ非サル物件チ他ヨリ受ケルノ謂コシテ物件ノ交換モ亦受授ノ二條件ニ外ナラス然ルニ原裁判所ハ此正條ヲ適用セス刑法第二條ニ依リ無罪ノ旨渡シテタルハ不法ノ裁判ナリトス依テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ裁判スルコ左ノ如シ

川村金市郎

前辨明ノ如クナルヲ以テ刑法第四百一條詐欺取財其他犯罪ニ關シタル物件ナルヲ知テ

之ヲ受ケ云々十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ストアルコ依リ重禁錮十一日ニ處シ罰金二圓ヲ附加スル者ナリ

第六十三號

○判文(盜贓故買) 明治十六年四月十八日上告 同 十七年四月廿四日發付

岡山縣美作國久米北條郡錦

織村平民

河本 四郎

明治十六年一月二十年十一月

明治十六年一月十三日津山輕罪裁判所於テ右河本四郎ハ盜贓故買ノ罪アリト判定シ刑法第三百九十九條同第四百條同第三百條第三項ヲ適用シ重禁錮四月ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ監視六月ニ付スル旨宣告セリ

河本四郎ニ於テ右ノ裁判ニ服セス上告ヲナシタル要旨ハ會テ盜贓タルヲ知テ故買シタルコナキニ原裁判所於テ前記ノ如ク判決シタルハ不當ナリト云フコ在リ

對手人原裁判所檢察官檢事補有森曼太郎ハ原裁判相當ナル旨答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事加納久宜ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルコ

證據ノ採擇事實ノ認定ハ原裁判所承審官ノ主權ナリトス本案上告旨趣ノ如キハ原裁判官カ職權ヲ以テ認定シタル事實ニ對シテ不服ヲ訴フルニ過キスシテ治罪法第四百十條各項ニ規定スル上告ヲナシ得ヘキ原由ナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告

ハ之ヲ棄却スルモノナリ

第六十四號

○判文〔證書増減變換〕明治十六年四月十六日上告
同十七年四月廿四日發付

德島縣阿波國海部郡廣岡村

平民

坂田 永藏

明治十六年二月
四十四年生月不詳

明治十六年二月二十四日德島縣裁判所ニ於テ右坂田永藏カ被告事件ノ公訴ヲ受理シ犯罪
ノ證據不充分ナリト判定シ治罪法第三百五十八條ニ從ヒ無罪ノ言渡ヲナシタリ
原裁判所檢察官檢事補丸山重俊ハ右裁判ニ服セス上告ヲナシタル要旨ハ本件ハ證書ヲ増減
變換シテ行使シタル證據充分ナルニ原裁判官カ犯罪ノ證據不充分トナシ無罪ノ言渡ヲナシ
タルハ不法ノ裁判ナリト云ニアリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事澄川拙三ノ
意見ヲ聽キ之ヲ審按スルコ

夫レ證據ノ採擇事實ノ認定ハ原裁判所承審官ノ特權ニシテ他ヨリ喙ヲ容ルヘカラサルモノ
トス今原裁判書ヲ閱スルニ犯罪ノ證據充分ナラサルノ理ヲ明示シ無罪ノ言渡ヲナシタルモ
ノナレハ毫モ不當ノ裁判トナスヲ得ス抑上告ヲナスニハ治罪法第四百十條各項ニ規定スル
原由ナカレ可カラス本案上告旨趣ノ如キ原裁判官ノ職權内ナル採證ノ當否事實認定ノ不當
ヲ論告シ事實ノ覆審ヲ要スルニ過サレハ上告ノ原由トナスヲ得サル者トス因テ治罪法第四

百二十七條ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スルモノナリ

第六十五號

○判文〔官林盜伐〕明治十六年五月十七日上告
同十七年四月廿四日發付

神奈川縣鎌倉郡江ノ島村士

族教導職試補

壬 生 昌 延

明治十六年四月
四十五年十一月生

右昌延カ被告事件ニ付明治十六年四月廿五日横濱輕罪裁判所ニ於テ被告ハ神社境内官林ノ
樹木ヲ擅伐シテ之ヲ井桁ニ使用シタルモノトシ所犯刑法實施以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條
ニ基キ新舊ノ法ヲ比照シ舊法ニ在テハ新律綱領戸婚律棄毀器物稼穡條ニ依リ竊盜ニ準シテ
論シ官物ハ一等ヲ加フトアルヲ以テ贓金一圓以上懲役七十日士族ナルニ付改定律例第十三
條ニ照シ禁獄七十日ニ該リ新法ニ在テハ刑法第四百十九條ニ依リ十一日以上六月以下ノ重
禁錮又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ相當シ新法輕キヲ以テ刑法第四百十九條及ヒ明治十
四年第八十一號布告第二條及第七條ニ照依シ重禁錮十五日ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ
被告昌延カ上告シタル要旨ハ第一被告ヨリ差出シタル證據ヲ明示セサリシハ治罪法第三百
四條ニ背キタルノミナラス同第三百五十八條ノ利益ヲ失フニ至リシヲ第二證據ノ有効無効
並ニ該井戸ノ官有ト否トノ區別ヲ爲サ、ルカ故ニ擬律錯誤ヲ來シタル不法ノ裁判ナルヲ以
テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ原檢察官檢事渥美友成ハ上告第一ノ論旨ハ其理由ナキ旨ヲ答辨

且第二ノ論旨ハ越ヲ異ニスルモ等シク擬律ニ錯誤アルモノト認ムルヲ以テ附帶上告ヲ爲スト述ヘ其理由ハ被告カ所爲ノ事實ニ對シテハ刑法第三百七十三條第三百七十六條ヲ適用スヘキコトヲ同法第四百十九條ニ問擬シタルハ錯誤ナリト云フニ在リ

爰ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ上告代言人大塚成吉ハ上告旨越ヲ擴充シ該伐採シタル木ハ神社境内ノ立木タル判然タルハ其神社即チ中津ノ宮ハ郷社ナリ其郷社境内ニ官林ノアル等ナキニ判文中々津ノ宮境内官林云々又後段ニ井ノ官有ト否ト云々ト掲載アルハ乃チ事實ニ齟齬アル不當ノ裁判ナリト陳辨セリ因テ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ原判文ニ「右ニ依リ被告ハ明治十二年冬中江ノ島神社中津ノ宮境内官林ノ云々其椎冬青木ヲ擅伐シテ之ヲ該井桁ニ使用シタル事ハ犯跡明確ニシテ」云々ト在テ其井戸ノ所有何レニ在ルヤ分明ナラサルモ若シ該井ノ官有或ハ共有ニ係ルハ明治七年司法省第二十號建官林及ヒ社寺境内ノ官有ニ係ル竹木ヲ擅伐シテ民費ニ係ル橋梁及ヒ社寺修繕等ニ用ユル者ハ違令輕重ニ問フテ代價ヲ追徴ストアルヲ以テ明治十四年第七十二號布告第四條ニ從ヒ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ該リ又之レヲ私有トセハ新律綱領盜田野穀麥條ト刑法第三百七十三條ニ相當スルモノナルニ其末段(井ノ官有タルト否ト)論スルニ及ハストス」ト掲載セテ曖昧ニ付シ去レリ然ルニ該井ノ共有タル乎將タ私有タル乎ノ事實ハ前顯説明スル如ク本案斷罪上緊要ノ點ナルコト之レカ審理ヲ盡サス其事實ヲ明示セサレハ法律適用當否ヲ鑑査スルコトナリ即チ治罪法第三百四條ノ法規ニ背キタル不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀スヘキモノト判定ス

一被告カ上告及ヒ原檢察官ノ附帶上告ニ對シテハ前既ニ辨明シタルカ如クニシテ原裁判ノ全部ヲ破毀スヘキモノナルニ付別ニ辨明ヲ與ヘサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ則リ原裁判ノ全部ヲ破毀シ更ニ適法ノ裁判ヲ受シムル爲メ東京輕罪裁判所ニ移ス者也

第六十六號

○判文(竊盜) 明治十六年四月廿五日上告
同 十七年四月廿六日發付

靜岡縣遠江國豐田郡中泉村
九十九番地平民

神谷 菊藏

明治十六年二月
四十三年生月不詳

右菊藏カ被告事件ニ付明治十六年二月十九日靜岡輕罪裁判所濱松支廳ニ於テ被告ハ玉珍蘭ヲ竊取シタルモノトシ犯時新法實施以前ニ係ルヲ以テ刑法第三條ニ依リ賊盜律竊盜條及ヒ刑法第三百六十六條第三百七十六條及ヒ明治十四年第八十一號公布ニ依リ新舊法ヲ比照シ輕キ新法ニ從ヒ重禁錮二月ニ處シタル裁判ニ對シ被告上告ヲ爲シタル旨越ハ佐藤惣平ヨリ玉珍蘭一鉢預リ置キ已ニ買取ルコトニ決意シ代金ノ授受ハ惣平ノ來ルヲ待テ之カ取引ヲ爲スヘキ處同人ヨリ違約シ其蘭取戻シノ談判ニ及ハレ之ヲ拒ミタル末大橋菊次郎幡謙龜吉等ノ取扱ニテ結局示談ノ上第一號第二號證ヲ交換シ濟方ヲ爲シタル然ルニ大橋菊次郎ニ於テ無根ノ官ヲ構造シ見附警察署ニ自首シタルヲ以テ遂ニ無罪者ナル被告ヲ竊盜犯者ナリト判定

セラレタルハ不當ナリト云フニ在リ原檢察官ハ原裁判相當ニテ被告カ上告ハ理由ナキ旨ヲ答辨セリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
本案上告ノ旨趣ハ原裁判官カ職權ヲ以テ爲シタル事實判定ニ對シテ當否ヲ論疏スルニ過キヌシテ治罪法第四百十條外ニ亘ルヲ以テ上告ノ理由ナキモノトス因テ同法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノ也

第千六十七號

○判文(竊盜及竊盜未遂)明治十六年三月二十日上告
同 十七年四月廿六日發付

石川縣能登國鳳至郡柳田村

主部百二十八番地平民

山 岸 勘 次

明治十六年二月十七日十月

明治十六年二月二十日輪島治安裁判所ニ開キタル金澤輕罪裁判所七尾支廳ニ於テ右勘次カ竊盜及ヒ竊盜未遂犯并石川縣違警罪目ヲ犯シタル被告事件ヲ審判シ刑法第三百六十六條同第三百七十五條同第三百七十六條同第三百九十條同第四百三十條ニ依リ仍ホ數罪俱發スルヲ以テ同法第一百條ニ照シ一ノ重キ竊盜罪ニ從ヒ再犯ナルヲ以テ同法第九十二條ニ照シ本刑ニ一等ヲ加ヘ且ツ齡二十歲ニ滿タサルヲ以テ同法第八十一條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ三年ノ重禁錮ニ處シ一年ノ監視ニ付ストノ旨渡ニ對シ同裁判所檢察官茂住定治ハ上告ヲ爲シ

タリ其要領ハ被告カ床板ヲ損壞シテ人ノ宅内ニ入り金品ヲ竊取シタルノ所爲ニ對シテハ刑法第三百六十八條ヲ適用スヘキモノナルコト原裁判此ニ出サルハ不法ナリト云フニ在リ
爰ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ臆ミ判決スルヲ左ノ如シ
抑刑ノ旨渡ヲ爲スニハ治罪法第三百四條ノ明文ニ從ヒ事實及ヒ法律ノ理由ヲ明示シ且一切ノ證據ヲ明示セサル可カラサルハ論ヲ待ストス然ルニ今原判文ヲ監查スルニ止タ其前段ニ檢察官及ヒ被告人カ公廷上ノ陳述ヲ列舉シタルノミニシテ更ニ其判料ニ供シタル一切ノ證據ヲ明示セサルノミナラス其後段ニ至リテモ亦止タ漠然(被告人山岸勘次カ人ノ所有物ヲ竊取シ云々)ト掲ケ去リタルノミニシテ被告ハ果シテ如何ナル方法ヲ以テ竊取ヲ行ヒシモノナルヤ乃チ檢察官カ公訴シタル如ク床板ヲ損壞シテ忍入リシモノナルヤ否ヤ更ニ其認定シタル事實ノ理由ヲ明示セズ殊ニ又被告ハ詐欺取財ノ罪アリトシ刑法第三百九十條ヲ適用シタルモ原判文ノ起頭ニ照スニ此點ハ全ク公訴外ノ事項ニ係ルカ如クナルノミナラス全判文中實ニ被告ハ何人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタルモノナルヤ其事實理由及ヒ證據トモ毫モ之ヲ判示セサレハ從フテ本案法律ノ適否ヲ監別スルニ由シナクシテ之ヲ要スルニ原旨渡ハ治罪法第四百十條第九項及ヒ第十一項ニ相當スル不法ノ裁判ナリトス依テ同法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判旨渡ヲ破毀シ更ニ適法ノ審判ヲ受ケシムル爲メ之ヲ富山輕罪裁判所ニ移スモノナリ

第千六十八號

○判文(官吏侮辱)明治十六年四月九日上告
同 十七年四月廿六日發付

辻 初太郎

明治十六年一月

十九年四月

右初太郎カ官吏侮辱被告事件ニ付明治十六年一月十二日津山輕罪裁判所ニ於テ被告ハ政談社政談以呂波新聞編輯兼印刷長ヲ致居リ明治十五年九月十三日發兌該新聞第一號雜報欄内ニ郵便書狀開封云々ノ一篇ヲ記載シタルハ單ニ大坂郵便局吏ノミナラス我國一般郵便局吏ノ職務ニ對シ侮辱ヲ加ヘタルモノト判定シ刑法第四百一十一條ニ依リ尙ホ同第八十一條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮四月半ニ處シ罰金二十圓ヲ附加スト旨渡シタル裁判ニ服セス被告初太郎ハ上告ヲナシタリ其趣意書及ヒ追申書ノ要領ハ被告カ政談伊呂波新聞第一號ニ掲ケタル郵便書狀開封云々ノ一篇タルヤ偶々其文詞中郵便局又ハ官吏ノ文字アルモ固ヨリ局名及ヒ官氏名ヲ的指シタルニアラサレハ官吏侮辱ニアラス又暫ク一步ヲ讓リ侮辱ニ涉ルモノトスルモ官吏侮辱ナルモノハ官吏ノ職務ヲ行フノ場合ニアリテナシタルモノナク云フモノニシテ本案被告事件ノ如キハ官吏職務ヲ行フニ方リ侮辱ヲ加ヘタルニアラサレハ刑法第四百一十一條ノ支配ヲ受クヘキモノニアラス依テ被告ノ行爲ハ到底罪トナラサルモノナリ然ルニ原裁判所ニアリテ大坂郵便局吏ノミナラス我國一般ノ郵便局吏ヲ侮辱シタルモノナリト臆測ノ認定ヲ下シ刑法第四百一十一條ヲ適施セラレタルハ全ク擬律ニ錯誤アル裁判ナルノミナラス原裁判旨渡書ニ只刑法第八十一條ニ依リ一等ヲ減ストノ旨掲ケ何ケ月ニ處スヘキ一

等即チ何月何日ヲ減スト明示セサルハ不當ナリト云フニ外ナラス原檢察官ハ原裁判相當ナリトノ旨趣ヲ答辨セリ茲ニ大審院於テ治罪法第四百廿五條ノ式ヲ履行シ代言人上野熊太郎ノ陳述及ヒ立會檢事武内維積ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
抑被告カ政談伊呂波新聞第一號ニ掲ケタル郵便書狀開封云々ノ一篇タルヤ只漠然官吏トノ旨掲ケタルニアラスシテ既ニ郵便局吏ト指摘シタルモノトスルハ假令官氏名ヲ明示セサルモ郵便局ノ官吏ヲ侮辱シタルヲ明灼ナルノミナラス其一篇ノ趣旨ニシテ郵便書狀取扱上ノ旨ニ涉リタル所アルモノトスレハ即チ官吏ノ職務ニ對シ侮辱シタル行爲タルヤ亦言ヲ俟サルナリ何トナレハ郵便書狀ヲ取扱フハ純然タル郵便局員ノ職務タルハナリ故ニ原裁判所ニ於テ被告ノ行爲ニ對シ刑法第四百一十一條ヲ適施セシハ固ヨリ至當ニシテ擬律ノ錯誤ト云フヲ得サルハ勿論原裁判旨渡書ニ本刑即チ刑法第四百一十一條ノ刑期金額ヲ掲ケ且同法第八十一條ニ依リ其本刑ニ一等ヲ減スルノ理由ヲ明示シ而シテ現ニ適施セシ所ノ刑期金額モ亦其減輕シタル範圍ヲ踰越セサル以上ハ乃チ其何月何日ヲ減スト云フヲ掲ケサルモ敢テ法律ノ理由ヲ示サ、ル不當ノ裁判ト云フヲ得サルヲ以テ要スルニ原裁判ハ破毀スヘキ原由ナキモノトス
以上辨明ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之レヲ棄却スルモノナリ

第千六十九號
○判文(詐欺取財)明治十六年三月十二日上告
同 十七年四月廿六日發付

大分縣豐後國大分郡大分町
宇南新町平民

阪井繁太郎

明治十六年一月
二十六年

右阪井繁太郎ハ詐欺取財被告事件ノ豫審終結旨渡シテ對シ故障ヲ爲シタル所明治十六年一月十三日大分縣裁判所會議局ニ於テ右故障ヲ棄却セシ判決ヲ不當ナリトシ被告本人ハ上告セリ其要點ハ被告所有ノ建家及ヒ屋敷共告訴人片野源八ハ賣渡シタルハ相違ナキモ其敷地ノ如キハ大分縣高社ノ資金ヲ以テ舊府内ノ城堀ヲ開墾セシモノコシテ自分實父亡千代藏ニ於テ之ヲ年賦ノ契約ヲ以テ買受ケタル所其年賦皆濟二期分不納トナルトコロヨリ之ヲ源八ハ賣却シ其年賦不納ノ分ハ源八ヨリ高社ヘ償却ス可キ契約ヲナシ一旦賣買ノ一相決シ被告ハ建家ノモヨ就キ町役所ノ奥書ヲモ受ケ源八ヘ差入之有ル所同人ニ於テ年賦ヲ不納セシ故ニ高社ヨリ嚴敷催促ヲ受ケ其都度源八ヘ通知スルモ同人之ヲ肯セズ終ニ二期分相滯リ非常ノ督促アルヲ以テ已ムヲ得ズ證人後藤彦平ト相談シ同人ト共々源八宅ヘ至リ上納方申入レタル末右家屋敷買返ス事ニ契約セシモ被告ハ即時金員ノ都合出來兼富永儀助ヨリ該金借入レ高社ヘ年賦ヲ皆納シ該社ノ讓渡證ヲ取リ置タリ然ルニ自分實父亡千代藏カ存命ニ中富永儀助ニ若干ノ金圓借用ノ義務終ハラサルヲ以テ右辨償ノ爲メ同人ヘ右屋敷ヲ賣渡シタル次第ニ之アル處源八ヨリ詐欺取財ナリトシ告訴セシハ全ク邪慾ヨリ發シタル不正ノ告訴ニシテ且其家屋敷賣渡證中證人後藤彦平ト記載シタル所ヲ貼紙シ橋本八郎兵衛ト變換シ

又其證ニ八日トアルヲ六日ト描改シタルモノナルニ原裁判所ハ片野源八ノ邪慾且不正ノ告訴ヲ信シ被告ヲ詐欺取財者ト認定セシレ終結シタルハ不法ナルニ會議局カ右ヘ對スル故障申立ヲ棄却セラレタルハ是亦不當ノ判決ナルヲ以テ覆審ヲ請願スト云フニ在リ
對手人原裁判所檢事補新庄久之ハ上告ノ不理ナルヲ辨駁シ原會議局ノ判決ハ相當ニシテ毫モ破毀ノ原由ナキモノト答辨セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ成規ニ從ヒ判決ヲ爲ス左ノ如シ
被告ハ原裁判官ノ心證判斷ニ對シ其當否ヲ論難シ以テ上告ノ理由ト爲スト雖凡ソ諸般ノ證據ヲ採擇シ事實ヲ判定スルハ裁判官ノ特有スル權内ニ屬スルモノナレハ越權等不法ノ廉アルニ非サレハ他ヨリ漫リニ侵入シテ不服ヲ訴フルヲ得サルモノトス今訴訟書類ニ徵スルモ原裁判ハ毫モ不法ノ點アラサレハ本案上告ハ相立タサルモノトメ因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スルモノナリ

第一千七百號

○判文〔詐欺取財〕明治十六年五月一日上告
同 十七年四月廿六日發付

熊本縣菊池郡野間口村士族

仲光 和一

明治十六年四月
二十九年

右和一カ被告事件ニ付明治十六年四月五日熊本縣裁判所於テ被告ハ山本周平ト謀リ木村儀八ヨリ米貳俵ヲ詐取セシモノト認定シ刑法第三百九十四條ニ依照シ重禁錮

四月ニ處シ罰金五圓監視六月ヲ附加スト旨渡シタル裁判ヲ不法ト爲シ被告カ上告シタル其要領ハ被告カ嘗テ下通町旅店へ宿泊セシ際島田卯之吉ナル者ニ初テ逢遇シ商業上ニ付種々懇談アリタルモ被告於テ肯諾セサル處其節山本義虎ト稱スル山本周平ニモ面會シ右兩人ヨリ強請セラレ烟草買入代トシテ遂ニ金五拾圓相渡セシニ其後煙草差送り呉レサルノミナラス相渡シタル代金ヲモ還シ呉レサルニヨリ屢々督促セシ等ノ事アリテ決シテ右周平ト謀リ他ヨリ財物ヲ詐取セントシタルコトナシ然ルニ原裁判所於テ周平カ被告ヲ誣ヒテ共犯トナシ前金五拾圓返辦ノ義務ヲ免レント謀リタル事由ヲモ審究セス容易ニ周平ノ陳述ヲ誤信シ被告カ欺キ取ラレタル金圓ノ證據ヲ舉ケントスルモ排斥シテ直チニ刑ヲ旨渡サレシハ治罪法第四百十條第九第十項等ニ該當スル不法ノ裁判ナリト云フニアリ對手人檢事補世古祐次郎ハ上告旨趣ノ理由ナキヲ論駁シ原裁判適當ナリト答辨セリ因テ大審院於テ專任判事ノ報告及立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

本件上告旨趣ハ山本周平カ被告ヲ誣ニルノ事由アリテ爲シタル陳述ヲ誤信シ共犯トセラレ右周平ニ金圓欺キ取ラレタルコトヲ證明セントスルモ擯斥シテ輒スク刑ヲ旨渡サレシハ事實理由ニ阻礙アリ且擬律錯誤越權ノ處分アル不法ノ裁判ナリト云フト雖モ之ヲ要スルニ原判官カ職權ヲ以テ爲シタル探證并事實上ノ當否ヲ論難シテ不服ヲ訴フルニ過キスシテ訴訟書類ヲ監査スルモ原裁判ハ違法ノ廢テケレハ上告旨趣ハ到底相立タサルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ該上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ

第七十一號

○判文(詐欺取財) 明治十六年十一月一日上告
同 十七年四月廿六日發付

三重縣伊勢國度會郡山田河
崎町平民米穀仲買商

岡澤 松藏

明治十六年十月
十八年四月

右松藏カ詐欺取財被告事件豫審終結旨渡ノ故障ニ對シ明治十六年十月五日安濃津輕罪裁判所山田支應會議局ニ於テ該故障ノ申立ハ相立スト判決爲シタリ

右ノ判決ニ對シ被告人カ上告爲シタル要領ハ抑モ上告者ハ誣告事件ニ付豫審判事ノ訊問ヲ受ケ之カ辨護ヲ爲シタリト雖モ詐欺取財事件ニ付テハ辨護ヲ爲シタルコトナシ然ルニ終結旨渡書ノ冒頭ニ誣告及ヒ詐欺取財事件豫審問處トアリ若シ本件ハ半途ヨリ檢事ノ起訴セシモノトセシカ上告者ニ於テハ其起訴ヨリ以前ニ係ル處分ナルヤ否ヲ知ルニ由ナケレハ亦從ツテ之ヲ知ルニ由ナク因テ該故障ヲ爲シタルニ會議局於テ第一越權ナリトスル申立ハ難相立何ントナレハ第二次豫審調書第二問ニ汝ハ二百圓ヲ詐取セント民事ニ請求シタルモ未ダ遂ケサルモノニ見ユルカ如何トノ答ニ決シテ詐取セントシタルコトアリ因之觀是ハ其訊問ヲ受ケ辨護ヲナシタルコト明瞭ナレハナリ云々是レ不當ノ判決ト云ハサルヲ得ス何ントナレハ該判決ニハ唯訊問ヲ受ケ辨護ヲ爲シタリトノミアリテ豫審判事カ處分ハ越權ニアラズ適法ナルノ理由ヲ明示セサルヲ以テ上告者ニ満足ヲ與フルモノニアラスト云フニアリ同裁判所檢事鶴岡隆ハ原裁判相當ニシテ上告ノ原由ナキ旨答辨セリ

本院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルノ如シ
 本案上告ノ旨趣ハ會議局ノ判決ハ豫審判事カ越權ノ處分アラサルノ理由ヲ明示セスト云フ
 ニアレハ被告カ會議局ニ爲シタル故障ノ申立ハ詐欺取財ニ付テハ一回ノ訊問ヲ受クルノキ
 キヲ以テ之レカ辨護ヲ爲サ、リシニ突然詐欺取財未遂犯罪アリトシ終結ノ旨渡ヲ爲シタル
 ハ越權ナリト云フニアリ故ニ會議局ハ該故障ニ對シ豫審第二次ノ調書第二問ノ答辨ヲ證舉
 シ以テ被告カ故障ノ理由ナキコトヲ判決シタルニアレハ則チ越權ノ處分ニ非サルノ理由ヲ明
 示セシモノコソ之ヲ不法ノ判決ナリト云フヲ得ス又詐欺取財ノ告訴ヲ受タル覺ヘナシト云
 フニヨリ一件書類ニ就テ之ヲ徵スルニ檢察官カ報告ト共ニ詐欺取財ノ豫審ヲ請求シタル事
 實判然タレハ告訴ヲ受サルトハ被告一己ノ苦情ヲ述フルニ過サルモノトス
 右ノ理由ナルニ付本案上告ハ治罪法第四百十條ノ各項以外ニ涉ルヲ以テ同第四百二十七條
 ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノ也

第七十二號

○判文(詐欺取財) 明治十六年四月十六日上告
 同 十七年四月廿六日發付

東京府京橋區靈岸島銀町一
 丁目六番地平民米商

金子倉吉

明治十六年二月

二十八年

右被告倉吉カ詐欺取財被告事件ニ付明治十六年二月六日東京經罪裁判所ニ於テ被告ハ當テ

第四十五國立銀行ハ當座預ケ金ヲ爲シ振出シ手形若干ヲ受取リ置キ其振出シ高ノ預ケ金ニ
 超過スルノ業既ニ金九百四拾圓ニ至ルヲ以テ其餘ノ切手ハ總ヘテ不換券ニ屬シ無効ノモノ
 ナル論ヲ俟サルニ此切手アルヲ奇貨トシ明治十五年八月五日以來數回ニ牧野金七外五名ニ
 對シ右無効ノ切手ヲ有効ノモノト詐リ米及ヒ有効ノ爲換券ヲ騙取シタルモノト判定シ刑法
 第三百九十條同第三百九十四條ニ依リ尙ホ同法第百條ニ照シ右數罪ノ内其犯情ノ重キ牧野
 金七ヨリ米ヲ騙取シタル罪ニ從ヒ重禁錮三年ニ處シ罰金四拾圓ヲ附加シ監視一年ニ付スト
 官渡シタル裁判ニ服セズ被告倉吉ハ上告ヲナシタリ其趣意書及ヒ辨明書ノ要領ハ原裁判官
 カ判定セシタル所ニ依レハ唯單ニ被告カ振出シタル手形ノ無効ナルカ爲メ罪トナリタル
 モノ、如シ果シテ然ラハ其手形ノ無効トナリタルハ即チ銀行ニ於テ金員渡方ヲ拒ミタルカ
 爲ナレハ其過失ハ反テ銀行ニ在テ被告ニアラストス抑モ被告ト銀行トノ關係タルヲ追々七
 万餘圓ノ當座預ケ金ヲモナシタル程ナレハ商業ノ都合ニ依リ時トシテハ預ケ越シトナルア
 リ又借越シトナルアリテ將タ金千圓ヲ借越シテ承諾ヲ受ケ居レハ銀行ヨリ之カ決算ノ
 報知ナキ限リハ本件牧野金七等ハ振出シタルモ銀行ニテ必ス之ヲ拂出スモノト信シ之ヲ振
 出シタルモノニシテ決シテ人ニ損害ヲ加フルハ勿論己レヲ益スルノ惡意アリテナシタルモ
 ノニアラス故ニ被告ノ所爲ハ固ヨリ罪ヲ犯スノ意ナキモノナルヲ以テ刑法第七十七條ニ依
 リ無罪ニ歸スヘキ者ナルニ原裁判官ニ於テハ銀行カ拂出ヲ拒ミタル外相ノミニ推測ヲ下シ
 更ニ過失ナキ被告ノ所爲ニ對シ刑法第三百九十條ヲ適施セラレタルハ全ク擬律ノ錯誤ナル
 ノミナラス原裁判官渡書ニ被告カ詐欺ヲ爲シタル事實即チ其騙取ノ形狀ヲ明示セサルハ即

ナ治罪法第四百十條第九項ニ適合スル不法ノ裁判ナリト云フコアリ原檢察官ハ上告旨趣ハ其理ナキトノ旨ヲ答辨セリ茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ニ從ヒ代言人今泉丘之ノ陳述及ヒ立會檢事澄川拙三ノ意見ヲ聽キ之カ判決ヲ與フル左ノ如シ

上告人ニ於テ牧野金七等ニ切手ヲ振出シタル行爲ハ惡意アリテナシタルコアラサレハ罪トナラスト論スレハ本案被告ノ所爲タル他人ニ害ヲ加フルノ意ニ出タルモノナルコトハ原裁判官ノ認定シタル所ナレハ今ヤ其認定上ニ侵入シ之カ當否ヲ批難スルモ以テ上告適法ノ原由トナスヲ得ス而シテ又上告人ニ於テハ原判文ハ騙取ノ形狀ニ係ル理由ヲ付セサル旨云々辨疏スレハ爰ニ原判文ヲ監査スルニ被告ニ於テ無効ノ切手アルヲ奇貨トシ之ヲ有効ノモノト詐リテ金七外五名ニ振出シ米及ヒ有効ノ爲換券ヲ騙取シタル理由ヲ明示シアレハ毫モ治罪法第三百四條ニ抵觸スル所ナシトス

右辨明ノ如ク本案上告ハ都テ其理由ナキニ依リ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノ也

第七十三號

○判文(證書偽造及詐欺取財)明治十六年十一月八日上告
十七年四月廿六日發付

富山縣越中國上新川郡富山
惣曲輪八十番地平民日麗祿

石倉忠平
明治十六年十月
二十七年

證書偽造及ヒ詐欺取財被告事件ニ付明治十六年十月十一日富山輕罪裁判所ニ於テ刑法第百條ニ照シ一ノ重キ證書偽造ノ罪ニ從ヒ刑法第二百十條ニ依リ二年ノ重禁錮ニ處シ二拾圓ノ罰金ヲ附加シ尙刑法第二百十二條ニ依リ八月ノ監視ニ付スト言渡タル裁判ニ服セス右忠平ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ宮崎治左衛門カ被害者岡崎清助ノ印章ヲ白紙ニ盗用シ所持セルヲ以テ之カ取戻方ノ依頼ヲ受ケ百方盡力セシ迄ニテ假令被告ハ金圓ヲ收受シタルモノト爲スモ其報酬ニ止マリ決シテ詐欺取財又ハ證書偽造ノ罪ト爲ルヘキ謂レナキナリ原裁判所ニ於テ本案ノ如キ裁判ヲ與ヘシハ事實理由ニ阻礙シ且擬律錯誤セル裁判ナルヲ以テ更ニ相當ノ裁判ヲ求ムト云フコアリ

對手人檢事補伊藤甫彦ハ原裁判ハ事實ニ適シタル裁判ニシテ被告ノ上告ハ理ナキ旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル所宮崎治左衛門カ被害者岡崎清助ノ印章ヲ白紙ニ盗用シ居ルヲ以テ之カ取戻方ノ依頼ヲ受ケ盡力セシ迄ニテ假令被告ハ金圓ヲ收受シタルモノト爲スモ其報酬ニ止マリ決シテ詐欺取財又ハ證書偽造ノ罪ト爲ルヘキ謂レナケレハ原裁判ハ事實理由ニ阻礙シ且擬律錯誤アル裁判ナリト云フコ在ルモ原裁判官カ其職權ニ從ヒ諸般ノ證據ニ依リ被告ヲ詐欺取財及ヒ證書偽造ノ罪アル者ト判定シ刑法第百條ニ照シ一ノ重キ證書偽造ノ罪ニ從ヒ刑法第二百十條及ヒ同第二百十二條ニ依リ相當ノ刑ヲ言渡シタル者ナレハ以テ事實ノ理由ニ阻礙シ且擬律錯誤アリト爲スヲ得ス要スルニ上告ノ主旨タルヤ徒ニ原裁判官カ判定セシ

事實ニ立入り之ヲ非難シテ事實ヲ覆審ヲ求ムルニ過キサレハ乃チ治罪法第四百十條第一ヨリ第十一ニ至ル項目ニ適當セサルヲ以テ上告ノ理由ナキ者トス因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却スル者也

第七十四號

○判文(財産藏匿) 明治十六年四月廿五日上告 同 十七年四月廿六日發付

山梨縣甲斐國北巨摩郡神山 村百三十六番地平民農業

功力 林右衛門

明治十六年二月

三十年五月

明治十六年二月九日甲府輕罪裁判所ニ於テ右林右衛門カ財産藏匿被告事件ニ對シ刑法第三百八十八條ニ依リ三月ノ重禁錮ニ處スト旨渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ被告林右衛門ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告カ身代限ノ處分ヲ受ケ財産取調ノ際貸付金及ヒ無盡講金等ヲ取調ヘサルハ全ク誤脱ニ出テタルモノニテ決シテ故意ヲ以テ藏匿シタルニ非レハ無罪ノ旨渡アルヘキモノト思量シタルニ原裁判茲ニ出テス刑法第三百八十八條ニ依テ處斷セラレタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ對手人原裁判所檢事補澁谷孝世ハ原裁判ハ毫モ法律ノ適用ヲ誤リタルニ非シテ上告旨趣ハ不當ナリト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スノ左ノ如シ
本案上告ハ要スルニ事實裁判官カ職權ヲ以テ爲シタル事實ノ判定ヲ不當ナリト云フニ外ナ

ラシテ一モ治罪法第四百十條上告ヲ爲スヲ得ヘキ場合ニ適當セサレハ該上告ノ理由ナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ基キ之ヲ棄却スル者也
第七十五號

○判文(財産漏脱) 明治十六年四月廿八日上告 同 十七年四月廿六日發付

岩手縣陸中國西磐井郡一關 村士族

白石 榮 枝

明治十六年三月

二十九年六月

右榮枝カ家資分散ノ被告事件ニ付明治十六年三月十六日盛岡輕罪裁判所磐井支廳會議局於テ旨渡シタル裁判ヲ不當トシ檢事補福島小太郎ハ上告セリ其趣旨ハ民事原告人カ豫審終結旨渡ニ對シ故障ヲ爲シ得ルハ治罪法第二百四十六條第二項ニ明示スルノ點アルノミ然ラハ其故障アルニ於テハ果テ該條項ニ當ルヤ否ヲ查明スルニ必要ナリトス而シテ其故障趣旨書ニ於ケル其末項ニ至ツテ越權ノ處分ニ對シ故障スル旨記載スト雖モ其前段ニ列載セル所ノ理由ハ悉ク事實且證據上ノ判定ヲ不當トスルコアリテ一モ越權ノ處分アルナケレハ會議局ハ之ヲ棄却スヘキニ其趣意ヲ查明セス豫審終結ノ旨渡シテ取消シ更ニ他ニ移スノ判決ヲ爲シタルハ治罪法第四百十條第十一項ニ該ル不當ノ判決ナリト云ニアリ
對手人被告白石榮枝ハ答辨書差出サス
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審按スルニ

上告ノ要旨ハ故障申立ニ越權ノ處分云々ト記載スト雖モ全面ノ故障ハ悉皆事實且證據ノ點ニ關係セルモノニテ越權ノ所爲ヲ觀セズ然ハ則チ治罪法第二百四十六條第二項ニ當ルヤ否ヲ糾ク之ヲ棄却スヘキニ其明查ヲ欠キ之ヲ受理シテ他ニ移スノ判決ヲ爲シタルハ同法第四百十條第十一項ニ適合スル越權ナリト云ニアレモ會議局ハ民事原告人ノ故障ニ依リ又ハ故障取調中職權ヲ以テ豫審ノ旨渡ヲ取消シタル時ハ其全部ニ付更ニ言渡ヲ爲スヘキハ治罪法第二百五十二條ノ規定スル所ニシテ被告カ財產差押ヲ受ルニ當リ虛偽ヲ申立其差押ヲ免レタルモノト職權ヲ以テ認メタル事實ハ原判文ニ明揭セリ決シテ治罪法第二百四十六條第二項ノ規定ニ違ヒ漫リニ故障申立ヲ受理シテ判決ヲ爲シタルモノトシ越權ノ處分ト云可カラズ故ニ本案上告ハ治罪法第四百十條第十一項ニ適合セス上告ノ趣旨相立サルモノトス右ノ如シナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ハ棄却スルモノナリ

○判文(賭博) 明治十六年五月五日上告
同 十七年四月廿六日發付

山梨縣甲斐國北都留郡初狩
村自德寺住職教導職

多和田文茂

明治十六年四月
二十六年五月

同縣同國南都留郡谷村平民
糸商勝藏妻

鈴木トヨ

明治十六年四月
三十二年

同縣同國同郡桂村平民農

堀口忠平

明治十六年四月
二十二年

右三名カ被告事件ニ付明治十六年四月十九日谷村治安裁判所ニ開キタル甲府輕罪裁判所ニ於テ被告共ハ同年四月十日鈴木勝藏宅ニ於テ現ニ賭博ヲ爲シタル者ト判定シ刑法第二百六十一條ニ照シ各重禁錮二月ニ處シ罰金十圓ヲ附加ス但シ現場ノ博具ハ沒收スト言渡シタル裁判ニ對シ被告三名カ上告ヲ爲シタル主要ハ大同小異ニシテ結局巡查カ被告等ヲ捕獲シタルハ賭博現行ノ際ニアラサル勿論被告等ニ於テ賭博ヲ爲シタル一更ニ之ナシ然ルニ原裁判官カ現場ヲ目撃シタルニモアラサル證人ノ陳述及ヒ他ノ場所ヨリ搜リ出シタル花牌等ヲ證據トシ輒ク之カ現行犯罪トセラレシハ不服ナリト云フニ外ナラシ同裁判所檢察官警部補福富爲則ハ上告其當ヲ得サル旨ヲ答辨セリ玆ニ專任判事ノ報告並立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ上告ノ論旨ハ承審官カ職權ヲ以テ爲シタル探證又ハ事實判定ヲ是非スルニ止リ治罪法第四百十條各項ニ定メタル上告ノ規則ニ適セサレハ其理由ト爲ステ得サルモノトス依テ同法第四百廿七條ニ法リ該上告ヲ棄却スル者也

第七十七號

○判文(賭博) 明治十六年三月廿六日上告
同 十七年四月廿六日發付

兵庫縣攝津國川邊郡廣根村
平民義賣商

飯田 幸吉

明治十五年十二月
六十三年

兵庫縣攝津國川邊郡南田原
村平民農業

村山 佐次郎

明治十五年十二月
三十四年

右幸吉佐次郎カ被告事件ニ付明治十五年十二月七日神戸輕罪裁判所カ博奕事實アリト認メ
刑法第二百六十一條ニ依リ各重禁錮三月ニ處シ罰金十圓ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セ
ヌ上告セリ其要領ハ被告幸吉ニ於テハ博奕ヲ爲シタルコトアルニアラサルニ原裁判所カ博奕
犯ナリトシ刑ヲ言渡サレタルハ事實ニ反シ之レカ理由ノ詳細ヲ付セサル裁判ナリト云ヒ被
告佐次郎ニ於テハ博奕ヲ爲シタルコトナク其犯時ハ負債償却ノ爲メ他所ヘ行キ居リタルハ其
博奕ニ加ハラサルコト明瞭ナリ然ルニ其頗末ヲモ審糾セス單ニ喜多孫左衛門等ノ申供ニノミ
信ヲ措キ刑ヲ言渡サレ且被告ハ本案事件ノ喚起タルコトヲ知ラス出頭スルヤ直ニ裁判官渡
サレタルハ不法ナリト云ヒ仍ホ幸吉ハ上告追伸書ヲ以テ前意ヲ擴張シ破毀アリヲシト要求
セリ
對手人檢事補井水幸三郎ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判毫モ不當ニアラスト答辨セ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニヨリ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルコ

上告ノ理由トスル處博奕ヲ爲シタルコトアルニ原裁判所ハ事實ニ違ヒ刑ヲ言渡シタルハ
不當ナリト云フニ在リト雖モ原裁判所カ各種ノ證據ニ依リ認メタル事實ニ對シ徒ニ不服ヲ
唱フルニ過キサレハ破毀ヲ求ムル原由トナスヲ得ス何トナレハ治罪法第四百十條第一ヨリ
第十一ニ上告ヲ爲シ得ル場ヲ定メタル明文ニ適當セサル訴旨ナレハナリ因テ上告ノ趣旨相
立サルモノト判定ス

以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スルモノナリ

第千七十八號

○判文(毆傷) 明治十六年十一月一日上告
同 十七年四月廿六日發付

高知縣土佐國幡多郡黒川村

士族農業

西尾 義政

明治十六年十月
二十九年四月

右義政カ被告事件ニ對シ明治十六年十月十二日高知輕罪裁判所中村支廳ニ於テ被告ハ明治
十六年八月二十二日夜携帶セシ仕込杖ヲ以テ貞廣「キ」ヲ毆傷シ廿日以上疾病休業ニ至ラ
シメタル者ト認定シ刑法第三百一條ニ依リ一年以上三年以下ノ範圍内ニテ重禁錮一年ニ處
シ犯罪ノ用ニ供シタル仕込杖ハ同法第四十三條ニ照シ沒收スト言渡シタル裁判ニ服セス被

告西尾義政ハ上告セリ其要領ハ被告ニ於テ貞廣「キク」ヲ毆傷セシハ犯蹟明白ニシテ掩フヘ
カラスト雖モ爲メニ二十日以上疾病休業ニ至ラシメタルコトナシ其證憑ハ則チ「キク」カ負傷
後十日ヲ經サルニ隣家ニ於テ入浴シ或ハ料理亭ニ於テ多數ノ賓客ヲ待遇シ又市街ヲ徘徊ス
ルニ動作常人コ異ナラス且醫師ノ診斷書ニ於ケルモ二週間コテ平癒シ職業ハ十八日ヲ經ハ
營ミ得ヘシトアルノミナラス其創傷ノ極メテ輕カリシ等ノ事實ハ隣佑其他公衆ノ認知スル
所ヲ以テ顯著タリ然ルニ原裁判所カ其二十日以上ニ至ラシメット認定セシハ不當ナルヲ以
テ之ヲ破毀シ更ニ酌量減輕ヲ加ヘ至當ノ裁判ヲ仰クト云フニ在リ

對手人原裁判所檢事補市口吉亨ハ逐一之ヲ辨駁シ原裁判ノ不當ナラサル旨ヲ答辨セリ
因テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ審案スルコト被告カ被害者貞廣「キク」ノ疾病
休業時間ヲ諍フハ至ク原裁判所カ治罪法第四百六條ノ特權内ニ於テ採擇セシ證憑ヨリ推
知シ得タル事實ノ點ヲ非難スルニ過キヌシテ同法第四百十條ノ項目ニ適應スヘキ上告ノ原
由ハ絶テ之レナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ棄却スルモノ也
第七十九號

○判文(毆傷) 明治十六年十一月八日上告
同 十七年四月廿六日發付

兵庫縣播磨國飾東郡坂元町
平民當今同郡竹田町寄留鍛
冶職

島野熊吉

明治十六年十月
二十九年三月

右熊吉カ被告事件ニ付明治十六年十月十六日神戸輕罪裁判所姫路支廳ニ於テ二人共ニ人ヲ
毆打創傷シ二十日ニ至ラサル時間疾病休業ニ至ラシメタル罪アリト認メ刑法第三百一
二項ニ依リ尙同第三百五條ニ照シ一月二十日ノ重禁錮ニ處スト旨渡シテ被告熊吉ハ此裁
判ニ服セメ上告セル要領ハ被告ハ實兄島野勇吉カ被害者數内國助ト爭論ヲ爲セシ際十八斗
ノ著ヨリ戸外ニ押出サレ已ムヲ得ヌ朋友某方ヘ退キタル途ニテ固ヨリ現場ニ居合セサレハ
毆打創傷ノ罪ト爲ルヘキノ理ナシ然ルニ原裁判所カ信スヘカラサル數内國助ノ告訴狀並同
人ノ雇人ナル保城兒司雄赤松芳藏及ヒ國助ノ世話ヲ受ケ雇人同様ナル飯田龜吉ノ手續書ニ
依リ二人共ニ國助ヲ毆打シ創傷セシメタル如ク旨渡セシハ即チ事實違背ノ裁判ナルヲ以テ
原裁判破毀ノ上更ニ無罪ノ旨渡アラント求ムト云フニアリ

對手人檢事補宮地直親ハ被告カ上告ノ旨趣ハ原裁判官カ事實ノ判定ヲ非難シ因テ以テ覆審
ヲ求ムルニ外ナラサレハ毫モ上告ヲ爲シ得ヘキ原由之ナキ旨答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告ノ理由トスル所被告ハ國助ノ現場ニ居合セサルニ原裁判所カ信スヘカラサル被害者數
内國助ノ告訴狀及ヒ保城兒司雄外二名ノ手續書ニ依リ二人共ニ國助ヲ毆打シ創傷セシメタ
ル如ク旨渡セシハ事實違背ノ裁判ナリト云フニ在リテ徒ニ原裁判官カ事實ノ判定ニ對シ不
服ヲ訴フルニ過キカレハ上告ノ理由ナキ者ト判定ス何トナレハ事實ノ判定ハ法律上事實裁

判官ニ任委セシ著コシテ治罪法第四百十條ニ右ノ如キ場合ニ於テ上告ヲ爲シ得ヘキトノ定
タアラサレハナリ因テ上告ノ趣旨相立タス
以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却スル者也
第千八十號

第千八十號

○判文(誹毀) 明治十六年五月十六日上告
同 十七年四月廿六日發付

大坂府東區本町二丁目十七
番地此花新聞社假編輯長

西川保二郎

明治十六年四月
十八年七月

右保二郎カ誹毀及官吏侮辱被告事件ニ付明治十六年四月廿三日大坂輕罪裁判所ニ於テ刑法
第二百五十八條第二項及同第四百一十一條第二項ニ照依シ同第四百一十一條第一項
一條ニ則リ仍ホ同第八十一條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮五月ニ處シ罰金三十拾圓ヲ附加
スル旨言渡シタル裁判ニ對シ被告保二郎カ上告シタル要領ハ第一新聞紙上ニ記載セシハ告
訴人タル中井萬兵衛ヲ誹毀セシコアラヌ長シヤ右萬兵衛ナリトスルモ彼レハ新聞紙上ニ記
載セシ場所ニハ扣家アル而已ニシテ其妻ノ名ヲ異ニシ殊ニ其扣家タル増吉ト稱スル戸主ア
リテ之カ小間物商業ヲ爲セリ然ラハ萬兵衛ノ商店ニ非ヌ又同人ハ小間物商業ニモ非ヌ偶然
其氏名而已ト同フセシモノコシテ同人ヲ誹毀セサルト明瞭ナリ若シ之ヲモ同人ニ對スルモ
ト假定スルモ既ニ新聞紙上ニ於テ之ヲ取消シタリ第二兵庫縣警部池永端ノ職務ニ對シ侮

辱ヲ爲シタルニ非ヌ何ントナレハ大東日報ノ記載シタル事項ヲ抄録シ止テ世上ニ傳報スル
ノ本務ヲ盡シタルマテニシテ固ヨリ故意ニ出タルモノニ非サレハナリ抑刑法第四百一十一條
ヲ案スルニ侮辱トハ其人トナリヲ知リ又ハ其人ニ對スル者ヲ云フノ意ニシテ固ト其人ヲ知
ルコアラヌ又故意ニ出サル所爲ヲモ罰ス可キノ精神ニハ非サル可シ然レハ若シ之ヲ犯罪者
ナリトスルキハ刑法第八十九條ニ從ヒ宜シク情狀ヲ酌量アルヘキモノナルニ原裁判玆ニ出
サルハ第四百十條第五項第十項ニ相當スル不法ノ裁判ナルニ付破毀ヲ求ムト云コ在リ對手
人タル同裁判所檢事補坂村番ハ被告カ上告ハ其理由ナキヲ以テ棄却アルヘキトノ一ヲ答辨
セリ

爰ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ承審官ノ爲シタル
事實ノ判定ヲ非難シテ治罪法第四百十條第五項第十項ニ適當スル上告ノ原由アルモノ、如
シ論告スルモ原書類ニ徵スルニ論旨ノ如キ原由アルトナリ將テ新聞紙上取消ヲ掲載セシ連
一旦犯シタル罪ノ消滅スル理由ナシ又故意ノ有無ハ素ヨリ事實點ナレハ事實裁判官ノ判斷
ニ任スヘキハ勿論本案ノ如キ官吏ノ職務ニ對シ侮辱シタリト斷定シタル以上ハ漫コ之ヲ左
右シ得ヘキモノニ非ヌ且酌量輕減ノ如キハ專テ裁判官ノ心證上ニ在テ毫モ他ヨリ喙ヲ容ル
ヘキモノニ非サレハ到底該上告ハ相立タルモノト判定ス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ規定ニ從ヒ本案上告ハ棄却スルモノ也
第千八十一號

○判文(酒造稅則犯) 明治十六年五月廿四日上告
同 十七年四月廿七日發付

山形縣羽前國最上郡清水町
村士族酒造營業

半田運藏

明治十六年五月
三十五年十二月生

右運藏カ被告事件ニ付明治十六年五月七日新庄治安裁判所ニ於テ山形縣罪裁判所カ酒造稅則違反ノ罪アリトシ同則及ヒ改正追加第三十二條同第二十條同第三十五條明治十四年第七十二號布告ニ依リ隱蔽シタル清酒四石五斗一升九合ヲ沒收シ貳拾七圓拾壹錢四厘ト仍ホ二圓ノ罰金ニ處シ無檢査ノ桶ヲ沒收スト旨渡タル裁判ヲ不當ナリトシ檢察官警部石井元治ハ上告セリ其要領ハ被告運藏カ隱蔽酒ヲ入置タル器械ハ刑法第四十三條第四十四條ニ依リ沒收スヘキモノナルニ原裁判所ハ酒造稅則第二十條同第三十五條ニ依リ其器具ヲ沒收スト旨渡タルハ不法ナリト云フニアリ

對手人被告半田運藏ハ檢察官上告ノ趣旨ニ付別ニ意見ナシト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審察スルニ

酒造稅則改正追加第二十條ニ酒造用諸器械ハ使用以前管轄廳ニ申出檢査ヲ受ケ云々トアリ同第三十五條第二項ニ第二十條第一項ヲ犯シタルモノハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收スト特ニ其沒收ノ例ヲ定メタルモノナリ而シテ刑法第五條ニ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサルモノハ此ノ刑法ノ總則ニ從フトアリテ其總則ナキモノハ刑法ニ從テ處分スヘキモノナルモ本案ノ如キ容量檢査前ニ係リ桶ヲ使用シタル所爲ニテ酒造稅

則第二十條ノ違反者ナルヲ以テ同第三十五條ニ依リ之ヲ罰シ其桶ヲ沒收シタルハ允當ノ裁判ナルニ因リ刑法第四十三條同第四十四條ヲ適用スヘキモノナリトノ上告趣旨ハ効ナキモノト判定ス

以上ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却スル者也

第千八十二號

○判文(詐欺取財)明治十六年四月廿日上告
同十七年四月廿七日發付

東京府伊豆國大島加茂郡差

木地村四番地平民

河野勝之助

明治十六年一月
五十四年四月

右勝之助カ詐欺取財被告事件豫審終結旨渡ノ故障ニ付明治十六年一月九日東京輕罪裁判所會議局ニ於テ豫審上私訴ニ付越權ノ處分アリト認ムヘキ點毫モ之レナシ即チ治罪法第二百四十六條第二項ニ適セサルヲ以テ故障ノ旨採用セサルモノナリト旨渡シタル判決ニ對シ民事原告倉田八十吉上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ被告證人トスル宮内林藏ヲ御調モノク其儘豫審終結旨渡ニ相成リシハ不當ナル旨故障申立ル處故障ノ趣意ト反對シタル故障判決ヲ與ヘラレタルハ不服ニ付事實明瞭ナル公明ノ裁判ヲ願フト云フニ在リ對手人即チ被告河野勝之助ハ趣意書ノ送達アルモ答辨書ハ差出サ、ルナリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ上告ニ因リ訴訟書類ヲ審檢スルニ民事原告人カ證

八トシテ喚問ヲ請求シタル宮内林藏ハ民事原告即倉田八十吉カ妻「ナチ」ノ弟ナルコトハ八十吉カ調書ニ徴シテ明白ナレハ治罪法第百八十一條第二ニ該當シ證入タルノ資格之レナキ者ナルヲ以テ豫審係カ此ノ請求ヲ許容セサルハ當然ナリ果シテ然レハ原會議局ニ於テ豫審係カ私訴ニ付越權ノ處分毫モ之レナキ理由ヲ付シ其故障申立ヲ棄却シタルモ亦適當ニシテ之ヲ故障ノ趣意ト反對シタル不當ノ判決ト云フヲ得サルモノトス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ棄却スルモノ也
第千八十三號

○判文(新聞條例違反) 明治十六年四月二日上告
同 十七年四月廿八日發付

茨城縣常陸國多賀郡諏訪村

士族篤行養子茨城日々新聞

舊假編輯長

郡 司 正 名

明治十五年十一月

十九年十月

新聞紙條例違反被告事件ニ付明治十五年十一月二十九日水戸輕罪裁判所ニ於テ明治八年第百十一號布告新聞紙條例第十六條ニ依リ同條例第十五條ニ從ヒ明治十四年第八十一號布告ニ照シ禁獄ヲ重禁錮ニ換ヘ一月以上一年以下ノ重禁錮百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ該ル犯スル滿十六歲以上二十歲ニ滿サルニ付刑法第八十一條ニ依リ一等ヲ減シ尙ホ原諒スヘキ情狀アルヲ以テ同第八十九條同第九十條ニ照シ二等ヲ減シ通シテ三等ヲ減シ同第七十一條ニ

從ヒ七日以上ノ拘留三月以下ノ重禁錮貳拾五圓以上百貳拾五圓以下ノ罰金ニ處スヘキ處同條例第八條ニ罰併セ科シ或ハ偏ニ一罰ヲ科ストアルニ依リ罰金三拾圓ニ處スト言渡タル裁判ニ對シ被告郡司正名ハ上告セリ其要領ハ茨城日々新聞縣會傍聽記欄内ニ掲載シタル茨城縣會ノ議案タルヤ同縣會ノ許可ヲ得傍聽筆記シタルモノニテ同會ノ建議ヲ掲載セシモノニ非ス是以テ其記載方ハ各議員ノ審議討論ヲモ揭ケタリ其之ヲ記載スル日ニ方リ該議案ハ果シテ建議ト議決セシヤ否ヤハ未ダ知了セリルヲ上書建白ト同一視セラレタルハ不法ノ裁判ナルノミナラス新聞紙條例第三條ハ院省使廳ノ許可ヲ經スシテ云々トアリテ府縣廳ノ文字ナケレハ該條例ニ違反シタリトノ裁判ハ旁以テ不法ナレハ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人檢事補若井平世ハ上告趣旨ニ對シ逐一其不理ナルヲ辨駁シ原裁判ハ允當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告ノ理由トスル所ハ被告ニ於テ縣會ノ許可ヲ得テ傍聽筆記シタル所ノ議案ヲ掲載シタル迄ニシテ建議書ヲ登錄シタルニ非ス且新聞紙條例第三條ニハ府縣ノ文字ナケレハ同條例第十六條ノ制裁ヲ受シ可キモノニ非スト云フニ在リ今一件書類ニ就キ該新聞紙ヲ閱スルニ純然タル一篇ノ建議書ニシテ通常會議案ト見做スヲ得ス況ンヤ縣令ニ差出シタルモノナレハ旁以テ其建議書タルハ論ヲ待タヌ又新聞紙條例第三條ニ府縣ノ文字ナシト云フモ院省使廳トアリテ府縣廳ハ其廳ノ字中ニ含蓄スルハ思索ヲ須スシテ明カナリ而シテ被告ハ縣廳ノ許

可キ經ス漫ニ之ヲ新聞紙上ニ登記シタル所爲明確ナレハ原裁判所カ新聞紙條例第十六條ニ
問擬シタルハ相當ノ裁判ニシテ破毀ノ原由ナキモノナレハ上告ノ趣旨ハ相立タサルモノト
ス因テ治罪法第四百二十七條ニ遵ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノ也
第千八十四號

○判文(集會條例違反)明治十六年六月六日上告
同 十七年四月廿八日發付

德島縣阿波國美馬郡猪尻村
士族

渡邊

明治十六年五月
六十年三月

右治平カ被告事件ニ付明治十六年五月十九日德島輕罪裁判所脇町支廳ニ於テ被告ハ警察署
ノ認可ヲ受メシテ政治ニ關スル事項ヲ講談論議シタルモノト認定シ集會條例第十條ニ依リ
罰金拾圓ニ處メト言渡シタル裁判ニ對シ被告治平上告ヲ爲シタル要旨ハ自由黨員ニシテ該
黨ノ懇親會へ出席シタルコトハアルモ政治ニ關スル事實ヲ論議セシコトナシ然ルニ原裁判官ハ
何等ノ證據ヲ以テ犯罪人トシテ被告ニ於テハ其意ヲ得サル不當ノ裁判ナリト云フコ
在リ原裁判所檢事補堀口順逸ハ原裁判適當ニシテ上告ノ理由ナキ旨ヲ答辨セリ因テ大審院
ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ上告ノ旨趣ハ原裁判官ノ
職權ヲ以テ爲シタル事實ノ判定及ヒ證據ノ採擇ニ對シ不服ヲ訴フルニ過サレハ之ヲ以テ上
告ノ原由ト爲スヲ得ス今判文ヲ閱スルニ前審理ヲ遂クル處ニ宅秀夫カ指出シタル自由黨員
略審理ヲ遂クル處ニ宅秀夫カ指出シタル自由黨員

臨時會議決書及ヒ集會人名書并ニ建白書豫審廷ニテ錄取シタル三宅秀夫眞鍋勝太郎谷本本
藏渡邊治平笠井善太ノ調書等ノ證據ニ據リ云々ト明記シアリテ裁判官ノ心證ニ採リシ證據
ハ判然明示シアルアリ其他原裁判上不當ト認ムヘキ廉アルナキヲ以テ上告旨趣ハ惣テ相立
サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ則リ該上告ハ之ヲ棄却スルモノ也
第千八十五號

○判文(證券印稅犯則)明治十六年四月二日上告
同 十七年四月廿八日發付

福岡縣筑後國三潯郡上八院
村平民農

熊本

明治十六年二月
五十一年

右俊夫カ被告事件ニ付明治十六年一月十七日福岡輕罪裁判所ニ於テ被告ハ證券印稅紙ヲ不足
ニ貼用シタル證書ノ證人ニ相立テ該證書ヲ受授セシメタル者トシ證券印稅規則第四則第九
條ニ依リ明治十四年第七十二號布告ニ照シ罰金拾圓ニ處シタル裁判ニ對シ被告俊夫カ上告
ヲ爲タル旨趣ハ一時證券印稅紙不足ニ貼用シタル該契約證書ニ保證人ニ相立タルハ畢竟僻
遠ノ地ニテ其證書ヲ調製スル時證券印稅紙ヲ得ルノ路ナキヨリ他日其契約本人大串又左衛門
等ニ於テ各相當印稅紙ヲ貼用スヘキ約定ヲ爲シ置キ追テ本人ニ於テ已ニ相當印稅紙ヲ貼用シ
ル上ハ被告ニ於テ犯則ノ責ヲ負フ可キモノニ非ス又被告ハ保證人ニシテ其相當印稅紙ヲ貼用

シタルト云フ大串又左衛門等ノ審問モ爲サスニテ直チニ被告ヲ犯則者ナリト認定セラレタルハ不當ノ裁判ナリト云フニ在リ原裁判所檢事補井上昂ハ原裁判適當ニシテ上告ノ不當ナル旨ヲ答辨セリ因テ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ上告者ニ於テ不足印紙ヲ貼用シタル證書ノ保證人トナルモ後日相當印紙ヲ貼用スル以上ハ犯則者タル責ヲ負フヘキモノニ非スト言フト雖モ證券印稅規則第二則第二類ノ規定ニ背キタル罪ハ其證書授受ノ際ニ成立スルモノニシテ後日ニ至リ不足ノ印紙ヲ貼付スルモ其罪ノ消滅スヘキモノニアラサレハ原裁判官カ該則第四則第九條ニ照シ斷了セシハ至當ニシテ犯則者タルノ責ナシト云フテ得ス其他ハ原裁判官カ職權ヲ以テ爲シタル探證ノ方法又ハ事實判定上ニ對シ不當ヲ論スルニ過キヌシテ治罪法第四百十條外ニ亘ルヲ以テ上告ノ原由ナキモノトス因テ同法第四百二十七條ニ法リ該上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ

第千八十六號

○判文(郵便條例違犯) 明治十六年五月三日上告
同 十七年四月廿八日發付

神奈川縣相模國大住郡平塚
驛平民

今 井政兵衛

明治十六年四月 三十二年

明治十六年四月十四日橫濱輕罪裁判所ニ於テ右今井政兵衛カ被告事件ヲ審理シ郵便條例第 二百三十七條第一項ヲ適用シ重禁錮二月ニ處シ罰金五圓ヲ附加シ仍ホ同第二百四十九條ニ

照シ六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ被告人ハ上告ヲ爲シタリ其趣意ハ 本案郵便條例ニ違犯シタルハ備人福山久七カ所爲ニ係ルモ檢察官カ訊問ノ際其情ヲ申供セ ハ必ス証廷ヲ煩ハサント願慮シ被告カ所爲ナリト甘結セリ抑モ郵便條例第二百三十七條ハ 詐僞ヲ以テ其稅ヲ免カレタル所爲ヲ罰スルモノニシテ被告ニ於テ其惡意ヲ構造セシニアラ サレハ刑法ノ總則ニ從ヒ律ニ正條ナキモノハ之ヲ罰スルヲ得サルモノナリト謂フニアリ 大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ上告代言人田村成義ノ辨論ヲ聽クニ本 案ノ郵便ヲ差出シタルハ福山久七ノ所爲ニ相違ナキハ久七カ自首狀及ヒ戶長ノ證明書等ニ 因テ事實既ニ明瞭ナリト雖モ被告ハ自己ノ所爲ニシテ雇人ノ所爲ニ非スト陳供シ原判官ノ 認定スル所トナリ動ス能ハサルニ至リタレハ今日ニ在テハ被告ノ所爲ナリトシテ論述スル ノ外ナシ而シテ其所爲タル全ク無意ニ出テタルモノナルニ原裁判所ハ果シテ其詐欺ノ所爲 ニ出テタルヤ否ヤ事實ノ理由ヲ明示セシテ刑ヲ言渡サレタルハ治罪法第二百四條ノ法式 ニ背反シタルモノナリ又其郵便ハ未タ受信者ニ達セサル前ニ在テ事發覺シタル者ナレハ未 タ稅ヲ免カレタリト謂フヘカラサルニ因リ郵便條例第二百四十八條ニ照シ未遂犯ト爲シ處 斷セラレヘキニ既遂犯トセラレタルハ擬律ヲ錯誤シタルモノナリ依テ原裁判ヲ破毀セラレ 相當ノ判決アラソクテ請求スト開申セリ

檢事林三介ニ於テハ本按上告ノ趣旨ハ原檢察官ノ答辨セル如ク徒ニ事實點ニ對シ不服ヲ唱 フルニ過キヌ而シテ被告ハ現ニ高稅ナル第一種郵便物ヲ以テ低稅ナル第四種郵便物ニ挿入 シタルハ則チ詐欺ノ所爲ニ出テタルモノナルハ事實已ニ明瞭ニシテ此點ニ付テハ上告ノ趣

憲代官人ノ辨明共ニ採用スルヲ得サルヘシ然レトモ被告ノ所爲ハ未ダ其目的ヲ達セサル前ニ在テ發覺シタル者ナレハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ論セサルヘカラス此點コ付テハ代官人ノ意見ト同シク擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナリト思料スルヲ以テ之ヲ改正シ相當ノ判決アラシコトヲ希望スト陳述シタリ依テ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

郵便條例第二百三十七條ニ有稅ヲ以テ免稅トシ其他詐僞ヲ以テ郵便稅ヲ免レタルモノハ云々トアリテ本案被告ノ所爲果シテ同條ニ該當スルモノト認定セハ必ス其僞計ヲ以テ稅ヲ免レタルノ事實證據ヲ明示シテ言渡ヲ爲サレハカラス而シテ原言渡書ヲ閱スルコト止タリ書籍見本二冊ヲ白紙コト包ミ露封トナシ云々其見本ノ中ニ一通ノ音信文ヲ挾ミ云々郵便コトテ差出シタルコト明白ナリト而已アリテ其何等ノ手段ヲ用ヒテ脫稅ヲ圖リタルヤ否ノ事實ハ漠然之ヲ確認スルニ由ナシ其事實ヲ明示セシテ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ即チ事實ニ依リ言渡ノ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第九項ノ場合ニ適當スル上告ノ原由アルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ノ規則ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ被告事件ヲ東京輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ
第千八十七號

○判文(財産藏匿) 明治十六年四月二日上告
同 十七年四月廿八日發付

大坂府北區岩井町二丁目三
十番地平民

明治十五年十二月
五十八年十一月

家資分散ニ際シ財産ヲ藏匿シタル被告事件ニ付明治十五年十二月五日大坂輕罪裁判所ニ於テ右被告人谷口利八ハ身代限りノ處分ヲ受ケ財産取調ノ際他ヘ貸附アル金五拾八圓外五通ノ證書ヲ藏匿シタル者ト判定シ刑法第三百八十八條ヲ適用シ十月ノ重禁錮ニ處シ被告ノ所有物タル帳面并ニ風呂敷ハ證人中尾信治郎ヘ還付スト言渡シタル裁判ニ對シ被告利八ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ原裁判所ニ於テ藏匿シタリトセラレタル貸金并ニ五通ノ證書ハ被告ニ於テ藏匿シタルニ非ス被害者代人ヨリ該貸附證書等ハ善良ナル者ナク之ヲ帳簿ヘ附立スルモ無益ナリト云フニ依リ之レカ附立ヲ爲サレル者ニテ決シテ藏匿シタルニ非ス假リニ藏匿シタル者トスルモ證書類ニ係ル者ナレハ刑法第三百八十九條ニ依リ處斷セタル可キニ同第三百八十八條ヲ適用セラレタルハ擬律錯誤ナリ且ツ被告カ所有物タル帳面并ニ風呂敷ヲ被告ヘ還付セシメテ中尾信治郎ヘ還付セラレタルハ不法ナリト云フニ在リ
原裁判所檢事補宮崎多喜衛ハ被告カ上告ニ對シ逐一答辨ヲ爲シ原裁判至當ナリト陳辨セリ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ判決ヲ爲スコト左ノ如シ
上告ノ旨趣ハ三點ニシテ第一ハ被告ハ財産ヲ藏匿シタルコトナシト云フニアリテ專ラ原裁判官カ事實ノ判定上ニ對シ不服ヲ訴ルニ止リ上告ノ原由ナキ者トス第二ハ假リニ藏匿シタル者トスルモ被告カ罪質ハ刑法第三百八十九條ニ依リ處斷セタル可キ者ナリト云フニ在ルモ抑貸金證書ノ如キハ一時其金員ト位置ヲ更換シタルニ止ル者ナレハ純然タル財産ノ一部ニ

シテ之ヲ刑法第三百八十九條ノ帳簿類ト同一視スヘキ者ニアラス第三ニ被告ノ所有品ヲ中尾信治郎へ還付シタルハ不法ナリト云フモ其始メニ徵收シタル者へ對シ還付シタルハ相當ノ處分ニシテ不法ト言フヲ得サル者トス以上辨明スル理由ナルニ因リ上告諭旨ハ治罪法第四百十條各項目外ニ涉リ上告ノ原由ナシト判定シ同法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スル者ナリ

第千八十八號

○判文(毆傷) 明治十六年四月十六日上告
同 十七年四月廿八日發付

長崎縣對馬國下縣郡天道茂
町士族

長里常吉

明治十五年十一月十八歲九ヶ月

同縣同國同郡中村町士族

藤崎為壽

明治十五年十一月十八歲

毆打創傷被告事件ニ付明治十五年十一月二十二日嚴原治安裁判所ニ開キタル長崎輕罪裁判所ニ於テ長里常吉ハ刑法第三百一條第三項及第八十一條ニ依リ重禁錮十一月ニ處シ藤崎為壽ハ同法第三百一條第二項及第八十一條ニ依リ重禁錮一月ニ處スト旨渡シタル裁判ニ對シ被告等ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ故意ヲ以テ毆打シタルニアラスハ原裁判所カ其事實

ノ審理ヲ盡サス概ス刑ノ旨渡ヲ爲シタルハ即チ事實ノ理由ヲ付セス且其證憑ヲ明示セサル不當ノ裁判ナリ又永瀬茂作ナル者ハ民事原告人ノ親屬ナルニモ拘ハラス證言セシメタルハ是亦違法ノ裁判ナリト云フニ在リ

原檢察官ハ上告ノ趣旨タル事實認定ノ當否ヲ論難スルニ過キサレハ其効ナキモノナリト答辨セリ仍テ治罪法第四百二十五條ノ規則ヲ履行シ判決ヲ爲スト左ノ如シ

上告ノ趣旨ハ原裁判ハ事實ノ誤認ニ係ルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リト雖モ原裁判官カ正當ノ證憑ト特權ヲ以テ認定シタル事實ノ當否ヲ論難スルニ過キサレハ上告ノ原由ト爲スト得ス又民事原告人ノ親屬ナシテ證言セシメタルハ不當ナリト云フモ原裁判官ニ於テ親屬ニアラスト認メタル而已ナラス其親屬タルノ確證ナキヲ以テ是亦採用スルニ由ナシ其他原裁判ハ其事實ノ理由及ヒ證憑ノ點ニ就テ毫モ瑕瑾アルニ非サレハ上告ノ趣旨ハ總テ相立サルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ基キ本案上告ヲ棄却スルモノ也

第千八十九號

○判文(竊盜) 明治十六年五月廿三日上告
同 十七年四月廿八日發付

長崎縣肥前國南高來郡千々

石村平民酒造營業

本多範平

明治十六年四月五十年八月

右範平ヲ被告事件ニ付明治十六年四月二十五日島原治安裁判所ニ於テ長崎輕罪裁判所カ官

ノ封印ヲ破毀シ酒ヲ竊取シタル罪アリト認メ刑法第百條ニ從ヒ一ノ同第三百六十六條同第
 三百七十六條ニ從ヒ一年ノ重禁錮ニ處シ一年ノ監視ヲ附加スト言渡タル裁判ニ服セス上告
 セリ其要領ハ其酒ノ容器ハ瓶ニテ其瓶ニ楚ニ枚ヲ打違ヘ繩ヲ以テニツ卷キ封印相成リタル
 モノニテ緩ミアルニハ無之且瓶ノ口蓋リ切リタル壺ニアラス壺口直ニシテ何程緩ムトモ引
 明ケ難ク既ニ日數六十日餘モ經過シタルハ楚ノ乾燥シタルヨリノコトナルニ原裁判言渡ニ
 緩マリアルニ付封印ヲ解カシテ引キ明ケシ云々トアルハ不服ナリト一ノ第二其繩ニ繼目
 アルハ一ヶ所コアラサレハ最前ヨリ繼目アル繩ヲ用ヒ加ルニ鑑定人ノ申立ニ因レハ酒樽ク
 シテ雖ヒ氣有之然レハ水ニハ無之ト申聞タリト一ノ第三酒ヲ嘗ルニ其性質水ノ如シトアル
 モ天草造リノ酒ニテ水ノ圍ヒ置クハ水ノ如クナルモノナリト一ノ第四小瓶ニ分チ繩一同
 戸長役所ヘ持歸リ云々トアルモ戸長役所ニ保存シアリタルニアテス民間一箇人ノ宅ノ物置
 キニアリタリト一ノ其他戸長永田正七ニ於テモ落札ノ一人ナリ又外落札人ニ私怨アルモノ
 ナリ旁以其證憑ト爲ルヘキモノニアラサルニ原裁判所ハ輒ク官ノ封印ヲ破毀シタルモノト
 シ刑ヲ言渡サレタルハ審理不盡ノ裁判ナルニ因リ破毀アリタリト要求セリ
 對手人檢察官警部補矢島保高ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判允當ナリト答辨セリ
 大審院ニ於テ專任判事鳥居斷三ノ報告ニ因リ上告代言人本多潤ノ上告趣旨辨明立會檢事武
 内維積ノ意見ヲ聽クニ上告及ヒ代言人上告擴張ノ陳述ハ探證ノ當否ヲ論シ事實ニ侵入スル
 モノナレハ上告ノ原由ト爲スニ足ラズト云ヒ然レモ原裁判言渡ニ先ニ證憑ヲ掲ケ而テ酒造
 檢査官ノ附ケ置キタル封印ヲ破毀シ酒ヲ竊取シタリト一ノミコト果テ其酒ノ所有ノ誰人ニ屬

スルヤノ理由ヲ付セサレハ刑法第三百七十一條ニ當該スヘキ事實ナルヤ又ハ同第三百六十
 六條ニ適當スヘキヤヲ見ルニ由シナク到底事實理由ヲ付セサル裁判ナルヲ以テ附帶上告シ
 テ破毀ヲ求ムト開陳セリ茲ニ之ヲ審按スルニ
 上告ノ理由トスル處第一ヨリ第四ニ至リ證憑ト爲スニ足ラサルモノヲ以テ輒ク裁判ヲ與ヘ
 ラレタルハ不盡ノ審理ナリト云フニアリト雖モ要スルニ原裁判所カ各種ノ證憑ニ依リ認メ
 タル事實ニ對シ探證ノ當否ヲ批難スルニ過キサレハ破毀ノ原由ト爲スヲ得ヘカヲサル上告
 ナリトス何ントナレハ治罪法第百四十六條第二項ニ被告人ノ自狀官吏ノ檢證調書證據物件
 證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ證憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリ因テ上告ノ趣旨相立
 タサルモノト判定ス
 附帶上告ノ理由ニ付原裁判言渡ヲ見ルニ先ニ封印ヲ破棄シ酒ヲ竊取シタルトノ各種ノ證憑
 ナ掲ケ之ニ辨論ヲ加ヘ而テ被告ハ酒造檢査官ノ付ケ置キタル封印ヲ破棄シ酒ヲ竊取シタル
 モノト判定ストノミアリテ其酒タルヤ官ノ沒收ニ係リタルモノナルヤ又ハ人民公賣ニ因リ
 買受ケタルモノナルヤ其理由ヲモ付セサレハ本院檢察官論旨ノ如ク刑法第三百七十一條ニ
 當該スヘキ事實ナルヤ又ハ直ニ同法第三百六十六條ニ依リ論決セシハ適當ナルヤ其如何ヲ
 見ルニ由シナク即チ治罪法第三百四條ニ違背シ同第四百十條第九ニ適合スル破毀ノ原由ア
 ル裁判ナリト判定ス

以上ノ如ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却シ附帶上告ノ理由ニ付同
 第四百二十八條ニ依リ原裁判ノ全部ヲ破毀シ適法ノ裁判ヲ受ケシメシ爲メ佐賀輕罪裁判所

移す者也

第一千九十九號

○判文(竊盜)明治十六年十一月八日上告
同 十七年四月廿八日發付

静岡縣遠江國周智郡森町村
字横町九十四番地平民指物
職

矢部新五郎

明治十六年十月

五十五年

右新五郎カ被告事件ニ對シ明治十六年十月二十九日静岡輕罪裁判所濱松支廳ニ於テ被告ハ
金貨在中ノ紙入ヲ竊取シ爾後被害者へ首服シタル者トシ刑法第三百六十六條第八十五條第
八十七條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ一月十五日以上三年以下ノ重禁錮ニ該ル處罰金半數以上
ヲ償還セシメテ同第八十六條ニ依リ尙一等ヲ減シ一月四日以上二年三月ノ範圍内ニ於テ
重禁錮二月ニ處シ仍ホ第三百七十六條ニ依リ六月ノ監視ニ付シ現在スル贓金ハ刑法第四十
八條ニ依リ杉浦磯吉ニ還付スト旨渡シヨリ原檢察官警部補野元盛幹ハ右ノ裁判ヲ不當ナリ
トシ上告セリ其要領ハ被告カ犯罪ハ刑法第三百六十六條第八十五條第八十六條第八十七條
第七十條及ヒ第七十四條ニ照シ本刑ヨリ通シテ二等ヲ減シ處斷スヘキ者ナルニ原裁判所ハ
之ヲ遞減シタル而已ナラズ減輕スル處ノ法律ノ理由ヲ付セサルハ不法ナルヲ以テ治罪法第
四百十條第九項第十項ニ依リ至當ノ裁判ヲ求ムト云ニ在リ被告新五郎ハ答辨セス

四八二

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ
刑法第八十五條自首減輕ト同第八十六條損害賠償ニ依ル減輕トハ各本刑ヨリ通減スヘキ者
ニシテ之ヲ遞送スヘカヲサルモノトス然ルニ原裁判所ニ於テ之ヲ遞減シタルハ原檢察官上
告ノ如ク治罪法第四百十條第十項ニ適當スル不法ノ裁判ナリトス又原檢察官ハ原判文ニ刑
法第七十條第七十四條ヲ掲載セサルハ法律ノ理由ヲ付セサル者ナリトノ論告アリト雖モ本
條ノ如キハ加減ノ方法ヲ執法官ニ明示シタルニ止ルモノナレハ之ヲ掲載セサルヲ以テ違法
ト爲スヲ得ス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判ス
ル左ノ如シ

矢部新五郎

被告ノ所爲ハ刑法第三百六十六條ニ該ル竊盜犯ニシテ未タ發覺セサル前被害者へ首服シ贓
金半數以上ヲ償還シタルヲ以テ同第八十五條第八十六條第八十七條第七十條ニ照シ本刑ニ
二等ヲ減シ一月以上二年以下ノ範圍内ニ於テ被告ヲ重禁錮一月十五日ニ處シ仍ホ同第三百
七十六條ニ依リ六月以上二年以下ノ範圍内ニ於テ六月ノ監視ニ付スル者也
但贓金還付ハ原判文ノ如シ

第一千九十一號

○判文(官林盜伐)明治十六年四月廿八日上告
同 十七年四月廿八日發付

愛知縣三河國西加茂郡筋生

四八三

村平民

野々山 德平

明治十六年三月

四十二年十一月

明治十六年三月二十六日名古屋輕罪裁判所岡崎支廳於テ被告德平カ竊盜事件ヲ審理シ刑法第三百七十三條第三百七十二條ニ依リ同第三百七十六條ニ照シ重禁錮二月ニ處シ監視六月ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補濱田辰之助カ上告爲シタル要領ハ抑モ刑法第三百七十三條ノ竊取罪ハ其事ヲ行ヒ其利ヲ得タルヨリシテ其罪ノ生スルモノナリ故ニ物件ノ移轉若シハ使用スル等ニ由テ所有者ノ保護ノ全部ヲ缺キ以テ己レノ私欲ニ充ツルモノニアラザレハ該條ノ罪ヲ遂ケタルモノト爲スヘカラス被告德平ノ所爲ハ官有山ノ立木伐木中巡查ノ爲メニ其事ヲ障礙セラレ之ヲ遂ケサルモノナレハ未遂犯タルヤ明確ナリ然ルニ之ヲ已テ遂クシテ處斷セシハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フコアリ對手人被告德平ハ上告旨趣ニ對シ異議ナキ旨ヲ答辨セリ因テ大審院於テ專任判事ノ報告及立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルヲ左ノ如シ

抑モ竊取ノ罪ハ自己ノ利益ヲ圖ルカ爲メ惡意ヲ以テ他人ノ物件ヲ占有セシノ行爲ニ因リ其罪ヲ構造スルモノナレハ本件被告德平ノ如キ即チ同郡宇新地裏官林ニ於テ松木ヲ盜取セント已ニ伐倒シタルモノナレハ原裁判ノ之ヲ既遂犯罪ナリト判定セシハ適當ノ裁判ナリトス故ニ伐木中其事ヲ妨礙セラレ盜伐シタル樹木ヲ歐蹴セサルモノナレハ未遂犯罪ナリトス上告旨趣ハ相立テサルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ該上告ハ之ヲ棄却スル者也

第九千九十二號

○判文(官吏侮辱) 明治十七年二月廿二日上告 同 年四月廿八日發付

石川縣能登國鹿島郡後畠村 平民農

基村 總次郎

明治十七年二月 二十三年二月

明治十七年二月四日金澤輕罪裁判所七尾支廳ニ於テ右基村總次郎カ被告事件ヲ審理シ被告ハ巡查侮辱ノ所爲アリトシ刑法第四百一十一條ヲ適用シ同第八十九條同第九十條同第七十條ニ照シ本刑一月以上一年以下ノ重禁錮五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ一等ヲ減シ二十二日以上九月以下三圓七十五錢以上三十七圓五十錢以下ノ範圍内ニ於テ重禁錮二十二日ニ處シ附加罰金八圓ノ刑ヲ言渡シタル被告總次郎ハ之ヲ不法トシ上告ヲ爲シタル其要旨ハ被告カ酒席ノ唐紙戸ヲ無案内ニテ開キタルハ馬鹿者ナリ法式ヲ知ラサルカ知ラサレハ教示シテ吳レント言リタルモ素ヨリ巡查ナルコトハ毫セ知ラス會テ巡查ニ對シ發シタルコト非ラス原告判廷ニ於テ此事實ヲ證明セシカ爲メ證人呼出ノ請求ヲ爲シタルモ之レヲ採用セラレス又裁判言渡書中被告ハ巡查ニ對シ鑑札調ノ手續ヲ知ラサル馬鹿巡查ナリト其目前ニテ言語ヲ以テ侮辱セシコトヲ認知スト而已アリテ犯罪ノ摸樣事實ノ理由ヲ明示セス刑法第四百一十一條ノ刑ヲ適用セラレタルハ擬律ノ錯誤ナレハ原裁判ヲ破毀セラレ更ニ刑法第七十七條ニ據リ處斷セラレシコトヲ要求スト云フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ

爲ス左ノ如シ

四八六

上告趣意ヲ閱スルニ被告ハ侮辱ノ所爲ナシ原旨渡書ハ犯罪ノ模倣事實ノ理由ヲ明示セサルハ不當ナリトノ論告ナレトモ之ヲ要スルニ原判官ノ判定シタル事實ヲ論難スルニ過キス抑モ諸般ノ證據ヲ取捨シテ犯罪ノ事實ヲ判定スルハ法律ニ於テ特ニ之レヲ承審官ニ一任シタルハ其職權内ニ侵入シ判定ノ適否ヲ論難スルモ之ヲ以テ上告ノ理由トナスコト得ス又證人呼出ノ請求ヲ採用セザリシハ服スル能ハストノ論告ナレトモ亦以テ上告ノ理由トナスコト得サルモノトス何トナレハ若シ之レヲ以テ不服トセハ治罪法第三百二條ノ規則ニ遵ヒ異議ノ申立ヲ爲スハ敢テ妨クル處ニ非ラス而シテ被告ハ事茲ニ出テス默過シタルヲ以テ之ヲ觀レハ自ラ其權利ヲ拋棄シタル者ナレハナリ到底本案上告ハ治罪法第四百十條ノ各項ニ定メタル場合ニ適當セサルヲ以テ上告ノ理由ナシトス依テ同法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

第千九十三號

○判文(官吏侮辱)明治十六年六月八日上告
同 十七年四月廿八日發付

埼玉縣武藏國比企郡笠原村
四番地平民農業

笠原彌三郎

右彌三郎カ被告事件ニ付明治十六年五月二十三日浦和輕罪裁判所熊谷支廳ニ於テ官吏侮辱
明治十六年五月
五十五年三月生

ノ罪アリト認メ刑法第四百一一條ニ依リ二月ノ重禁錮ニ處シ五圓ノ罰金ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セヌ上告セル要領ハ明治十五年五月十五日被告ハ馬ヲ牽キ少シク酒ニ酔ヒ原川村地内ヲ通行ノ折柄兼テ見知りアル巡查ニ行達ヒ挨拶ノ爲メドナラヘ御出張被成タト述ヘタル迄ニシテ罵詈訾辱等ナシタルニ非サルニ刑ヲ言渡サレシハ不服ナルヲ以破毀ヲ求ムト云フニ在リ

原檢事補水郡長義ハ上告ノ不理ナルヲ論駁シ原裁判相當ナリト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ
上告ノ理由トスル處兼テ見知りタル巡查ニ行達ヒ挨拶ノ心得コトドナラヘ御出張被成タト述ヘタル迄ニシテ侮辱ヲ爲シタルニ非スト云フニアレトモ要スルニ原裁判官カ職權内ナル事實ノ判定ニ對シ徒ニ不服ヲ訴フルニ過サルモノトス况ンヤ原書類ニ徴スルニ曾テ一面識モ無キ巡查ニ對シ暴言ヲ以テ侮辱ヲ爲シタル證據明確ナルニ於テオヤ因テ上告ノ趣旨相立ス

右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スルモノ也
第千九十四號

○判文(囚徒逃走)明治十六年四月廿六日上告
同 十七年四月廿八日發付

千葉縣上總國夷隅郡松丸村
十九番地源右衛門長男重禁
錮囚

四八七

明治十六年三月十八年九月

右源七カ被告事件ニ付明治十六年三月二十二日木更津治安裁判所ニ開キタル千葉輕罪裁判
 ニ於テ被告ハ外役所外圍ノ竹柵ヲ損壞シ逃走シタル者ト判定シ刑法第四百二十二條末項ニ依
 據シ仍ホ二十年未滿ナルヲ以テ同第八十一條ニ從ヒ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮六月ニ處スト
 言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事代理警部補藤澤勝之上告ヲ爲シタル要旨ハ被告カ所爲
 ハ刑法第四百二十二條初項ニ該當スヘキヲ原裁判官ニ於テ同條第二項ヲ適用シ獄舎獄具ヲ損
 壞シタルト爲シタルノミナラス加減例ノ法文ヲ明示セザリシハ不法ナリト云フコアリ對手
 人即チ被告ハ上告趣旨ニ同意見ナルトノ答辨ヲ爲セリ
 茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告書及立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ刑法第四百十
 二條已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ若シ獄舎獄具ヲ毀壞シ又
 ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ストアリ本件被告カ犯
 罪ノ事實ニ於テ原裁判官ノ認定スル處ニ依レハ外役所ノ獄舎外圍ナル竹柵ヲ損壞シテ逃走
 シタルモノニシテ獄舎獄具ヲ毀壞シ又暴行脅迫ヲ爲シタルモノニアラサルハ明瞭ナリ然ル
 ニ原裁判官ハ此事實ヲ認メナカラ刑法第四百二十二條末項ニ擬斷シタルハ上告第一旨趣ノ如
 シ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナリトス又上告第二即チ加減例ヲ明示セス云々ノ論告アリト
 雖モ刑法第八十一條ヲ明舉アルアリテ其宥恕減輕減法ヲ示シタルハ起算法ナル法文迄ヲ明
 記セサルモ敢テ不當ト爲スヲ得ヌ因テ治罪法第四百二十九條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ本院ニ

於テ直チニ裁判スル左ノ如シ

前ニ辨明スル理由ナルヲ以テ被告カ犯罪ノ事實ハ原裁判官ノ判定スル所ニ依リ刑法第四百
 十二條已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ストアルニ依據シ尙ホ十
 六年以上二十年ニ滿タサルヲ以テ同法第八十一條第七十條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮
 二十二日以上四月十五以下ノ範圍ニ於テ三月ノ重禁錮ニ處スルモノ也
 第千九十五號

○判文(放火) 明治十六年十二月廿四日上告
 同 十七年四月廿八日發付

山口縣長門國阿武郡田萬村
 平民農業

明治十六年十二月二十八年十一月生

右忠繼カ被告事件ニ付明治十六年十二月六日山口重罪裁判所カ放火ノ事實アリト認メ刑法
 第四百二條ニ依リ死刑ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ被告ハ被害者市
 川十郎右衛門カ娘「ノ」ト内縁差縫レアリ「ト」ヲ探知セテレ被告ハ十郎右衛門ノ家屋ニ
 放火セシモノナラントノ臆測ヨリ被告人ヲ引致セラレ警察須佐分署ニ於テ恐嚇詐言ノ訊
 問ニ因リ一時不實ノ申立ヲ爲シタルヲ眞實ノ自狀ナリトシ之カ反證ヲ提出スル能ハサルヲ
 以テ放火シタルモノナリト認定セラレタルモ到底反證ハ提出シ得ヘカラサル論ヲ俟タサル

處ナリ何ントナレハ分署ニ於テ訊問ノ際之ニ關係スルハ巡查ノ外現場他人ノ入ルヲ許サ
レサレハ被告人ノ利益タルヘキ證人ノ陳述器具ハ巡查ニ於テ自由ニ湮滅シ得ヘキモノナレ
ハナリ然ルニ原裁判所ニ於テ之カ不實ノ申立ヲ信用シ放火ノ罪アルモノトシ刑法第四百二
條ニ依リ死刑ヲ言渡サレタルハ不當ノ裁判ナルヲ以テ破毀アリタシト要求セリ
對手人檢事補別府惠人ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判毫モ不當ニアラスト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事鳥居斷三ノ報告ニ因リ上告代官人吉川守國ノ上告趣旨辨明立會檢事
澄川拙三ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

上告ノ理由トスル處裁警察須佐分署ノ訊問ハ恐嚇詐言ニ因リ一時不實ヲ申立タルモノナル
ニ原裁判所ハ之ヲ眞實ノ白狀ナリト認メ刑ヲ言渡サレタルハ不當ナリト云フニアリト雖モ
要スルニ原裁判所カ認メタル事實ニ對シ採證ノ不當ヲ論難スルニ過キサレハ破毀ヲ求ムル
ノ理由ト爲ヌ得ヌ何ントナレハ治罪法第四百十六條ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據
物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ因テ上告
ノ趣旨相立タサルモノト判定ス

第千九十六號

○判文(天皇陛下へ對シ不敬)明治十六年二月十三日上告
同十七年四月廿八日發付

三重縣伊賀國阿拜郡上野丸
ノ内士族牧之進長男

山本榮吉

明治十六年一月

十九歲

明治十六年一月十九日安濃津輕罪裁判所ニ於テ右山本榮吉カ被告事件ヲ審判シ刑法第百十
七條ニ依リ其年齡二十歲未滿ナルヲ以テ本刑ニ一等ヲ減シ三年六月ノ重禁錮ニ處シ百圓ノ
罰金ヲ附加シ仍ホ同第百二十條ニ照シ一年六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ服セヌ被
告人ハ判文ニ掲載スル如キ不敬ノ言語ヲ發シタル所爲アルヲナク其判文ニ舉示スル所ノ各
證憑ハ共ニ犯罪ヲ確認スルニ足ラス然ルニ裁判官カ推測ヲ以テ事實ヲ認定シ刑ヲ言渡サレ
タルハ不當ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲
スノ左ノ如シ

治罪法第百四十六條ニ證據法ノ原則ヲ定メ諸般ノ證憑ヲ採擇取捨シテ犯罪ノ事實ヲ判定ス
ルハ法律ニ於テ裁判官ニ任從シタル所ナレハ其職權内ニ侵入シ事實判定ノ當否ヲ論辨スル
モ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲ヌ得サルモノトス本件上告ノ如キハ專テ事實證憑ノ有無ヲ
陳辨シ裁判官ノ判定上ニ對シ漫ニ不服ノ旨ヲ訴ヘ覆審ヲ請願スルノ意ニ過キヌシテ要スル
ニ治罪法第四百十條ニ上告ヲ爲ヌ得ルノ場合ヲ定メタル各項目中一モ適當スルモノア
ルニ非ス依テ上告ノ理由ナシト判定シ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ之ヲ棄却スルモ
ノナリ

第千九十七號

○判文(拐帶)明治十六年三月十九日上告
同十七年四月廿九日發付

神奈川縣橋本郡神戶町平民
農銀次郎倅

平 戸 和 吉

明治十五年十二月
十九年

右平戸和吉カ被告事件ニ付明治十五年十二月二十七日横濱輕罪裁判所ニ於テ被告カ清國人林欽登ニ渡スヘキ炭代ノ過剩金八拾錢ヲ拐帶シタル者トノ事實ハ證據不充分ナルヲ以テ無罪トノ理由ナルニ因リ民事原告人林欽登カ請求セシ八拾錢ハ被告ニ於テ償却スヘキ責ナシト言渡タル裁判ヲ不當ナリトシ原檢察官島村文耕ハ上告セリ其要點ハ清國人林欽登ヨリ炭代金ヲ拐帶シタルモノハ平戸和吉ナルコトハ被害者ノ告訴狀及ヒ豫審ノ調書清國人森々ノ證言平戸和吉カ豫審及ヒ警察署コ於テノ口供和吉カ父銀次郎ノ證言被告事件ノ和吉カ逮捕ノ日ト餘日ナキコト以上五箇ノ證據ニ據テ證據充分ニシテ更ニ疑フ可キモノアルコトナシ然ルニ原裁判所ハ之ヲ不充分ナリトシテ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ即チ事實ヲ審究セサルヨリ生ズル所ノ擬律ノ錯誤コシテ不當ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人被告平戸和吉ハ之ニ答辨セズ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ成規ニ從ヒ判決ヲ爲スコ左ノ如シ

本按上告ノ論旨ハ徒コ承審官ニ任從シタル證據ノ取捨事實ノ認定ニ對シ其當否ヲ論難スルニ過キサレハ治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉ルヲ以テ上告ノ原由ナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

第千九十八號

○判文〔詐欺取財〕明治十六年五月八日上告
十七年四月廿九日發付

山形縣羽前國西村山郡白岩
村平民

鈴 木 賢 助

明治十六年四月
四十五年三月生

右賢助カ被告事件ニ付明治十六年四月十六日山形輕罪裁判所於テ被告カ私約ノ證書ヲ以テ抵當ト爲シタル宅地建家ヲ重テ賣却シタルモ未ダ公證ヲ經サルモノナレハ罪ト爲ルヘキ理由ナキヲ以テ無罪ト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補土屋安久カ上告シタル主旨ハ刑法第三百九十三條第二項ノ律意ヲ考フルニ公證ヲ經ルト否トニ拘ハラズ一旦抵當典物ト爲シタルモノヲ欺隱シテ他人ニ賣與セシニ於テハ即チ該條ヲ以テ罰スヘキハ當然ナリ若シ之レニ問擬スヘキモノニ非ストセハ轉シテ詐欺取財ノ罪ハ免カル可カラス然ルニ原裁判所ハ前記ノ如ク無罪ヲ言渡シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在テ對手人被告賢助ハ原裁判所至當ナルコトヲ辨護シテ答辨シタリ

爰コ大審院ニ於テ專任判事ノ報告臨席檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ抑不動産ヲ抵當典物ト爲スヤ假令私約ト雖モ人民相互ノ間ニ在テハ其効力アルハ勿論唯其債主タルモノ他ノ債主ニ對シタルモノハ先取ノ特權ヲ失フニ止ルノミ然ラハ則チ該上告論旨ノ如ク公證ヲ經ルト否トヲ論セズ抵當典物ト爲シタル不動産タルコトヲ欺隱シテ他ニ賣與シ又ハ抵當典物ト爲

シタルニ於テハ無論刑法第三百九十三條第二項ノ罪ハ組成スヘキモノナリ然ルニ原裁判茲ニ出テサルハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ大審院ニ於テ直チニ判決ヲ爲ス左ノ如シ

鈴木賢助

右ノ理由ナルヲ以テ被告カ自己ノ宅地建築ヲ横山清九郎ニ借金ノ抵當トナシ仍ホ飯田甚右衛門へ前顯ノ事實ヲ明サス右宅地建築ヲ賣却シタル所爲ハ刑法第三百九十條第三百九十三條第三百九十四條ニ依リ重禁錮二月ニ處シ罰金四圓ヲ附加シ監視六月ニ付スル者也
第九十九號

○判文〔詐欺取財〕明治十六年三月七日上告
同 十七年四月廿九日發付

鳥取縣因幡國邑美郡行徳村
平民

遠藤文七

明治十五年十二月
三十年十月月

詐欺取財被告事件ニ付明治十五年十二月十六日鳥取縣裁判所ニ於テ刑法第三百九十條同第三百九十四條ニ依リ重禁錮一年ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ仍ホ八月ノ監視ニ付スト言渡タル裁判ニ對シ被告入遠藤文七ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告人ニ於テ明治十四年十二月以來吉田元次郎即崎安兵衛へ借用金ノ抵當ニ差人レタル眞鍮ヲ以テ小判ニ攪造セシ物件ハ森岡梁海ノ製造ニ係リ其價造物タルヲ知ラス固ヨリ罪ヲ犯スノ意ナキ所爲ナレハ刑法第七十

七條ニ適スルモノナリ而シテ其判金ノ粗惡ナルハ債主負債主承認上ノ取引ニシテ毫モ詐欺ノ念慮アルモノニ非ス且森岡梁海ヨリ抵當ニ預リタル判金六十枚ハ應禁物ニ非ス又犯罪ニ因リテ得タル物件ニモ非サルヲ妄リニ沒收シタルハ其ニ不法ナリト云フニ在リ
對手人檢事補安藤眞一ハ原裁判ハ相當ニシテ本按上告ハ其理由ナキモノト思料スト答辨セ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
諸般ノ證據ヲ取捨鑑別シ事實ヲ判定スルハ裁判官ニ任從シタル特權ニシテ輒ク之ニ侵入シ左右スルヲ得サルハ職セテ治罪法第四百四十六條ニ明文アリ然ルニ本按上告論旨ノ如キハ原裁判官ノ事實認定ニ對シ徒ニ不服ヲ訴フルニ止マリ治罪法第四百十條項目外ニ涉ルヲ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得サルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ違ヒ本按上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ
第九百號

○判文〔詐欺取財〕明治十六年十一月廿九日上告
同 十七年四月廿九日發付

山口縣周防國吉敷郡山口久
保小路平民

廣中

明治十六年十一月
二十三年一ヶ月

明治十六年十一月二日山口縣裁判所ニ於テ右廣中「チニ」カ詐欺取財被告事件ヲ審判シ犯
四九五

罪ノ證據充分ナラサルニ付治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪放免スト言渡シタル裁判ニ對シ原裁判所檢事補柴崎尙善ハ上告ヲナシタリ其要領ハ凡ソ無罪ノ言渡シヲ爲スニハ治罪法第三百五條ニ依リ犯罪ノ證據ナキコト明示セサルヘカラス然ルニ原裁判所ハ單ニ證據不充分ナルノ數語ヲ以テ無罪放免ヲ言渡シタルハ法律ニ違背シタル言渡ナリ又被告カ詐欺取財ノ所爲アルコトハ證人等ノ申立ニ據テモ明瞭ナルニ之ヲ證據不充分ナリトシ放免シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

本按上告ノ旨趣ハ原裁判所カ被告ニ對シ犯罪ノ證據ナキコト明示セシテ無罪放免ヲ言渡シタルハ違法ノ裁判ナリト論告スト雖モ原裁判ハ相當官吏ノ作リタル調書及ヒ被告人ノ答辯證人ノ陳述等ニ據リ犯罪ノ證據充分ナラスト認メ無罪放免ヲ言渡シタルモノナレハ相當ノ裁判ニシテ上告ノ理由ナキモノトス其他論告スル所ハ要スルニ裁判官ノ職權内ニ侵入シ探證ノ如何ヲ論難スルニ外ナラサレハ是又上告ノ理由ト爲ヌヲ得ス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ該上告ヲ棄却スル者也
第一千一百號

○判文(詐欺取財)明治十六年四月廿八日上告
同 十七年四月廿九日發付

長崎縣肥前國南高來郡島原
村士族農

川井 壽夫

明治十六年三月

二十九年

同縣同國同郡同村士族無職

羽太 伊徳

明治十六年三月

三十五年十月

同縣同國同郡同村平民農

松本 善八

明治十六年三月

三十九年

右壽夫外二名カ被告事件ニ付明治十六年三月十五日島原治安裁判所ニ開キタル長崎輕罪裁判所ニ於テ被告壽夫ハ他人ノ印影ヲ盗用シ證書ヲ偽造シ之ヲ行使シテ金員ヲ詐取セントシテ遂ケサリシモノトシ刑法第二百八條第二項第二百十條第二百十二條第三百九十九條第三百九十七條第三百九十四條第四百十二條ニ依リ同法第百條ニ照シ一ノ犯情重キ同第二百十條第二百十二條ニ依リ重禁錮一年六月ニ處シ罰金四圓ヲ附加シ一年ノ監視ニ付テ被告伊徳善八ノ兩名ハ右壽夫ト共謀シテ金圓ヲ詐取セントシテ未ダ遂ケサルモノト判定シ刑法第三百九十條第三百九十四條ニ依リ第三百九十七條第百十二條第七十條第七十四條ニ照シ一等ヲ減シ各重禁錮十月ニ處シ罰金三圓ヲ附加シ一年ノ監視ニ付テト言渡シタル裁判ニ對シ被告等三名ハ上告ヲ爲シタリ壽夫カ上告ノ要旨ハ其根元牧野好太郎ノ依頼ニ應ジ金借ノ周旋ヲ肯ヒ爲メニ好太郎ヨリ差出シタル正當ノ證書ニシテ被告カ印影ヲ盗用シテ之ヲ偽造シタルニ

非サルヲ以テ之ヲ證明セント證人ヲ請求シタルコト一名ノ證人モ喚問セラレズ此等ノ反證アルニモ拘ハラス好太郎カニ己ノ陳述ヲ偏信シ且事實ヲ明確ナラシムルコト足ラサル證人參考人等ノ陳述ヲ採納シ原口直義ノ誤認シタル供述等ヨリ推測ヲ以テ輒シ前記ノ刑ヲ言渡サレシハ越權又ハ事實ニ齟齬アル不當ノ裁判ナリト云フニ在リ又伊徳善八ノ兩名於テハ原ト賭博上ノ負債トハ知ラス牧野好太郎ノ依頼アルコト應シ當時金圓持合セサルヲ以テ之レニ換フルコト馬三頭ヲ以テシ代金貳百拾九圓ト見積リ貸渡シタル事實ニシテ毫モ壽夫ト共謀シテ人ノ金圓ヲ詐取セントシタルモノコト非サルヲ以テ之ヲ辨解セシモ信用セラレズ之ヲ證明セント證人喚問ヲ請求シタルコト之ヲ許サズ事實錯誤アル吉田市三郎等ノ言ニ泥ミ殊ニ原口直義ノ誤認ヨリ出タル片言ヲ信シ妄想ヲ以テ前記ノ如ク刑ヲ言渡サレシハ越權又ハ事實ニ齟齬アル不當ノ裁判ナリト云フニアリ同裁判所檢事代理警部補酒井政徳ハ原裁判允當ニシテ上告ノ不當ナル旨ヲ答辨セリ

爰ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之レヲ審案スルニ上告者ニ於テ越權又ハ事實ノ理由ニ齟齬アリト掲ケ上告スト雖モ其論旨ノ歸着スル所ハ原判官ノ認定シタル事實ト採擇シタル證據トニ對シ漫コ不當ヲ鳴ラシ徒ラコ破毀ヲ試ムルニ外ナラス抑モ諸般ノ證據ヲ取捨シテ其事實ヲ判定スルハ治罪法第四百四十六條第二項ノ在ルアツテ事實裁判官ニ特任スル職權ナレハ他ヨリ漫コ之ヲ非難シ得可キモノニアラス又公判上新ニ證人ヲ喚問スルト否トハ治罪法第三百五十七條裁判所ニ於テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルハ云々爲ストヲ得トアリテ裁判官カ必要トセサル限リハ其請求ニ係ル證人ヲ喚問セサルハ

當然ニシテ之ヲ不當ナリト云フヲ得ス今訴訟書類ヲ檢スルモ毫モ不法ノ廉アルコトナシ故ニ上告ノ旨趣ハ渾テ治罪法第四百十條各項ニ適應セサルヲ以テ其理由ナキモノトス右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ則リ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ

第一千百二號
○判文(詐欺取財) 明治十六年五月廿三日上告
十七年四月廿九日發付

茨城縣下總國結城郡結城町
平民

武井孫四郎

明治十六年五月
三十六年

證書詐取及ヒ詐欺取財ノ未遂犯被告事件ニ付明治十六年五月五日水戸輕罪裁判所下妻支廳ニ於テ刑法第三百九十條同第三百九十七條ニ依リ同第一百十二條ヲ適用シ尙ホ同第三百九十四條ニ照シ三月ノ重禁錮ニ處シ八月ノ監視ニ付スト言渡タル裁判ニ服セズ被告武井孫四郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告カ竹本吉哉ヨリ受取タル時借證書ノ金額ハ岡田房藏ノ負債ニ對シ辨償シタル金五拾圓ノ内金トハ別途ノモノナレハ之カ返済ヲ督促シタルモ罪ヲ犯シタルモノコト非ス又證人ト爲スヘカヲサル鈴木重政田原苗青山松三郎竹本吉哉等ヲ證人トシ且自筆ニ係ル計算書等ヲ證據トセラレ加之辨護人ノ請願ヲ允許相成ラスト口達セラレシ等共ニ審理不盡ニシテ不法ノ裁判ナレハ之レヲ破毀シ更ニ公明ノ判定ヲ求ムト云フニ在

對手人檢事補近藤誠ハ該上告趣旨ニ對シテハ逐一其不當ヲ辨駁シ且本案ハ被告カ管テ取置タル證書ヲ返還セズ之ヲ以テ民事ノ訴訟ヲ提起シタルハ證書騙取ト詐欺取財ノ罪アリ然レニ原裁判官カ單ニ詐欺取財ノ罪ノミ問ヒシノミナラス現ニ刑法第三百九十條ヲ適用シナカ
ラ罰金ヲ附加セサルハ共ニ擬律ノ錯誤ナリトノ附帶上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ
被告武井孫四郎上告ノ理由トスル所ハ三箇ノ點ナリトス其一ハ被告カ督促シタル時借證書
ノ金員ハ他ノ負債ニ對シ辨償シタル金員ニ非サレハ罪ヲ犯シタルモノニ非スト云フモ要ス
ルニ裁判官ニ任從シタル事實ノ認定ニ對シ之カ當否ヲ批難スルニ止マリ上告ノ理由ト爲ス
ヲ得ス其二ハ證人ト爲スヘカテサルモノ、證言ヲ採用シ且自筆ノ計算書ヲ證據ト爲シタリ
ト云フモ若シ公判ノ際證人ニ對シ異議アレハ宜シク其申立ヲ爲スヘキニ事茲ニ出サリシハ
之ヲ甘諾シタルモノト云ハサルヲ得ス其自筆ノ計算書ヲ證據トシタル點ノ如キハ是亦事實
裁判官ノ採證ノ如何ヲ論難スルニ過キサレハ共ニ上告ノ理由ト爲スヲ得ス其三ハ辨護人ノ
請願ヲ斥ケタルト云フモ公判始末書ヲ檢案スルニ其請願シタル頗末記載アルヲ見サレハ其
請願セサルヤ明了ナレハ今更之カ苦情ヲ唱ヘ上告ノ理由ト爲スヲ得ス以上論告スル所一モ
治罪法第四百十條ノ各項ニ適合スルモノアラサレハ其趣旨ハ總テ相立タルモノナリトス
原檢察官附帶上告旨趣ノ一タル原裁判所カ證書騙取ノ罪ヲ問擬セサルトノ論點ハ即チ裁判
官ニ特任スル權内ニ侵入シ之カ事實ノ當否採證ノ如何ヲ非難スルニ止マリ治罪法第四百十
條ノ項目外ニ涉ルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス其二タル刑法第三百九十條ヲ適用シナカ

ラ罰金ヲ附加セストノ論點ニ依リ之ヲ查スルニ刑法第三百九十條同第三百九十七條ニ依リ
同第三百十二條ニ照シ一等ヲ減シタルヲ以テ其罰金ハ三圓以上三拾圓以下ニ該リ減蓋シタル
モノニ非ス然ルニ之ヲ附加セサルハ擬律錯誤ノ裁判ナルコト付其罰金ヲ附加セサリシ一部分
ヲ破毀シ治罪法第四百三十一條ニ依リ直チニ裁判スル左ノ如ク

武井孫四郎

前條ノ理由ニ基キ刑法第三百九十條同第三百九十七條ニ依リ同第三百十二條ニ照シ四圓以
上四拾圓以下ノ罰金ヨリ一等ヲ減シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加スヘキ範圍内ニ於
テ罰金四圓ヲ附加スルモノ也

第千百三號

○判文(詐欺取財) 明治十六年十一月十四日上告
同 十七年四年廿九日發付

新潟縣越後國岩船郡村上庄
内町平民烟草營業

加藤榮太郎

明治十六年十月
四十年八月

右榮太郎カ被告事件ニ對シ明治十六年十月廿五日新潟縣輕罪裁判所新發田支廳ニ於テ被告ハ
明治十五年十一月十四日以來荒尾「ツタ」ノ依頼ヲ受ケ中山「ミカ」カ詐欺取財ノ用ニ供スル
情ヲ知テ石田香八郎ヨリ成田喜藏ヘ宛タル金九拾圓ノ預リ證書及ヒ川村太治兵衛ヨリ石田
香八郎外一名ヘ宛タル書翰ヲ偽造セシ者ト認定シ刑法第二百十條一項第二百十二條第三百

九十條第三百九十四條第百條三項ニ照シ一ノ重キ其第二百十條一項ノ罪ニ從ヒ仍ホ從犯ナルヲ以テ同法第百九條第七十條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮四月ニ處シ罰金四圓ヲ附加シ監視六月ニ付スト言渡タル裁判ヲ不當ナリシ被告加藤榮太郎ハ上告セリ其要領ハ被告ニ於テ該證書及ヒ書翰ヲ認メ遣ハタルハ全ク不正ノ情ヲ知ラサルカ故ニ出シテハ荒尾「ツタ」中山「ミカ」カ公廷ノ申陳ニ據テ明了ナリ然ルチ原裁判所カ種々不當ノ理由ヲ付シ以テ被告ヲ其罪アリト斷セシハ事實ノ齟齬及ヒ擬律ノ錯誤アル裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ對手人原裁判所檢事補羽鳥清輝ハ逐一之ヲ辨駁シ原裁判ノ至當ナル旨答辨セリ

因テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ審案スルニ被告カ其主張スル所ハ單ニ原裁判所カ治罪法第四百十六條ノ特權内ニ於テ爲シタル探證及ヒ事實ノ認定ヲ非難スルニ過キスニテ同法第四百十條ノ項目ニ適應スヘキ上告ノ原由之レナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スルモノ也

第千百四號

○判文(詐欺取財)明治十六年五月十九日上告
同 十七年四月廿九日發付

長崎縣肥前國南高來郡島原
村六百八十八番戶士族無職
業

菊 田 定 悅
明治十六年四月
二十二年生月不詳

同縣同郡安徳村十一番
石平民農

大 場 佐 松
同年同月
三十六年同

右定悦外壹名カ詐欺取財被告事件ニ付明治十六年四月廿五日島原治安裁判所ニ開キタル長崎縣輕罪裁判所於テ刑法第三百九十九條ニ依據シ同第三百九十七條第百十二條第七十條第七十條ニ照シ一等ヲ減シ被告等ヲ各重禁錮八月ニ處シ罰金五圓ヲ附加シ仍ホ同法第三百九十四條ニ從ヒ各六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ被告兩名カ上告シタル旨趣ハ要ムルニ事實ニ於テ恐喝或ハ詐欺ノ所爲ヲ爲シタルノナク且宣告書中詐欺未遂犯ト確認セラレヘキ證據ナク加フルニ左十郎前陳ノ申立ハ素ヨリ愛治方ノ爾談人等ニシテ毫モ信ヲ措クニ足ラサルモノナルニ是等證據トシテ斷了セラレタルハ審理不盡ナル不當ノ裁判ナリト云ニ在リ原裁判所檢事代理審部補甲斐田毅ハ原裁判至當ニシテ上告ノ不理ナルヲ答辨セリ上告代官人松尾清次郎カ辨明書ヲ以テ上告趣意ヲ擴張シタル要旨ハ第一本件賣渡證書ノ捏造ナルヤ否ヲ判別スルニハ差出人タル古瀬淺治ノ陳述ヲ聽カサル可カラサルニ之レカ取調ヲ必要トセスシテ田島一重ノ供述ニ理由ヲ付シ且確信スルニ足ラサル巡査西田碓カ風聞ヲ記シタル報答書ヲ信用セラレタルカ如クナルモ其陳供及報答書ニハ證書ノ捏造タル證據ナク凡ソ認定スルニハ認定ノ材料ナカシ其材料ナキハ蓋シ空想ナリ假令證據ノ取捨ハ裁判官ノ權内ナリト雖モ空想ノ認定ハ爲ヌ得ヘカラサルモノナルニ原裁判所カ捏造ナリ

ト認定シタルハ即チ越權ナリ第二恐喝取財ノ罪ヲ組成スルニハ被害者ヲ威迫シタルコト無實
ノ事ヲ構テ被害者ヲ畏懼セシメタルコト被害者爲メニ畏懼シタルコト財ヲ得若クハ財ヲ得シ
シタルコトノ四條件ヲ要スルモノナルコト原審類ヲ觀ルニ是等ノ事蹟ナキコト仲裁或ハ内濟ノ
事跡ニ據テ恐喝シタルモノトセテラレタルハ是又越權ナリ第三刑法第三百九十條ニ所謂恐喝
ノ如キハ専ラ人民間ニ行ハル、威迫或ハ無實ノ事ヲ構テ畏懼セシムルノ類ヲ云フ者ニシテ
本按ノ如キ官ニ對シ告訴ヲ爲シタルモノヲ以テ恐喝取財ノ未遂犯ナリトセラレシハ擬律ノ
錯誤ナリト云フニ在リ

爰ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告及上告代言人ハ前上告旨趣ヲ辨說シ且敷衍シテ原裁判所
ハ被害者ナル本多愛治チ一應ノ審問セシ調書ナク殊ニ取調モ爲サズシテ斷決シタルハ越權
ナリト陳述スルヲ以テ立會檢事池上三郎ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルコト被告カ上告論旨タル
ヤ承審官ノ判定シタル事實及採證ノ當否ヲ論疏スルニ過キス且其代言人ノ如キモ越權或ハ
擬律ニ錯誤アルモノ、如ク論辨スルモ其無實ノ賣買證ヲ根據トシ告訴セシト人ヲ恐怖セシ
メ損害ヲ名トシ金員ヲ騙取セントシテ遂ケサルノ事實證據ハ原判文ニ徴シテ明瞭ナリ而シ
テ恐喝犯ノ如キハ民間ニ係ルト官ニ對スルトノ分別アルモノコトアラス苟モ人ヲ畏懼セシム
ル事ノアルアレハ其罪ノ成立モノニシテ本件ノ如ク無實ノコトヲ擧ケ財物ヲ騙取セント告訴
シ名トシ恐喝セシムルノ意思アルニ於テハ恐喝取財ノ罪ヲ構造スルニ充分ナリ況ンヤ原判
官ノ心證ニ供用セシ證據ヲ揭ケテ該事實ヲ認定セシコト於テオヤ又既ニ其賣買ノ無實ト認定
シタル上ハ隨テ其證書ハ捏造ト爲シタル又決シテ理ナキコト非ス推理ノ然ラシムル處ナレハ

之等ヲ以テ不當ト爲スヲ得ス且淺治チ喚問スルト否トハ素ヨリ判官ノ權内ニシテ殊ニ愛治
ノ如キハ已ニ始末書ヲ徵收シタルハ訴訟審判中ニ然ラハ則チ之レカ取調ヲ爲サス
ト云フヲ得ヌ由之觀之ハ擴張ノ旨趣モ等シク證據ノ採擇及事實ノ判定上チ非難シテ徒ラニ
不當ヲ論スルニ外ナラサルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ヌ因テ該上告ハ渾テ相立タルモ
ノト判定ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本案上告ハ棄却スルモノ也
第一千五百五號

○判文(財産藏匿) 明治十六年四月廿七日上告
同 十七年四月廿九日發付

山梨縣甲斐國東山梨郡玉宮
村第七十七番地平民農業

雨宮 鷹次郎

明治十六年三月
三十六年六月

明治十六年三月六日甲府輕罪裁判所ニ於テ右鷹次郎カ財産藏匿被告事件ヲ審判シ刑法第三
百八十八條ニ依リ二月ノ重禁錮ニ處スト旨渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ被告鷹次郎ハ上告
ヲ爲シタリ其要旨ハ身代限財產取調ノ際所有ノ石地拾七步割山一ヶ所及ヒ無盡掛金等ヲ記
入セサルハ私慾ノ爲メ故ラニ藏匿脱漏シタルニ非サレハ刑法第三百八十八條ニ依テ處斷セ
ラレタルハ不服ナリト云フニ在リ對手人原裁判所檢事補若林爲三藏ハ原裁判允當ニシテ上
告趣旨ハ不當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ上告趣旨ハ要スルニ事實ノ判定上ヲ論難スルニ止マリ治罪法第四百十條上告ヲ爲スヲ得ヘキ各項ニ適應セサレハ上告ノ理由ナキモノト判定ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ基キ本件上告ヲ棄却スルモノ也
第千百六號

○判文(竊盜) 明治十六年五月三日上告
同 十七年四月廿九日發付

埼玉縣武藏國男衾郡赤濱村
第百二番地平民農業

大澤 留吉

犯時年齡

滿三十一年

明治十六年四月十二日浦和輕罪裁判所熊谷支廳ニ於テ右留吉カ竊盜被告事件ヲ審判シ刑法第三百七十三條第三百七十二條ニ依リ重禁錮二月ニ處シ尙ホ同法第三百七十六條ニ依リ六月ノ監視ニ付スト旨渡シタル裁判ニ服セヌ被告留吉ハ上告ヲ爲シタル其要旨ハ被告ハ木材ヲ盜伐シタルヲナシ又大澤福太郎カ所有山林ニ積ミアル櫛薪ヲ取リタルハ同人ノ承諾ヲ受ケタルハ竊取ニ非ス然ルニ豫審判事カ若シ強情申募レハ是ヨリ精密證據ヲ舉ケサルヲ得ス然ラハ其搜查中空シシ圍圍ノ内ニ日子ヲ費シ結局證據充分ナルモ自白セストモ刑ニ處セラル、者ナレハ鞏口速ニ自狀スヘシト詰問セラレタルヨリ無實ノ陳述ヲ爲シタルニ之ヲ證據トナシ刑ヲ言渡サレタルハ不當ナリト云フニ在リ對手人原裁判所檢事補高橋良榮ハ原裁

判允當ニシテ上告趣旨ハ不當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ上告人ハ木材ヲ盜伐シ又ハ櫛薪ヲ竊取シタルヲナキニ豫審判事ノ詰問ヲ受ケ盜伐シタル如ク無實ノ陳述ヲ爲シタルモノナレハ之ヲ證據トシテ刑ニ處セラレタルハ不當ナリト論告スレハ假リニ豫審掛カ被告ニ對シ證據充分ナルモ刑ニ處セラレ、者ナレハ自狀スヘシ云々ノ語ヲ發シタルトスルモ其語ハ決シテ恐嚇又ハ詐言ト云フヘカヲサレハ之ヲ以テ無實ノ陳述ヲ爲シタルノ證據ト爲スヲ得ス其他論告スル所ハ要スルニ事實ノ判定ニ對シ不服ヲ訴フルニ外ナラスシテ治罪法第四百十條ノ項目ニ適當セサルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スル者也
第千百七號

○判文(竊盜) 明治十七年三月五日上告
同 年四月廿九日發付

愛知縣名古屋區正木町百九
十二番屋敷近藤由太郎方同
居平民桶職

渡邊 伊助

明治十七年三月
三十二年八月

右伊助カ被告事件ニ付明治十四年十二月七日名古屋裁判所ニ於テ被告伊助ハ明治十四年五月
月中名古屋區矢場町宿業本多「トッ」方止宿ノ際蒲團三枚外二品盜取タルモノト認定シ竊盜
五〇七

律ニ依リ杖六十ニ處斷シタル其確定裁判ニ對シ名古屋控訴裁判所檢事長檢事人見恒民ヨリ再審ノ訴ヲ爲セリ其要旨ハ被告渡邊伊助ハ右ノ如ク判定セラレ既ニ其處刑ヲ受ケタルモ右ノ盜犯ハ岐阜縣美濃國厚見郡日置江村平民青木爲藏ノ所爲ナルコト發覺シ爲藏ハ他ノ犯罪ト俱ニ明治十六年七月三十日愛知重罪裁判所ニ於テ處刑相成先ニ渡邊伊助カ處刑受ケタルハ全ク無實ノ冤罪タルコト明瞭シタレハ治罪法第四百四十條第二項ニ從ヒ之ヲ訴フト云フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百四十四條ノ法式ヲ履行シ專任判事ノ報告書及ヒ大審院檢事長渡邊駿ノ意見書ニ因リ判決ヲ爲ス左ノ如ク

案スルニ渡邊伊助ハ曩ニ名古屋裁判所ニ於テ竊盜ノ罪アルモノト認メタル裁判既ニ確定シ其處刑ヲ受ケシモノナルモ同一ノ事件ニ付共犯ニアラスニテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者即チ愛知重罪裁判所ニ於テ他ノ刑ト俱々處斷ヲ受ケ其裁判確定シタル青木爲藏ノ在ルアレハ二個ノ裁判牴牾スルコト右兩名ニ言渡タル判文并ニ再審ノ訴ニ關スル書類其他原裁判書類ニ徴シテ明確ナリトス因テ本案上訴ハ治罪法第四百二十九條第二項ニ該當シタル再審ノ原由アルモノト判定ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百四十五條ニ依リ原裁判言渡ヲ破毀シ渡邊伊助カ公訴ヲ受ケタル被告事件ノ再審ヲ受ケシムル爲メ岐阜輕罪裁判所ニ移スモノ也

第千百八號

○判文(竊盜) 明治十六年五月二日上告
同 十七年四月廿九日發付

滋賀縣近江國東淺井郡上野

村平民

伏木孝内

明治十六年三月
二十七年六月

明治十六年三月二十二日大津輕罪裁判所産根支應會議局ニ於テ右伏木孝内カ竊盜被告事件ニ付豫審終結言渡シノ故障申立ニ對シ被告ハ故障ヲ得ヘカラサルノ故障ヲ爲シタルモノナルヲ以テ治罪法第二百五十二條ニ依リ之ヲ棄却シ該豫審終結言渡シヲ認可ストノ判決ヲ不當トシ被告伏木孝内ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ山田勘平ノ木綿引廻シヲ始メ其他ノ物件ハ皆示談上借受又ハ承諾上受取リタルモノニシテ竊取セシニ非ス然ルチ豫審係ニ於テ竊取シタルモノト終結ノ言渡ヲ爲シタルハ越權ノ處分ナルヲ以テ會議局ヘ故障ヲ申立タル所會議局ニ於テ被告ノ所爲ハ有罪ト認ムヘキ證據充分ニ具備スルヤ否ヤヲ審究セス豫審判事カ證據充分ナルモノト終結ヲ爲シタルハ職權上爲シ得ヘキ處分ニシテ素ヨリ故障ヲ得ヘカラサルノ故障ヲ爲シタルナリト判決セラレタルハ故障ノ趣意ヲ誤ラセラレタルモノナルヲ以テ速ニ該判決ヲ排斥セラレ更ニ相當ノ裁判ヲ希フト云フニ在リ

對手人檢事補阿部克己ハ本案上告ハ素ヨリ其理由ナキモノニ付速ニ棄却アテノコトヲ乞フト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如ク

被告ハ原裁判官カ認定シタル事實ニ對シ其當否ヲ論難シテ越權ノ處分ナリト云フト雖モ凡

諸般ノ證據ヲ採擇シ事實ヲ判定スルハ裁判官ニ任從シタルモノナレハ其職權内ニ侵入シ不服ヲ訴フルモ之ヲ以テ裁判官ノ心證判斷ヲ左右スルヲ得サルモノトス今一件書類ニ徴スルニ原裁判ハ毫モ不法ノ點アルヲ見ス因テ本案上告ノ趣旨ハ相立タズトス右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノナリ

第千百九號

○判文(竊盜)明治十六年三月廿四日上告
同 十七年四月廿九日發付

山口縣周防國大島郡伊保田
村平民系綿小賣商

馬野 勇左衛門

明治十六年一月
四十四年十月

右勇左衛門カ被告事件ニ付明治十六年一月十六日山口縣罪裁判所カ竊盜ノ罪アリト認メ刑法第三百七十三條第三百七十二條第三百七十六條ニ依リ二月ノ重禁錮ニ處シ六月ノ監視ヲ附加スト言渡タル裁判ニ服セズ上告セリ其要領ハ兼テ山林ヲ村上兼助ヘ賣渡シタルハ當時買戻ノ約アリシニ爾後其履行ヲ促スモ終始曖昧ニ付シ去ラレ其内地券狀ハ兼助カ手ニ下附セラレタルヲ知リ初メテ詐欺ノ手段ナリシヲ知リ告訴シテ即今審理中ナルモ其所有權タル素ヨリ被告人ニアレハ竊盜ノ所爲ニアラズ然ルニ原裁判所カ刑法上ノ罪アリトシ刑ヲ言渡サレタルハ擬律錯誤ナルニヨリ破毀アリタシト要求セリ
對手人檢事補湯淺龍輔ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判允當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

上告ノ理由トスル處即今告訴審理中ナルモ自己ノ所有地ナレハ罪トナルヘキ所爲ニアラズト云フト雖モ原裁判所カ各種ノ證據ニ依リ認定シタル事實ニ對シテ不服ヲ唱フルニ過キヌシテ治罪法第四百十條ニ定メタル上告ヲ爲シ得ヘキ各項目ニ適當セサル訴旨ナルニ因リ上告ノ趣旨相立タサルモノト判定ス

以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ

第千百十號

○判文(竊盜及監視違犯)明治十六年十一月六日上告
同 十七年四月廿九日發付

愛媛縣伊豫國和氣郡榮町平
民日雇稼

柴山 菊五郎

明治十六年十月
五十歲

右菊五郎カ被告事件ニ對シ明治十六年十月十日松山縣罪裁判所ニ於テ被告ハ監視規則ニ違犯シ及ヒ二次竊盜ヲ爲シタルモノニテ其一次ハ二人共犯ニ係ルニヨリ刑法第五百十五條第三百六十六條第三百六十九條第三百七十六條ニ該當スル三個ノ罪俱發セシモノニ付同法第三百六十六條第三百六十九條第三百七十六條ニ該當スル三個ノ罪俱發セシモノニ付同法第九十二條ニ依リ本刑ニ一等ヲ加ヘ重禁錮五月ト監視七月ニ處スト言渡タル裁判ヲ不當ナリトシ檢事補水澤正也ハ上告セリ其要領ハ會テ被告ニ係リ公訴爲セシハ竊盜三次ノ犯罪耳

然ルキ原裁判所カ仍ホ監視規則違犯ノ罪アリトシ共ニ之ヲ罰セシハ抑モ越權ノ處分ナル耳
 ナラヌ又擬律錯誤ノ裁判ナリトス何トナレハ一ハ以テ告ケサレハ理セストノ原則ニ乖戾シ
 一ハ以テ被告カ其監視規則ニ背キシコトナケレハ也然ルチ況ヤ該判文ニ其事實及ヒ法律ノ理
 由ヲモ付セヌシテ濫リニ之ヲ斷セシハ頗ル不法ニ出ルチ以テ破毀ヲ求ムト云コ在リ
 對手人被告柴山菊五郎ハ右上告ハ至當ニシテ自己ノ意思ト同一ナル旨答辨セリ
 因テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ審按スルニ其被告ニ對シ監視規則違犯ノ點
 ニ就テハ未タ起訴ナキコト公判始末書ニ微シテ顯著タリ而テ又該件ハ已ニ起訴アリシ竊盜事
 件ノ辨論ニ因リ發見シタル附帶ノ事件若クハ公庭内ノ犯罪ニモアラサルコトハ勿論ナルニ原
 裁判所カ之ヲ罰セシハ治罪法第二百七十六條初項ニ「裁判所ニ於テハ訴ヲ受ケサル事件ニ
 付テ裁判ヲ爲ス可カラズ但辨論ニ因リ發見シタル附帶ノ事件及ヒ公庭内ノ犯罪ニ付テハ此
 限ニ在ラス」トアルニ背戾スル處分ニシテ同法第四百十條第七ニ適當スル破毀ノ原由アル
 モノトス故ニ其他非難ノ點ニ就テハ別ニ當否如何ノ辨明ヲ要セサルヲ以テ茲ニ贅セス
 右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百三十一條ニ依リ原裁判ノ上告ニ係ル即チ監視規則違犯ノ
 件ニ對スル部分ヲ破毀シ之ヲ取消スモノ也
 第一千百一十一號

○判文(證券印稅犯則) 明治十六年四月十八日上告
 同 十七年四月廿九日發付

群馬縣上野國碓氷郡安中驛
 平民

深堀半七郎

明治十六年三月
 五十二年四月

右半七郎カ被告事件ニ付明治十六年三月十二日高崎治安裁判所ニ開キタル前橋輕罪裁判所
 ニ於テ被告半七郎ハ金錢貸借帳簿ニ相當ノ印紙ヲ貼用セスメテ之ヲ使用シタル罪アリト認
 ヲ證券印稅規則第三則第二類金錢一時貸借通帳トアル明文ニ該テ同第四則賞罰例第三條ニ
 依リ被告カ二箇ノ帳簿ニ對シ其脫稅高ノ廿倍ノ罰金即チ一ハ十五圓一ハ三十八圓ヲ各自ニ
 處スト旨渡シタル裁判ニ服セメ被告半七郎ハ上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ被告カ所有ノ帳簿ハ
 該規則ノ範圍外ナル一己ノ手控タルニ過キサルノミ然レハ他人ノ捺印アル部分ハ規則ニ觸
 ルハ性質アルモノト做サン歟是レ宜シク其理由ヲ明示シテ罰金ノ旨渡アルヘキニ帳簿ノ總
 金額ヲ束テ犯則ノ處分アルハ不法ノ裁判ナリト云フコ在リ
 原檢察官警部補大竹節ハ被告カ帳簿中他人ノ調印セシ合金五十三圓ハ印稅規則第二類ニ背
 シテ以テ其脫稅高二十倍ノ科料ニ處スヘキヲ相當ナリトスルモ原裁判ノ總金額ニ對シ犯則
 ノ處分ヲ爲シタルハ事實齟齬ノ裁判ナリト答辨セリ
 大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ審按スルニ大審院檢事武内維積ハ
 附帶上告ヲ爲セリ其旨趣ハ原裁判官カ貸借附込帳ト認メシ二箇ノ帳簿ハ金錢出入帳ト表題
 アルモ記載金額ニ授受ノ事由ヲ明示セサルコト因リ貸借タルカ將商營其他ニ關スル受取ノ證
 ナル歟明瞭ナラヌ然レモ原裁判之ヲ貸借ノ附込ト判定セシ上ハ宜ク其理由ヲ付スヘキニ斷
 案茲ニ出ス漫然金錢出入帳ヲ將テ貸借附込帳ト做シ其金額ニ對シタル罰金ヲ旨渡タルハ失

當ニ事實ノ理由ニ不備アル裁判ナレハ破毀ヲ求ムト陳述セリ因テ判決ヲ爲テ左ノ如シ
 被告深堀半七郎ハ他人ノ捺印ヲ爲シタル部分相互ノ證據トナルベキ効力アルハ伏罪スヘキ
 モ金額ヲ東ヲ犯則ニ處斷シタルハ不法ノ裁判ナリト云フモ貸借ノ附込ナルヤ否之ヲ判別
 スルハ承審官ノ心證如何ニアルノミ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ヌ又原檢察官警部補大竹節
 ハ原裁判ニ帳簿ノ全額ヲ犯則ナリト處斷セシハ事實阻斷ノ裁判ナリト答辨ヲ爲シタルモ果
 シテ事實阻斷ナルカ未タ其確證アルヲ見サルモ本院檢事附帶上告ノ旨趣ノ如ク事實理由ノ
 不備ナルモノトス何ントナレハ他人ノ捺印モアラサル帳簿中ノ記入ヲ指シ之ヲ財産ノ受授
 並ニ實際上ニ關スルモノトセシムハ其理由ヲ示スニアラサレハ知ルヘカヲサレハナリ
 以上ノ如クナルヲ以テ被告半七郎カ上告ハ治罪法第四百二十七條ニ基キ之ヲ棄却シ附帶上
 告ノ論旨ヲ採リ原裁判ハ言渡ニ事實ノ理由ヲ付セズ則チ治罪法第四百十條第九ニ該當シタ
 ル破毀ノ理由アルモノト判定ス

仍テ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ適法ノ裁判ヲ受ケムル爲メ
 被告事件ヲ浦和輕罪裁判所熊谷支廳ヘ移スモノ也
 第千百十二號

○判文(證券印稅犯則)明治十六年四月廿八日上告
 同 十七年四月廿九日發付

長野縣信濃國南安曇郡烏川
 村平民
 岩原三郎

年月不詳

明治十六年三月二十三日長野輕罪裁判所ニ於テ右岩原三郎ハ證券印稅規則違犯ノ罪アリト
 判定シ刑法第五條明治七年第八十一號布告證券印稅規則第四則第三條ニ依リ二十錢ノ科料
 ニ處スル旨宣告セリ

岩原三郎於テ右裁判ニ服セス上告ヲナシタル要旨ハ曾テ川上美壽々ハ證書ヲ差入タルナ
 キヲ以テ證券印稅規則ニ違犯スル理由ナシ然ルチ原裁判所於テ前説ノ如ク判決シタルハ不
 當ナリト云フニ在リ

對手人原裁判所檢察官檢事補石田巳六ハ原裁判相當ナル旨答辨セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事池上三郎ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ
 本案被告事件ニ對シ原裁判所ニ於テ言渡タル科料金ハ二十錢ニシテ其額ハ即チ違犯罪科料
 ノ範圍内ニ在リテ明治十四年第十四號布告ノ制裁ヲ以テ上訴ヲ許サ、ルノ事件ニシテ上告
 チヤン得ヘキ權ヲ有セサルモノトス因テ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ

第千百十三號

○判文(新聞條例違犯)明治十六年六月十三日上告
 同 十七年四月廿九日發付

千葉縣下野國印採庵將門町
 六十九番地土族當時同國千
 葉郡千葉本町一丁目四番地
 寄留千葉日々新報假編輯及

五一五

右瀧カ新聞紙條例違犯被告事件ニ付明治十六年五月廿四日千葉輕罪裁判所ニ於テ明治八年
 第百一十一號布告新聞紙條例第六條第三項及ヒ同第十五條ニ依リ同第八條第二項ノ註脚ニ倣
 ヒ仍ホ刑法第五條第二項同第八十九條第九十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ罰金五十圓ニ處ス
 ト旨渡シタル裁判ニ對シ被告人瀧カ上告シタル要旨ハ第一長坂八郎カ被告事件ノ如キハ犯
 罪ノ證據ナキヲ以テ免訴ノ豫審終結ヲ受ケタル者ナレハ之ヲ新聞紙ニ掲載セシテ新聞紙條
 例第十五條ノ制裁ヲ受クヘキ者ニ非ス而シテ該十五條タル舊法斷獄ノ下調ヲ指シタルモ
 ノヨシテ新法豫審終結ノ免訴旨渡等ヲ旨フノ精神ニ在ラサル者ナルニ原裁判所ハ之ヲ同一
 視シテ刑ノ旨渡ヲ爲シタルハ據律ノ錯誤ナリ第二被告カ所爲タル固ト他ノ新聞紙上ヨリ抄
 録シテ後其新聞紙ハ正誤シタルヲ以テ之ニ倣ヒ被告モ亦是カ取消ヲ掲載セシモノナレ
 ハ新聞紙條例ニ觸ル、者ニ非ラス然ルニ原裁判所ハ何ニ據テ其證據ヲ采定シタルヤ斯ク犯
 罪タルノ事實ヲ明示セサルハ治罪法第三百四條ニ背キタリ第三新聞紙上ニ騰録セシ案件ハ
 果シテ高等法院ノ豫審件ナルヤ其眞否ヲ審究セス纔ニ調書ノ幾分ヲ掲ケシテ太早計ニモ高
 等法院ノ豫審調書ナリト妄測シテ新聞紙條例第十五條ノ違犯者ト斷定セラレタルハ越權ナ
 ルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ同裁判所檢事補磯好道ハ右上告ニ對シ逐次駁論シテ原裁
 判允當ナルヲ答辨セリ

爰ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ抑モ治罪法
 ニ所謂豫審ナルモノハ公判トハ大ニ性質ヲ異ニシ機密ヲ主トスルモノニシテ明治八年新聞
 紙條例發行ノ當時ト今日トニ在ラハ取調上ノ細目及名稱ハ異ナルモ等シク斷獄即チ刑事ノ
 下調ナルヲハ自ラ瞭然タリ然ラハ則チ其豫審ヲ終ヘ免訴セラレタルモ公判ニ付セサル事件
 ハ漫ニ新聞紙上ニ掲載スルヲ得ヘカラサル者ナレハ之ニ違犯セハ該條例第十五條ノ支配ヲ
 受ク可キハ當然ナリ況ンヤ長坂八郎ハ免訴セラレタルモ其事件ハ當時未ダ公判ニ付セラレ
 サル以前ニ在ルニ於テオヤ然リ而シテ應禁ノ事項ヲ掲記セシ上ハ假令他ノ新聞紙上ヨリ抄
 録ニ係ルモ其實罰ヲ免ルヘキ者ニ非ラス殊ニ之レカ取消ヲ記載セシトテ一旦犯シタル罪ノ
 消滅スル理由ナク且事實ノ理由及ヒ承審官ノ心證ニ據リシ證據ハ明示シテ判定シタルヲハ
 原判文ニ徴シ明確ニシテ毫モ間然スル所ナシ又當時該事跡ノ在ルアツテ被告モ其豫審調書
 ナルヲハ承認シテ之ヲ明揭シ原判官モ亦之ヲ信認シテ斷了シタルモノナレハ其眞否ヲ審究
 セサルモ越權ノ處分ト爲スヲ得ス以上辨明スル理由ナルヲ以テ被告カ論旨ノ如キ上告ノ原
 由タルヘキ條件一モアラサルヲ以テ渾テ相立タルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ
 則リ本案上告ハ棄却スル者也

第一千百十四號

○判文(酒造稅則犯)明治十六年四月廿五日上告
 同 十七年四月廿九日發付

長野縣信濃國南安曇郡高家
 村平民

右益藏カ被告事件ニ付明治十六年三月三日長野縣裁判所松本支廳ニ於テ被告ハ他人所有

明治十六年三月三十二年一ヶ月

ノ酒造免許鑑札及ヒ酒造場其他醸造諸器械ヲ借受ケ清酒並ニ醪及ヒ燒酎酢ヲ釀造シタル上
 清酒仍ホ醪酢ヲ賣捌キ且明治十六年一月二十四日酒造検査ノ際清酒十六石二斗一升四合古
 醪及ヒ燒酎等ヲ隠蔽シタルモノトシ酢ヲ賣捌キタル所爲ハ明治十三年第四十號布告酒造稅
 則第二十一條第三十四條明治十四年第七十二號布告第三條ニ依リ罰金十圓ニ該當セリ而シ
 テ其免許鑑札ヲ借受ケ製造シタル所爲ハ同第二十九條及ヒ第三十條ニ依リ現在スル酒類並
 ニ酢及ヒ製造諸器械即チ桶三十五箇外十七點其他現ニ酒類等ヲ藏スル桶類ヲ沒收シ同第三
 條第二項ニ酒造免許稅酒造一箇所ニ付金三十圓トアルニ依リ其二倍金六拾圓其賣捌キタル
 所爲ハ右同條三類一石ニ付金二圓トアルニ依リ其賣捌キタル清酒四十三石五斗二升一合ノ
 造石稅三倍金二百六十一圓十二錢六厘仍ホ其代金四百七十八圓十九錢四厘ヲ追徵スヘキモ
 ノニ付合金額八百九圓三十二錢ナルヲ以テ明治十四年第七十二號布告第三條ニ照據シ罰金
 八百九圓三十二錢ニ處スト旨渡シタル裁判ニ對シ被告益藏ハ上告ヲ爲シテ其要旨ハ納稅
 モ濟ミタル清酒ニ罰金ヲ科セラレ且他人ノ所有ナル諸器械ヲ沒收セラレシハ不當ナリト
 云フニ在リ對手人檢事補江木温直ハ上告ノ非理ナル旨ヲ答辨シ且附帶上告ヲ爲セリ其主要
 ハ免許鑑札ヲ借受ケタルト酢ヲ釀造シタルト清酒及ヒ燒酎ヲ隠蔽シタルト検査已濟酒ニ未
 濟酒混和シタルトノ四罪ヲ併科スヘキモノナルニ原裁判所ハ隠蔽ト混和トノ二罪ヲ問ハス

又酢ヲ賣捌キタルハ明治十五年第六十一號布告酒造稅則改正第三十六條ニ照シ處分スヘキ
 モノナルニ原判決爰ニ出サルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ外ナラス
 茲ニ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
 本案主タル上告ノ趣旨ハ要スルニ稅金上納濟ノ清酒ニ罰金ヲ科シ且他人所有ナル諸器械ヲ
 沒收セシハ不法ナリト云フト雖モ明治十三年第四十號布告酒造稅則第三十條ニ免許鑑札ヲ
 借受ケ製造スル者ハ云々明文ノアルアレハ徒ラニ之ヲ批難スルモ上告ノ原由ナキモノトス
 又附帶上告ノ要旨タル検査ノ際酒類ヲ隠蔽シタルト検査未濟ノ酒類ヲ既濟ノ酒類ニ混入シ
 タルトト問ハサルハ不法ナリト云フニアレモ本件ノ如キ酒造ノ全部即チ營業ノ根柢ヲ舉テ
 犯則ト爲シ其酒類ハ勿論諸器械ヲモ沒收シ免許稅二倍ノ金額ト造石稅三倍ノ金額及ヒ賣代
 價ニ至ル迄追徵セシモノナレハ何ソ検査ノ濟否酒類ノ混和等該營業上一部分ノ所爲ヲ罰ス
 ヘキノ理アラシヤ若シ之ヲ罰スヘキモノトセハ必ス同第三十二條ニ準據スルナルヘシ然ル
 ニ該條ニ掲ケル所ノ酒類ハ業已ニ同第二十九條ニ依テ沒收セラレタリ造石稅モ亦同條ニ照
 シ科セラレタレハ已ニ官沒セシ酒類ノ再ヒ官沒スヘキナリ造石稅モ二重ニ科スヘキナキヤ
 判然タリ而シテ改正酒造稅則頒布ハ明治十五年十二月二十七日ニシテ被告カ犯則ノ發覺ハ
 明治十六年一月二十四日ニ係リテ之ヲ明治十六年第二十二號明治七年第四十八號布達ニ照
 シハ正ニ是周知期限以内ナレハ無論舊酒造稅則ニ由ルヘキモノトス故ニ原判官カ酒造隱蔽
 ト其之ヲ混和シタルト不問ニ措キ而シテ酢ヲ賣捌キタル所爲ヲ酒造稅則第三章第二十一條
 ニ照シ同第三十四條ニ依リ處斷セシハ素ヨリ至當ノ裁判ナルヲ以テ主タル上告附帶上告共

五二〇
相立ツルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ノ規則ニ從ヒ該上告ヲ棄却スル者也
第千百十五號

○判文(重典賣) 明治十六年十一月八日上告
同 十七年四月廿九日發付

青森縣陸奥國三戸郡小中野
村字新町士族無職業

宗

政 意

明治十六年十月
四十六年十月

右政意カ被告事件ニ對シ明治十六年十月四日弘前輕罪裁判所八戸支廳ニ於テ被告ハ石橋「
タマ」ノ不在中其家政ヲ管理シ該家所有ノ三戸郡小中野村字新町假五番ノ地所ヲ同人長女
「レン」ノ代人タル資格ヲ以テ蒔田長藏ニ差入金圓假借セシテ欺隱シ明治十五年六月
以來重テ之レヲ抵當トナシ他ヨリ金圓借入レ或ハ其内一畝六歩ヲ賣却シ追テ被害者ニ首服
シテ其損害ノ半數以上ヲ賠償シタル者ト認定シ刑法第三百九十三條二項及ヒ第三百九十條
第八十六條第八十七條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ仍ホ原諒スヘキ情狀アルヲ以テ同法第八十
八條第九十條ニ依リ又二等ヲ減シ本刑減盡スルヲ以テ同法第七十一條ニ照シ十日ノ拘留ニ
處スト旨渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告宗政意ハ上告セリ其要領ハ該地ハ所有未確定ニ
シテ當初之レヲ抵當ニ差入レタル債主ニ於テモ其信用薄キカ故ニ別ニ細越清五郎外一名ノ
保證ヲ要シタリ而シテ其返金期限ニ至ル迄尙ホ其地券名義定ムル能ハサリシヲ以テ遂ニ該
抵當契約ハ自カラ無効ニ歸シタルモノニ付其後之レヲ明言セズシテ他ニ抵當トナシ或ハ賣

却シタリト雖モ決テ罪ト爲ルヘキ謂レナシ殊ニ該地ハ今日八百圓ノ實價アルモノナレハ假
令ニ重抵當ナリトスルモ前後借金ノ合計三百五拾圓ニ過キサレハ爲メニ兩債主ノ損害受ク
ヘキ理由モナシ況ンヤ其前抵當ノ已ニ無効タルニ於テオヤ然ルヲ原裁判所カ刑法第三百九
十三條二項ノ罪アリト斷セシハ不法ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ
對手人檢事補二瀬正性ハ逐一之ヲ辨駁シ原裁判ノ至當ナル旨答辯セリ
因テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ審案スルニ被告カ該地ノ實價ヲ以テ前後債
債ノ全部ニ比スルモ尙ホ餘額アルカ故ニ假令之ヲ二重ノ抵當ナリト爲スモ罪トナルヘキ謂
レナシト主張スレモ其價格ノ餘額アルト否トニ關セス已ニ抵當ニナシタル事實ヲ欺隱シ重
テ抵當トナシ或ハ賣却スルカ如キハ則チ刑法條三百九十三條二項ノ罪ヲ構造スルカ故ニ其
制裁ヲ受ルハ言ヲ待タズ其他喋々スル所ハ臆ナ承審官ノ認定シタル事實ノ點ヲ非難スルニ
歸シ治罪法第四百十條ノ項目ニ適應スヘキ上告ノ原由ハ之レナキモノトス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也
第千百十六號

○判文(金銀貸密賣買) 明治十六年十一月八日上告
同 十七年四月廿九日發付

大坂府東區北濱二丁目六十
七番地寄留廣島縣備後國深
津郡福山西町士族無職業

河 本 勇 三

五二一

五三二
明治十六年十月
二十七年
同府和泉國大島郡堺區櫻町
一番地平民酒小賣店
田村 松次郎

右勇三松次郎兩人カ被告事件ニ對シ明治十六年十月十二日大坂輕罪裁判所ニ於テ被告勇三ハ雇主桑本吉太郎カ公布ニ背戻シ大坂株式所又ハ其他ニ於テ現場取引ヲ爲サス竊カニ金銀貨ノ賣買ヲ爲シタル情ヲ知リ該賣買ノ爲メニ來ル客ノ取扱ヒヲナシ右商業ヲ幫助シタル者トシ被告松次郎ハ同株式所仲買伴田六三郎ニ就キ前同一ノ方法ヲ以テ竊カニ金銀貨ノ賣買ヲ爲シタル者トシ明治十三年第二十一號布告ニ依リ勇三ハ貳拾圓ノ罰金松次郎ハ四拾圓ノ罰金ニ處スト言渡シタルニ服セス被告兩人ハ上告セリ其要領ハ被告等ニ於テ該商業ヲ幫助シ又賣買ヲ爲シタルコトナク其證據モ亦之ナキニ原裁判所ニ於テ事實及ヒ探證ノ理由ヲ明示セズ粗漏ノ判決ヲナシタルハ治罪法第四百十條第九項乃至第十一項ニ適當スル不法ノ裁判ナリト云ニ在リ對手人原檢事補戸田荒太郎ハ上告ノ理由ナキ旨ヲ述ヘ棄却アラント企望スル旨答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル第一ハ專ラ事實裁判官カ職權ヲ以テ認定シタル事實ノ當否ヲ論難スルニ過キサレハ治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉リ上告ノ原由ナキモノトス第二ハ原判文ニ事實

及ヒ探證ノ理由ヲ明示セサルハ不法ナリト云フニ在レモ右判文ニ相當官吏ノ作リタル被告兩名並桑本吉太郎伴田六三郎ノ調書ヲ閱ストアリ又被告勇三ハ雇主吉太郎カ公布ニ背キ竊カニ金銀賣買ヲ爲ス情ヲ知リ右賣買ノ爲メ來ル客ノ取扱ヒヲ爲シ該商業ヲ幫助ストアリ被告松次郎ハ六三郎ニ就キ前記職スル處ト同一ノ方法ヲ以テ竊カニ金銀貨賣買ヲ爲スト記載アリテ其證據及ヒ事實ノ理由明瞭ナレハ毫モ違法裁判ニ非ストス仍テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノ也

第一千百十七號

○判文(騙取)明治十六年十一月六日上告
同 十七年四月廿九日發付

埼玉縣武藏國北足立郡原村
廿三番地平民

加藤 音右衛門
明治十六年十月
四十八歲

右音右衛門カ被告事件ニ付明治十六年十月十九日浦和輕罪裁判所ニ於テ保坂寅吉カ所有ノ鹿毛馬ヲ騙取セシモノト認定シ刑法第三百九十條同第三百九十四條ニ依リ重禁錮四月ニ處シ罰金拾圓ヲ附加シ監視八月ニ附スト言渡シタル裁判ニ服セス被告人加藤音右衛門カ上告スル要旨ハ該馬ハ保坂寅吉ヨリ買取セシモノナルニ騙取シタルモノト判定セシハ不法ナルニ因リ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人檢事補結城朝敏ハ原裁判ハ適當ナレハ上告ハ棄却セラレタキ旨ノ答辨ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ニ從ヒ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事堀田正忠ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如キ

凡ソ徵憑ノ採擇事實ノ認定ハ承審官ノ特權タルコトハ法律ノ定ムル所ナリ今ヤ被告カ上告ノ理由トスル所ハ承審官カ特權ヲ以テ爲シタル採證及ヒ事實ノ認定ニ對シ徒ラニ不服ヲ唱フルニ過キヌシテ到底治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉リ上告ノ理由ナキモノトス仍テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ該上告ヲ棄却スルモノナリ

第千百十八號

○判文(故殺) 明治十六年四月廿七日上告 同 十七年四月廿九日發付

兵庫縣播磨國飾東郡市郷村 士族木綿晒職

永井長太郎

明治十六年三月二十五日十一月

謀殺被告事件ニ付神戸輕罪裁判所姫路支廳豫審係リカ刑法第二百九十二條ヲ適用スヘキ重罪ナリトシ兵庫重罪裁判所ニ移スノ終結言渡ニ服セス被告永井長太郎ハ故障ヲ申立タル處明治十六年三月九日同支廳會議局ニ於テ豫審終結言渡ハ當然ナリトシ該故障申立ハ不相立トノ判決ニ對シ長太郎ハ尙ホ又上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告人ハ被害者大山伊三郎ノ依頼ニ應ジ其審追ヲ救ハシ爲メ木綿若干反ヲ抵當ニ取リ金圓ヲ貸遣サント盡力ヲナシタルモ伊三郎ニ對シ木綿代金ヲ拂フヘキ次第之ナケレハ該取引ニ關スル證書ヲ奪フヘキ目的ヲ以テ

伊三郎ヲ殺害セント企ツルノ理由ナキニ付伊三郎ヲ謀殺スルカ如キハ固ヨリ存シ寄ラサルノコトナリ然ルニ伊三郎ニ於テ調金ノ意ノ如クナラサルヲ憤リ被告ニ對シ種々不法ノコトヲ申掛ケ彼此口論ノ末突然刃物ヲ以テ突掛ケタルコトヨリ百方之ヲ防衛シ爲メニ負傷シ纒カニ危急ヲ脫シ告訴セシモノニシテ伊三郎ハ如何ノ事柄ヨリ負傷セシヤ之ヲ知ラス惟フニ必ラス伊三郎ニ於テ謀殺ノ意ニ出テ負傷セシメタリト認告シタルモノナルヘシ又各證人ニ於テモ皆同人ノ親屬又ハ知人ノ故ヲ以テ亦其証言ヲ助ケタルモノナリ然ルニ原會議局ニ於テ是等ノ事實ヲ審究セシメテ謀殺ナリト豫審終結言渡ヲ當然ナリトシ該故障ノ申立ハ不相立ト判決ヲ與ヘラレタルハ不當ナレハ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人檢事補河野通信ハ該上告趣旨ニ對シ逐一之ヲ駁論シ原判決ハ相當ナリト答辨セリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ抑モ諸般ノ證據ヲ取捨鑑別シ事實ノ有無ヲ認定スルハ裁判官ニ任從スル特權ナルハ治罪法第四百十六條ニ明揭セリ本案上告論旨ノ如キハ徒ニ原裁判官ノ認定シタル事實ノ有無採證ノ當否ヲ批難シ之ヲ左右セント企圖スルモノニ過キヌシテ治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉ルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得サルモノナリトス因テ治罪法第四百二十七條ニ遵ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ也

第千百十九號

○判文(證書變造) 明治十六年十一月一日上告 同 十七年四月三十日發付

新潟縣佐渡國雜太郡相川米

五二五

屋町寄留栃木縣士族

中山藤房

明治十六年十月

三十六年七ヶ月

同縣同國同郡相川彌十郎町

平民

渡邊靖

明治十六年十月

二十五年十一月

右藤房靖カ被告事件ニ對シ明治十六年十月十三日新潟縣裁判所相川支廳ニ於テ靖ハ甲第一號證ノ取遺シ證書タルヲ暗知シ藤房ニ其情ヲ明カシ商量シタルニ藤房ハ之ヲ承諾シ百方彌縫遂ニ證書ノ文字ヲ變造シ民事ノ訴ヲ起シ儀太郎ヲシテ再ヒ金額ヲ返濟セシメントシタル者トシ刑法第三百九十條第三百九十四條第三百九十七條第一百二十二條第一百十條第一百二條第四百條第四百條ニ依リ所犯情狀尤モ重キ同法第二百十條ヲ適用シ藤房及ヒ靖ヲ各一年ノ重禁錮ニ處シ十圓ノ罰金ヲ附加シ仍ホ同法第二百十二條ニ照シ一年ノ監視ニ付シ醫師鑑定料壹圓ハ靖ヨリ辨償スヘシト言渡シタルニ服セズ被告藤房カ上告ノ趣旨ハ縷々陳述スル處アリト雖モ要スルニ左ノ三點ニ在リ其第一ハ被告ハ會テ證書ヲ描改シタルヲナシ該文中ニ無利足トアル無ノ字ヲ消墨ニテ細點ヲ加ヘ茶色ニ少シク汚レタルハ靖カ惡意ニ出タルモノナルコト原裁判所ハ事實ヲ審究セズ妄リニ推測ヲ以テ裁判ヲ降シタルハ越權ナリ第二公判廷ニ於テ被告カ辨論ヲ差止發言セシメテ苛酷ノ裁判ヲナシタルハ平素被告ニ私恨アル故ナ

テシ其證憑ハ被告カ保釋願ヲナシタルニ二百圓正金ヲ以テ上納スヘシト指令セリ此ノ如キ他ニ比類ナキ適當ノ金員ヲ要シタルハ被告カ出據スル能ハサルヲ計リシ者ナリ第三原判文ニ當該官ニ於テ證書ニ此利足トアル此ノ字ヲ無ノ字ニ描改シタル跡ヲ看破シ出訴期限ニ關係スル廉ヲ以テ終ニ靖ハ敗訴トナリ云々トアルハ文字描改ニ因リ出訴期限ニ關係アル者ノ如クニ罪俱發ノ文意モアリテ了解シカク到底原裁判ハ不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云ニ在リ被告靖カ上告ノ趣旨ハ縷々陳述スル處アリト雖モ要スルニ左ノ三點ニ在リ其一ハ原裁判所カ藤房ノ片言ヲ信シ或ハ牽強附會ノ說ヲ設ケ妄リニ推測ヲ以テ裁判ヲ降シタルハ不法ナリ第二被告カ代理人ヘ依頼シ辨護サシメント請求シタルニ之ヲ許可セズ且異議ノ申立ヲナシタルニ直ニ判決ヲ與ヘスニ時間計閉廷ノ後之ヲ棄却シタルハ越權ナリ第三被告カ刑法第三百九十條ニ該ル犯罪ナリトノ證憑及ヒ事實ノ理由ヲ明示セサルハ治罪法第三百四條ニ背反シタル裁判ナリ到底原裁判ハ不法ナルヲ以テ免訴放免アランヲ請求スト云ニ在リ

對手人原檢事補林通久ハ上告ノ不理ナル旨ヲ述ヘ原裁判ハ相當ナリト答辨セリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ被告藤房カ上告ノ理由トスル第一ハ原裁判所カ職權ヲ以テ認定シタル事實ノ當否ヲ論難スルニ過キサレハ治罪法第四百十條ニ適當スル上告ノ原由ナキ者トス第二ハ原裁判所ニ於テ被告カ辨論ヲ差止メタルハ不法ナリト云ニ在レハ當時異議ノ申立ヲ爲サ、ルノミナラス公判始末書ヲ閱スルニ被告カ辨論駁撃ノ頗末記載アレハ之ヲ差止マリトハ認メカクシ且他ニ

比類ナキ保釋金ヲ要シタルハ平素被告ニ私恨ヲ挾ム證據ナリト云ヘ保釋金員ハ他ノ比例ニ依リ取極ムルモノニアラサレハ其多額ト云ヒ私恨ヲ挾ムモノト云フハ必竟被告ノ想像ニ止リ謂レナキ論告ナリトス第三ハ原判文ニ當該官於テ證書云々トアル文意了解シカクシト云々在レハ個ハ描改證書ヲ以テ民事ノ訴ヲ起シ遂ニ敗訴シタル頗末則チ變造證書ヲ行使シタル事實ヲ掲載シタル者ニテ其文意明瞭ナル者トス被告靖カ上告第一ノ趣旨ハ藤房第一ノ趣旨ト同様ナルヲ以テ玆ニ辨明ヲ與ヘス第二ハ代理人ヲ指出スヲ許可セス且異議ノ申立ニ對シ直ニ判決ヲ與ヘサリシハ不法ナリト云々在レハ公判始末書ヲ閱スルハ被告ハ新瀨居住ノ代理人ヲ指出サンヲ請願シタル者ニテ明治十四年司法省第八號布達ニ背戻シタル請願ナレハ原裁判所カ之ヲ許可セザリシハ當然ナリトス且治罪法第三百二條ニ異議ノ申立アリタル時ハ中略直ニ之ヲ判決スヘシトアルハ必スシモ即時ニ判決スルノ謂ニ非レハ假令二時問ヲ過ルノ後其言渡シヲ爲スモ妨ケナシトス第三ハ判文ニ被告カ刑法第三百九十九條ニ該ル犯罪ノ事實理由及ヒ證據ヲ明示セサルハ不法ナリト云々在レハ原判文ヲ閱スルニ藤房ニ其情ヲ明カシ商量シ中證書ノ文字ヲ變造シ民事ノ訴ヲ起ストアリ又甲號證書ノ文字ヲ描改シタル跡瞭然云々トアレハ被告カ文書ヲ變換シ財物ヲ詐取セントシタル事實理由及ヒ證據ヲ明示セシメテ明ラカナリ

右ノ理由ナルヲ以テ被告等カ上告ノ趣旨ハ治罪法第四百十條ニ一モ適當セサルヲ以テ同法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ

第千百廿號

○判文(私印私書偽造) 明治十六年三月七日上告
同 十七年四月三十日發付

德島縣阿波國美馬郡脇町平
民裁縫職

佐々虎之助

明治十五年十二月
四十年十ヶ月

同縣同國同郡岩倉村平民農

業

西村熊次郎

明治十五年十二月
四十年十ヶ月

右虎之助熊次郎カ被告事件ニ付明治十五年十二月十六日脇町治安裁判所ニ開キタル德島縣罪裁判所ニ於テ被告兩名ハ相謀テ尾形虎三郎尾形圓太郎ノ實印ヲ偽造シ且ツ之ヲ用ヒテ右虎三郎カ借用證書ヲ偽造行使シタルモノト判定シ刑法第二百八條同第二百十條同第二百十二條ニ據リ仍ホ同法第百條ニ照シ一ノ重キ私印偽造ノ罪ニ從ヒ被告虎之助ニ對シテハ一年ノ重禁錮ニ處シ拾圓ノ罰金ヲ附加シ六月ノ監視ニ付ス被告熊次郎ニ對シテハ十月ノ重禁錮ニ處シ拾圓ノ罰金ヲ附加シ六月ノ監視ニ付ス但其偽造ニ係ル證書ハ沒收スト言渡シタル裁判ニ對シ被告虎之助カ上告ヲ爲シタル要領ハ被告ハ決シテ虎三郎等ノ實印及ヒ借用證書ヲ偽造シタルノ行爲ナキニ原裁判官カ治罪法第百八十一條ノ規定ニ背キタル虎三郎等ノ陳述ヲ證據トシ有罪ノ判定ヲ與ヘシレタルハ不法ナリト云フニ在リ又被告熊次郎カ上告論旨モ

亦被告ハ實印及ヒ借用證書ヲ偽造シタル覺之レナキノミナラス假ニ證書ヲ偽造シタリトスルモ未タ之ヲ行使セザレハ無罪ナリト云フコ在リ原檢察官ハ原裁判允當ナル旨ヲ答辨セリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告并ニ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

被告虎之助ニ於テハ原裁判官カ尾形虎三郎等ヲ本件ノ證人トシテ其陳述ヲ採用セラレタルハ不當ナリト論訴スルモ今原訴訟書類ヲ監査スルニ原裁判官カ同人等ヲシテ宣誓ヲ爲サシメタルノ之レナキノミナラス原判文ニモ「前尾形虎三郎尾形國太郎尾形助三郎ノ調書ニ參照スルニ」云々トアルコ依テ之ヲ觀レハ原裁判官ニ於テハ事實參考ニ供セシ迄コシテ之ヲ證人ニ用ヒタルコアラサルヲ明確ナレハ之ヲ不當トスルヲ得ス又被告熊次郎ニ於テハ假リ證書ヲ偽造シタリトスルモ未タ之ヲ行使セス云々論辨スルモ既ニ之ヲ治安裁判所ニ提出シタル以上ハ之ヲ行使セスト云フヲ得可カラズ况ンヤ原判文ニモ「全ク偽印偽證書行使シタル者ト判定ス」トアルコ於テチヤ殊ニ其他ノ論旨ニ至テハ被告兩名共徒ラニ法律上承審官ニ特任スル所ノ證據採擇及ヒ事實判定上ニ對シ之チ是非スルコ止リ治罪法第四百十條各項ノ規定外ニ涉レハ到底被告兩名ノ論旨ハ都テ相立タルモノトス仍テ治罪法第四百二十七條ノ規則ニ遵ヒ本案上告ハ共ニ之ヲ棄却スル者也

第千百廿一號

○判文(偽造證書)明治十六年四月十六日上告
十七年四月三十日發付

茨城縣筑波郡羽成村平民農
業

岡田 權左衛門

明治十六年二月

五十九年二ヶ月

吉羽 六左衛門

明治十六年二月

六十年二ヶ月

同縣同郡同村平民農

廣 瀬 嘉 兵 衛

明治十六年二月

六十七年一ヶ月

右權左衛門外二名カ被告事件ニ付明治十六年二月十二日水戸輕罪裁判所土浦支廳ニ於テ被告權左衛門カ羽成村戸長在職中村民共等カ其印形ヲ戸長役場ニ預ケ置キタル幸トシ當時副戸長アリシ被告嘉兵衛農惣代アリシ被告六左衛門ト相謀リ中根惣兵衛外五十三名ノ印ヲ盜捺シ置キ而シテ明治十七年四月十日付ニテ羽成村ニアル村民共有林地ノ内一町步并ニ其立木ノ處分ヲ被告等ニ委スル旨ノ議定書ヲ偽造シ明治十五年七月中勘解又ハ訴訟事件ノ證據トシ裁判所ニ提出セシモノト判定シ刑法第二百十條同第二百十二條ニ依リ各重禁錮四月ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ監視六月ニ付スト言渡シタル裁判ニ服セヌ被告三名共ニ上告ヲナシタリ其要領ハ本按議定書ナル者ハ參考人豐島岱助及ヒ證人大塚菊次郎ノ陳述相符合スルヲ以テ真正ノ證書ニシテ被告等ノ偽造セシモノニアラサルヲ明瞭ナリ又原判文中ニ中根惣兵衛外五十三名及ヒ共有林地ノ内一町步云々トアレヒ之ヲ議定書ニ照セハ人員畝步共ニ

相違シアルハ所謂事實ノ理由ニ阻礙アル不當ノ裁判ナリト云フコアリ同裁判所檢察官ハ原裁判ハ相當ナリトノ旨趣ヲ答辨セリ茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ式ニ從ヒ代
 言人白石剛ノ陳述ヲ聽クニ原裁判言渡ハ上告趣意書ニ掲グル不法アルノミナラス村民ノ印
 影ヲ預リタル證據ノ見ルヘキナキニ臆測ヲ以テ之ヲ預リタリトノ認定ヲ下シ及ヒ證人根
 嘉一郎等カ想像ノ陳述ヲ採リタルハ不當ナリ又原判文中ニ掲ケアル詭入書ハ即チ被害者ニ
 首服シタルモノト看做スヘキモノナルニ原裁判官ニ於テ之ヲ採リナカラ首服シタルモノト
 セサルハ擬律ノ錯誤ナリ且被告等ハ公判廷ニ於テ告訴人及告訴人等ハ近頃戸主トナリタ
 ルモノニシテ該議定書成立ノコトヲ知ラサルモノナルヲ以テ當時戸主ニシテ該證ノ成立ニ關
 セシモノ共ニ請求シタレトモ之ヲ喚問セザリシハ越權ノ處分ナリトノ旨趣ニ外ナラス又立會
 檢事加納久宜ハ原判文中人員ノ差違アルハ全ク數字ヲ顛倒シクル誤記ニ過キス又町歩ノ差
 違モ之レカ合計ヲ掲クヘキヲ只其一部ヲ掲ケタルニ過スシテ爲メニ影響ヲ本按ノ事實ニ及
 ホスニモ非サレハ之ヲ越權ト揚言スルホトノ必要ナシ其他上告趣意及ヒ代官人ノ陳述共其
 理由ナキ旨ヲ駁辨シ且附帶上告ヲナシテ云ク原判文ニ印影盜捺ノコトヲ認メアリナカラ單ニ
 破毀ヲシテレノコトヲ望ムト依テ之ヲ判決スル左ノ如シ
 本案上告論旨中議定書ハ被告等ノ偽造セシモノニアラストノ點又代官人カ陳述中印影ヲ預
 リタル證據ナリ且證人等カ想像ノ陳述ヲ採リタリトノ點ハ共ニ法律上裁判官ニ特任スル所
 ノ探證及ヒ事實判定ノ當否ヲ批難スルニ止ルヲ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得ス而シテ又代官

人カ詭證ハ被害者ニ首服シタルモノ及ヒ證人喚問ノ請求ヲ許容セストノ二論旨モ是亦共ニ
 其理由ナキモノトス何トナレハ一件書類中公判始末書等ヲ査閱スルモ曾テ首服ノコトニ付辨
 論アリシヲ見サルノミナラス新ナル證人ヲ召喚スルト否トハ裁判官ノ職權ニ屬スレハ本案
 ニ必用ナラストシ喚問セサルモ敢テ之ヲ越權ト云フヲ得サレハナリ故ニ前數項ニ付テハ被
 告ノ上告相立スト雖モ原判文中中根惣兵衛外五十三名或ハ共有林地ノ内一町歩ト掲ケアレ
 ヒ訴訟書類ヲ監査スルニ該議定書中ノ人名ハ惣兵衛外三十五名ニシテ林地反別ノ如キモ亦
 大ニ相違セリ果シ然レハ原判文ハ其證據ヲ掲ケナカラ之ニ違フ架空ノ事ヲ記載シタルモノ
 ニシテ所謂越權ノ處分ナルノミナラス立會檢事附帶上告論旨ノ如ク原判文ニ印影盜用及ヒ
 證書偽造ノ二箇ノ事犯ヲ判示シナカラ獨リ刑ノ適用ニ至リ刑法第二百十條ニ依リ處分シ同
 法第二百八條第二項ヲ措テ問ハサルハ全ク擬律ニ錯誤アル不當ノ裁判ニシテ即チ治罪法
 第四百十條第十項及ヒ第十一項ニ適合セル破毀ノ原由アルモノトス
 右辨明ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判ノ全部ヲ破毀シ東京輕罪裁判
 所ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也
 第一千廿二號

○判文(私書偽造)明治十六年三月廿四日上告
 同 十七年四月三十日發付

高根縣出雲國意字郡和田見
 村平民

金森 善右衛門

五三四
明治十五年十一月
七十五年四月

明治十六年一月二十二日松江輕罪裁判所會議局ニ於テ右金森善右衛門カ私書ヲ偽造シ行使
シタル被告事件ニ付原檢察官ノ豫審終結ノ故障申立ニ對シ該豫審終結言渡シハ相當ナルニ
付之カ言渡ヲ取消スヘキ理由ナキモノナリトノ判決ヲ不當トシ原檢察官檢事吉江高行ハ上
告ヲ爲シテ其要領ハ被告ハ明治十二年五月中須山重藏ヨリ山林反別一町八反七畝六歩ヲ
買取ル節其實ナキ河瀬千倫ナル氏名ヲ借用シ在合セノ印判ヲ捺シ賣買證書ヲ造リ爾後右地
所ニ付地券名替及ヒ賣却ノ時等總テ右河瀬千倫ノ氏名ヲ以テ證書ヲ造リタルモノニシテ其
書類タルヤ地所ノ賣買ヲ保證スル戸長ノ公證ヲ經タル證書若シクハ地所所有權ヲ確明スル
地券狀名替願書ノ類ニシテ所謂權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シタル明白ニシテ全ク犯罪ノ
成立タルモノナレハ假令財産ニ對シ損害ヲ被リシ者アラサルモ罪ト爲ラスト云フヲ得ヘカ
ラス然ルニ原會議局ニ於テ之ヲ罪ト爲ラサル者トシテ豫審ノ言渡シヲ認可シタルハ越權ノ
處分ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ
被告金森善右衛門ハ右ノ上告ニ對シ答辨セス
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告ノ論旨ニ依リ一件書類ヲ審檢スルニ被告金森善右衛門カ地所賣買證書及ヒ地券名替願
書等ハ記載シタル河瀬千倫ナル氏名ハ全ク架空ノモノニシテ他人ノ氏名ヲ擅用セシニ非ス
又其所爲ニ由リ他ニ毫モ損害ヲ被リタルモノ有ニ非ス其不正ト稱スヘキモノハ唯其架空
ノ氏名ヲ作用セシ一點ニ止マリ別ニ情偽ノ廉ナケレハ未ダ以テ證書偽造ノ罪ヲ構成スルニ

足ラサルモノトス故ニ原會議局ニ於テ豫審終結免訴ノ言渡シハ取消スヘキ理由ナキモノト
ノ判決ハ敢テ不當ニ非サルヲ以テ本案上告ハ其効ナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條
ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也
第千百廿三號

○判文(證書偽造) 明治十六年五月十六日上告
十七年四月三十日發付

滋賀縣近江國犬上郡彦根百
石町士族

小野 敬吉

明治十六年四月
二十三年十一月

右敬吉カ被告事件ニ付明治十六年四月廿七日岐阜輕罪裁判所カ私書偽造ノ事實アリト認メ
刑法第二百十條同第二百十二條ニ依リ六月ノ重禁錮ニ處シ拾圓ノ罰金一年ノ監視ヲ附加ス
ト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其趣旨ハ數十言ノ多キニ涉ルモ之ヲ約スレハ中村庫三郎
代兼松岡彦四郎ヨリ西派松岡家十一戶總理代人中島敬吉宛ノ約定證ハ真正ニ成立チ授受セ
シモノニテ決テ偽造セシモノニアラサルニ原裁判所ハ告訴人及ヒ證人等ノ申立チ偏信シ私
書偽造ノ罪アリトシ刑ヲ言渡サレタルハ不當ナリト云ヒ又ハ原裁判言渡ニ西派西岡家トア
ルモ西派松岡家ノ誤謬ナラン又被告入カ請求スル證人澤其之助山本鹿之助ヲ喚問ナク被告
事實ヲ推測セラレタルハ不法ナリト云フニ外ナラス仍ホ上告趣旨辨明書ヲ以テ前意ヲ敷衍
スルニアリ

對手人檢事補木村金吉郎ハ原裁判毫モ不當ナキモノトノ趣旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ

上告ノ理由トスル處偽造シタル證書コアラズ眞正ニ授受セシモノナリト云フコアリト雖モ

原裁判所カ各種ノ證據ニ徴シ認メタル事實ニ對シ徒ニ不當ナリト云フニ過キサレハ破毀ヲ

求ムル原由ト爲スヲ得ス何トナレハ上告ヲ爲シ得ヘキヲ定メタル治罪法第四百十條ノ第一

ヨリ第十一ニ至ル明文ニ適合セサル訴旨ナレハナリ又其裁判言渡中西派西岡家トアルハ松

岡家ニテ即チ裁判ノ誤謬ナリト云フコアルモ訴訟書類ヲ見ルニ果テ其西岡家ニアラス松岡

家ナルコトハ著明ニテ誤寫ニ係ルコト言フチ俟タサルナリ然レモ其誤寫アリタル爲メ別ニ影響

ヲ及ス可キノ害アルコトアラサレハ是亦破毀ヲ求ムルノ原由ト爲スニ足ラス其他證人喚問ヲ

請求シタリトノ點ニ至テハ訴訟書類中喚問ヲ請求セシトノ證アルコトナク又公判ノ際ニアリ

テ異議ノ申立チ爲シタルコトナクハ謂レナキ申分ナリトス因テ上告ノ趣旨總テ相立サルモ

ノト判定ス

以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

第一千四百號

○判文(官私印偽造)明治十六年五月廿四日上告
同 十七年四月三十日發付

大坂府西成郡中村三十一番

地主族

中川 義成

明治十五年十一月

三十九年

右義成カ被告事件ニ付明治十五年十一月十六日大坂輕罪裁判所ニ於テ被告ハ戶長役場ノ印
并戶長ノ役印及ヒ島田重兵衛カ私印ノ三顆ヲ偽造シ且島田重兵衛カ地所抵當ニテ戶長ノ與
書アル金貳百圓ノ借用證書ヲ偽造シ之ニ右三顆ノ偽印ヲ捺捺シ該證書ヲ行使シタルモノト
判定シ而シテ所犯新法實施前ニ係ルヲ以テ舊法ニ於テハ新律綱領詐偽律偽造官印條同律詐
爲官文書條同偽造私印條及ヒ名例律二罪俱發以重論條ニ依リ一ノ重キ偽造官印條ニ該リ新
法ニアリテハ刑法第九十五條同第二百四條同第二百八條第百條ニ照シ一ノ重キ同第九
十五條ニ該當スルヲ以テ同法第三條及ヒ明治十四年第八十一號布告ニ從ヒ新舊法ヲ比照シ
舊法ヲ輕トシ仍ホ情法ヲ酌量シ本刑ニ一等ヲ減シ懲役百日ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ
被告義成ハ上告ヲナシタリ其要領ノ第一ハ偽造シタルト判定セラレタル三顆ノ印ハ私立土
木會社ニ於テ彫刻セシモノニシテ被告カ自カラ偽造シ或ハ命令シテ彫刻セシメタルニモア
ラズ被告カ之ヲ偽造スルニ於テハ戶長印章ノ文字即チ廣亮ヲ弘克ト其字畫ヲ違ヘテ彫刻ス
キ等之レナク第二ハ偽造ト認メテレタル金貳千圓ノ借用證書ヲ製調セシモ現金借用ノ爲メ
之ヲ使用シタルニアラス只戲作セシノミニシテ一片ノ反古紙ナリ第三其戲作ニ係ル反古紙
ヲ安岡政藏ナル者之ヲ見テ其名下ニ捺捺スヘキ印ヲ作爲セシモノナリ第四該戲作セシ證書
ハ之ヲ使用シタルニアラス島本リユヨリ會社へ出セシ貳千圓ノ證書ニ添ヘテ抵當トナセシ
ノミナリ第五前項ノ如ク戲作ニ爲セシ所業ト雖モ快トセサルヲ以テ發覺前ニ戶長役場へ自首
シタリ然ルニ其自首ノ事已ニ發覺ノ后ニ係ルヲ以テ減スヘキ限ニアラスト判定セラレシハ

不服ナリト云フニアリ同裁判所檢事補岡野正理ハ上告ノ旨趣ニ對シ一々之ヲ辨駁シ其理由
 ナキ旨ヲ答辨シ且附帶上告ヲ爲シテ曰ク被告ハ身分士族ニアルヲ以テ新舊法ヲ比照シ輕キ
 舊法ニ依ルルハ改定律例第十三條ニ從ヒ禁獄ニ處スヘキヲ懲役ニ處斷セシハ不法ナリト因
 テ大審院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ被告カ上告ノ旨
 趣ハ裁判官ノ職權内ニ於テ爲シタル事實ノ判決證據ノ採擇ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キスシ
 テ治罪法第四百十條ノ規定外ニ涉ルヲ以テ上告ノ原由ト爲ス得ズ然リト雖モ改正刑律
 第十三條ヲ案スルニ凡華士族罪ヲ犯ス者ハ禁獄ニ處ス若シ姦盜等ノ罪ヲ犯シ廉恥ヲ破ル
 甚シキ者ハ除族シテ本刑ヲ加フ云々トアリテ本案被告カ犯罪タルヲ破廉恥甚チ以テ論スヘ
 キコソテサレハ明瞭ニシテ原檢察官附帶上告旨趣ノ如ク新舊法ヲ比照シ輕キ舊法ニ從ヒ處
 斷スルルハ禁獄ニ處スヘキハ當然ナリ又明治十四年第八十一號布告第十二條ニ新法ト舊法
 トヲ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ストアリテ加重輕減スヘキ
 ルハ法律ニ從ヒ加減シタル所ヲ以テ新舊法ヲ比照シ而シテ輕キニ依ルヘキヲ至當ナリトス
 然ルニ原裁判ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キ舊法ニ依リナカラ懲役百日ト宣告シタルノミナラス
 新舊法ヲ比照シ而テ后情狀ヲ酌量シテ減等ヲ爲シタルハ法律適用ヲ誤リタル不法ノ裁判ナ
 リト判定ス因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ被告カ上告ハ之ヲ棄却シ又前ニ辨明スル理由
 ナルニ由リ同第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ直ニ裁判スル左ノ如シ

右被告カ犯罪ノ事實ハ原裁判官ノ認定スル所ニ依リ刑法第九十五條第二百四條第二百八

中 川 義 成

條第二百十條第一項ニ依照シ仍ホ數罪俱發スルヲ以テ同法第百條ニ從ヒ一ノ重キ第百九十
 五條ニ從ヒ重懲役ニ該ルモ所犯新法實施以前ニ在ルヲ以テ舊法新律綱領偽造官印條同律詐
 爲官文書條同偽造私印條改定律例第二百四十六條雜犯律不應爲條關刑律改正條第十三條ニ
 依據シ倘ホ名例律二罪俱發以重論條ニ照シ一ノ重キ偽造官印條ニ從ヒ禁獄一年ノ處酌量ス
 ヘキ情狀アルニ付本刑ニ一等ヲ減シ禁獄百日ニ該當スルヲ以テ刑法第三條及ヒ明治十四年
 第八十一號布告ニ依リ輕キ舊法ニ從ヒ禁獄百日ニ處スル者也
 但シ犯罪ノ用ニ供シタル偽印三顆并偽證書ハ刑法第四十八條ニ依リ之ヲ沒收シ其他差押
 ヘタル品ハ被告ヘ還付ス

第一千廿五號

○判文(偽造私印) 明治十六年四月廿八日上告
 同 十七年四月三十日發付

廣島縣備後國惠蘇郡向泉村
 居住平民

永里 良三郎

明治十六年三月
 三十四年

右良三郎カ被告事件ニ付明治十六年三月二十二日三次治安裁判所ニ開ク廣島輕罪裁判所ニ
 於テ被告ハ金二百五拾圓ヲ以テ金口種助ナル者ニ預ケタル證書ヲ偽造シ其年月日ニ偽印ヲ
 押シタルハ最初其情ヲ藤永金助ニ明サス其印願ノ彫刻ヲ依頼シ平嘉久郎ヲテ其證書ヲ記
 載セシメ或ハ種助ノ印影アル白紙ヲ以テ佐々木瀧藏ニ印影ノ鑑定ヲ請ヒ遂ニ出訴ニ及ヒタ

ルモノト判定シ刑法第百條第三項ニ從ヒ同法第二百八條同第二百十二條ニ適用シ重禁錮四年一月ニ處シ罰金四十一圓ヲ附加シ監視一年ニ付スト言渡シタル裁判ニ服セズ被告長三郎ハ上告ヲナシテ其要領ハ被告ハ曾テ私印偽造及ヒ證書偽造行使等ノ行為ナキハ勿論其確證モアラサレハ治罪法第三百五十八條ニ依リ證據不充分ノ言渡ヲ受クヘキ筈ナルニ原裁判所ニ於テ警部カ審問セシ藤永金助外二名カ被告ニ怨恨アリ或ハ金口種助ト馴レ合ヒ証言ナシタル不正ノ調書ヲ妄信シ所謂被告事件ノ摸樣ニ因リ輒ク有罪ノ推測ヲ下シ處斷セラレタルハ不當ナルノミナラス公判廷ニアリテ只調書ヲ朗讀アリタル迄ニテ證人モ出庭セス證據物件モ示サス加フルニ治罪法第三百五十七條ニ基キ證人ノ呼出シテ請ヒタレハ之ヲ許可セズ且未ダ辨論ノ盡キサル前ニアリテ直ニ裁判言渡ヲナシタルハ不法ナリト云フニアリ原裁判所檢察官ハ被告ノ上告ハ其理由ナシ原裁判ハ允當ナル旨答辨セリ茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ本案ニ付附帶上告ヲナシテ其要旨ハ原判文ニ被告カ證書ヲ偽造シテ行使シタル時日ヲ明示セサルノミナラス刑法第百條ニ依リ私印偽造ノ罪ヲ以テ犯情最モ重シト爲シ處斷シアレハ其輕シトセシハ何等ノ罪ナルヤ思フニ證書偽造ノ罪ヲ指シタルカ如シト雖モ夫證書偽造行使ナルモノハ之ト同時ニ詐欺未遂犯ヲモ組成スヘキハ明白ナルニ是等モ亦輕シトシ除棄セシモノナルヤ一モ其明示ナクシタル之ヲ知ルニ由ナク要スルニ原裁判ハ事實及法律ノ理由ニ不備アルモノニシテ治罪法第四百十條第九ニ相當スル破毀ノ原由アルモノト思考スト云フニアリ因テ之ヲ判決スル左ノ如シ

被告カ上告旨趣中不正ノ調書ヲ採用シ輒ク有罪ノ認定ヲ下サレタルハ不當ナリトノ點ハ乃チ法律上裁判官ニ任放スル所ノ職權内ニ侵入シ證據ノ採擇事實ノ認定ニ不滿ヲ訴ヘ之レカ覆審ヲ要請スルニ過サレハ以テ上告ノ原由トナスヲ得ズ又公判中不法ノ手續アリシ如ク論難スト雖モ今ヤ其始末書ヲ監査スルニ被告ハ充分辨論ヲ了シ裁判ヲ受ケタル事ハ頗ル明確ナリトス且證人ヲ公判廷ニ參セシムルト否ト證人喚問ノ請求ヲ許可スルト否トハ是亦裁判官ノ職權内ニ歸スルモノナレハ之ヲ必用ト認メスシテ許可セサルモ之ヲ不法ト云フヲ得ス而シテ又證據物件ヲ示サスト云フカ如キハ只口頭無證ノ陳辨ニシテ之ヲ採用スルニ由シナキハ勿論果シテ斯ノ如キ事アリトセハ當時異議ノ申立ヲナスヘキハ當然ナルコト乃チ之ヲナサシテ直ニ上告スルモ以テ其原由ト爲スニ足ラストス依テ被告ノ上告ハ總テ相立スト雖モ爰ニ原判文ヲ監査スルニ證書偽造行使ノ時日ハ勿論私印偽造ノ年月日ヲ明示セサルノミナラス被告ノ行為ヲ數罪ニ涉ルモノトシ刑法第百條及ヒ同法第二百八條ヲ適用シアレハ其輕シトセシハ何等ノ罪ニシテ何ノ法章ニ該當スルモノナルヤ毫モ之ヲ判示セサレハ果シテ本案據律ノ正鵠ヲ得ルヤ否ヤヲ斷スルニ由ナク之ヲ要スルニ立會檢事附帶上告論旨ノ如ク治罪法第四百十條第九項ニ適合スル破毀ノ原由アル不法ノ裁判ナリトス右辨明ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ更ニ相當ノ審判ヲ受ケシムル爲メ岡山輕罪裁判所ニ移スモノ也

第一千廿六號

○判文(詐欺取財)明治十六年十一月六日上告
同 十七年四月三十日發付

茨城縣常陸國東茨城郡上市
向井町寄留千葉縣下總國香
取郡溝原村平民

菅谷 茂右衛門

明治十六年九月
三十九年二月

右茂右衛門カ詐欺取財被告事件ニ付明治十六年九月二十七日水戸輕罪裁判所ニ於テ刑法第
三百九十條第三百九十四條第八十九條第九十條ニ照シテ重禁錮一月十五日罰金三圓監視六
月ニ付スト言渡シタル處斷ニ對シ被告ハ之ヲ不當ナリトシ上告セリ其要領ハ被害者タル鴉
殿「ノ」カ所有ノ刀被告ハ於テ典賣ノ依頼ヲ受ケ爾來兼テ知己ナル萩原清之助ヘ買戻シ
ノ約ヲ結ヒ金七圓ニ賣渡シ内金五圓ハ「ノ」請取リ二圓ハ被告カ「ノ」ヨリ借用シタリ右
ハ三名列席ニテ談判ヲ遂ケ互ニ承諾上ニ成立タル貸借ナルハ檢察官カ豫テ徵セラレタル清
之助カ調書ヲ公庭ニ於テ朗讀シ聞クニ鴉殿「ノ」方ニ於テ該刀ハ同人ト直接ノ約定ニテ代
金七圓ヲ以テ買受ケタリトアリ夫之ヲ以テ前顯承諾上ニ成立タル事狀ヲ視ルニ足ル然ルニ
原裁判所ハ不正不實ナル増次郎「ノ」カ供述ヲ採用シテ被告ヲ詐欺取財ト專斷セラレタル
ハ不當ト云ニアリ

對手人檢事補立花敏ハ上告ノ不理ナルヲ辨駁シテ毫モ其理由ナント答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聞キ判決スル左ノ如シ
上告ノ理由トスル所ハ數箇ノ點ニアルモ要スルニ事實ノ有無ヲ論告スルニ過サレハ之ヲ以

テ原裁判ヲ破毀スル理由ト爲ヌヲ得ス何トナレハ承審官カ各個ノ證據ヲ取捨採擇シ爲シタ
ル判定ハ他ヨリ輒シ之ヲ左右スルヲ得ス乃チ職テ治罪法第四百十六條ニ明ナリ依テ本案上
告ハ相立サルモノトス

右ノ理由ナルニ依リ治罪法第四百二十七條ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也
第一千廿七號

○判文(詐欺取財)明治十六年五月一日上告
同 十七年四月三十日發付

福島縣岩代國耶麻郡鹽川村

平民

齋藤與三郎

明治十六年三月
二十五年

明治十六年三月十五日福島輕罪裁判所若松支廳ニ於テ右與三郎カ詐欺取財被告事件ノ豫審
終結言渡ニ對スル故障ヲ判決シ被告カ故障ノ旨趣ハ治罪法第二百四十六條第三項ノ規定外
ニ涉ルヲ以テ之ヲ棄却スル旨言渡タル處被告與三郎ハ右判決ヲ不法ナリトシ上告ヲ爲シタ
リ其要旨ハ被告ハ證書ヲ偽造シ金員ヲ詐取シタルヲナキニ原會議局ニ於テ豫審判事カ審理
ヲ盡サスシテ輒シ有罪ノ判定ヲ下シタル終結言渡ヲ認可シタルハ不服ナリト云フニ外ナラ
ズ原檢察官ハ原判決相當ナル旨ヲ答辨セリ爰ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式
ヲ踐ミ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

上告ノ旨趣ハ之ヲ要スルニ法律上裁判官ニ特任スル所ノ職權内ニ立チ入り其事實認定ヲ論
五四三

難スルニ過スシテ治罪法第四百十條各項ニ規定セル上告ノ理由ニ適當セサルヲ以テ同法第
四百二十七條ノ規則ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スル者也
第千百廿八號

○判文(詐欺取財) 明治十六年十一月十三日上告
同 十七年四月三十日發付

山口縣周防國佐波郡東佐波
令村平民日雁稼

森 田 嘉 七

明治十六年十月
五十八歲

右嘉七カ被告事件ニ對シ明治十六年十月十五日山口縣輕罪裁判所ニ於テ被告ハ山本仙吉ヨリ
鉈外三品ヲ賣却致シ遺ストノ約定ヲ以テ受取ナカラ其賣得金ヲ自カラ消費セシヨリ遂ニ立
歸ラサリシモノト認定シ刑法第三百九十五條ニ依リ重禁錮一月ニ處スト言渡シタル裁判ヲ
不當ナリトシ檢事補屬恭亮カ上告スル要領ハ被告カ詐言ヲ以テ該品騙取シタルノ證據ハ已
ニ充分ナルヲ以テ刑法第三百九十條ニ該當スヘキ犯罪ナリトス其又之レヲ賣却スヘキ委
托アリシモノト見ルモ其拐帶セシヤ瞭然タルヲ以テ同法第三百九十五條ノ末文ニ從ヒ詐欺
取財ヲ以テ論セサル可カラス然ルニ原裁判ノ爰ニ出サリシハ則チ據律ノ錯誤アルモノニ付
破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人被告森田嘉七ハ之レニ答辨セズ
因テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ審按スルニ凡ソ各證據ヲ鑑査シ以テ事實ヲ

認定スルハ承審官ノ特權タルヲ載セテ治罪法第四百十六條ニ明断タレハ假令上告者ニ於テ
被告カ該物件ヲ詐取シタルノ證據アリト思料スルモ承審官於テ之ヲ採ラサル以上ハ敢テ其
判決ニ對シ豫テ容ルヘキ理由ナキヲ知ルヘキナリ又其拐帶セシ事實アリトノ點ニ於ケルモ
原裁判所カ已ニ認定スル所ニ據レハ被告カ立歸ラサリシハ其賣得金ヲ消費スルニ起因スル
モノニシテ該物件ヲ拐帶シタルコアラサルヲ分明タレハ固ヨリ刑法第三百九十五條ノ末段
ニ問擬スヘキモノニアラス要スルニ上告ノ主點ハ事實上ノ論難ニ歸シ治罪法第四百十條ノ
項目ニ適當スヘキ理由之レナキモノトス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スルモノ也
第千百廿九號

○判文(詐欺取財) 明治十六年五月廿八日上告
同 十七年四月三十日發付

東京府神田區旭町五番地平
民醫業

松 原 融

明治十六年五月
四十四年七月

明治十六年五月五日東京輕罪裁判所ニ於テ右松原融カ證書偽造詐欺取財被告事件ヲ審判シ
新舊ノ法ヲ比照シ新法ノ輕キニ從ヒ詐欺取財ノ罪ヲ重シト爲シ刑法第三百九十條ニ依リ重
禁錮二年ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ其要領第一被告事件ハ新
法施行前ノ共犯罪ナレハ舊法ニ於テハ首從ヲ分チ果シテ從犯ヲラハ一等ヲ減セサル可カラ

五四五

ス然ルコ首從ヲ分テス皆懲役七年ニ該當スル罪ト爲シ之ヲ新法ニ比照セシハ擬律ノ錯誤ナ
リ第二被告人ハ本案ノ共犯者ニ非サルモ他ノ被告人告訴人及ヒ證人等ニ構陷セラレタル者
ニシテ其事實ハ證人ノ陳述等ニ依リ證憑明白ナリ然ルニ裁判官ハ却テ犯罪ノ證ト爲シ刑ヲ
言渡シタルハ越權ノ處分ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法ノ定式ヲ履行シ檢事加納久宜ノ意見及ヒ上告代言人林和一ノ辨論ヲ聽
キ判決ヲ爲ス左ノ如シ

上告第一ノ論點ハ擬律ノ錯誤アリト云フニ在ルモ舊法ニ於テ共犯罪ヲ處斷スルコハ必ス首
從ヲ分テサル可ラサルモ本件被告人ノ如キハ已ニ新法ノ輕キニ從テ可キ者ナルニ因リ舊法
上首犯ナリヤ將テ從犯ナリヤヲ明示スルヲ要セサルナリ假令從犯コシテ本刑懲役七年ヨリ
一等ヲ減ス可キ者ト爲スモ猶ホ五年ノ刑ニ該當シ新法ノ刑ヨリ重キヲ以テ被告人ノ受ク可
キ刑期ニ於テ毫モ影響ヲ及ホス可キモノニ非ス故ニ原裁判所カ舊法上首從ノ別ヲ明示セザ
リシハ破毀ノ限ニ在ラヌ上告第二ノ論點ハ越權ノ處分アリト云フニ在ルモ其要旨ハ被告人
ハ他人ニ構陷セラレタル者ニシテ犯罪人ニ非スト辨護シ證憑ノ有無ヲ陳述シテ裁判官ノ職
權ヲ以テ判定シタル事實ノ當否ヲ論難スルニ過キサレハ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得
サルモノトス以上辨明スル如クナルニ因リ原裁判ハ破毀ノ原由ナシト判定シ治罪法第四百
二十七條ノ成規ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スルモノナリ
第一千三百三十號

○判文(詐欺取財)明治十六年四月廿五日上告
同 十七年四月三十日發付

長野縣信濃國下高井郡櫻澤
村平民農業

竹内庄右衛門

明治十六年二月
五十四年

右庄右衛門カ被告事件豫審終結言渡ニ對シ檢事補川久保信任カ故障申立ニ付明治十六年二
月廿七日長野縣裁判所會議局ニ於テ被告ハ竹内「コト」カ所有地ヲ竹内吉之助ハ賣渡シタ
ルノ受人トナリタルハ明瞭ナレバ該地所「コト」ニ無斷ニ賣渡シタルノ證憑充分ナラスト
ス又竹内吉之助カ輕罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル所爲ナキヲ以テ豫審終結言渡ヲ認可スト
ノ判決ヲ不當ナリトシ檢事補川久保信任ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ豫審判事カ被告ニ免訴
ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ナルヲ以テ故障ヲ申立タルニ原會議局ハ被告カ竹内「コト」ニ附與
シタル證書ハ竹内吉之助ニ對シ不實ノ事ヲ以テ証告スルノ手段ニ出テタルモノ、如シト雖
モ吉之助カ輕罪ニ陷ラシムル爲メノ偽證トナスヲ得ストノ判決ハ實ニ不當ニシテ其理由ノ
アル所ヲ知ラサルナリ故ニ被告カ吉之助カ証告シタル證憑充分ナレハ免訴ノ言渡ヲ認可シ
タル判決ノ破毀アラシコトヲ求ムト謂フニ在リ

對手人竹内庄右衛門ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原判決允當ナリト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ
上告ノ理由トスル處被告カ犯罪ノ證憑充分ナルニ免訴ノ終結言渡ヲ認可シタルハ不當ナリ
ト云フニアリト雖モ原會議局カ認定シタル事實ニ對シ採證ノ當否ヲ難スルニ過キサレハ上

告ノ理由トナスヲ得ス何トナレハ治罪法第四百四十六條第二項ニ明揭スル如ク諸般ノ徵憑ニ依リ其有罪ナルヤ否ヤヲ判定スルハ原會議局ノ權内ナルヲ以テナリ因テ上告趣旨ハ相立テサルモノト判定ス

以上ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スルモノ也
第一千三百三十一號

○判文(詐欺取財)明治十六年四月十六日上告
同 十七年四月三十日發付

秋田縣羽後國南秋田郡馬喰
町身分職業不詳

能登源一郎

年齡不詳

右源一郎カ被告事件ニ付明治十六年二月十二日秋田輕罪裁判所カ欺罔ノ意ニテ宿泊代金ヲ拂ハス失際セシモノト認メ難キヲ以テ欠席ノ儘無罪ト言渡タル裁判ヲ不當ナリトシ檢事補小澤宗典ハ上告セリ其要領ハ被告源一郎ハ竹内小八方ニ止宿シ出立ニ際シ其旅籠代金仕拂方ニ差支ヘ賣家ニテ受授スヘキ約束ヲ以テ同道シタルニ賣家ニ至ルモ金員不相渡其儘逃亡シタル事實ニテ詐欺ノ手段ニテ惡意ナシト云フヲ得サルモノナルニ原裁判所ハ之ヲ無罪ナリト言渡シタルハ不當ノ裁判ナリトシ破毀ヲ要求セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ
上告ノ理由トスル處被告源一郎ハ惡意アリテノ所爲ナルニ原裁判所ハ之ヲ無罪ナリト斷了

セシハ不當ナリト云フニ在リト雖モ要スルニ原裁判所カ各種ノ證據ニ依リ認メタル事實ニ對シ批難ヲ試ミルニ過キサレハ破毀ヲ求ムルノ原由ト爲スヲ得ス何トナレハ治罪法第四百十條ニ上告ヲ爲シ得ル場合ヲ定メタル第一ヨリ第十一ニ至ル明文ニ適當セサル訴旨ナレハナリ因テ上告ノ趣旨効ナキモノト判定ス
以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却スル者也

第一千三百三十二號

○判文(詐欺取財)明治十六年四月十八日上告
同 十七年四月三十日發付

島根縣出雲國神門郡馬木村

七十八番地平民材木商

鳥屋尾直次郎

明治十六年一月
二十一年二月

右直次郎カ詐欺取財被告事件ニ付明治十六年一月二十七日松江輕罪裁判所ニ於テ被告ハ告訴人坂根勇四郎ヲ欺キ瓦ヲ騙取シタル證據充分ナラサルヲ以テ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ト言渡シタル裁判ニ對シ原裁判所檢事補三瀬綾一郎ハ上告ヲナシタリ其趣旨タル之ヲ要スルニ被告直次郎カ坂根勇四郎ヨリ瓦ヲ騙取シタル罪證明瞭ナルニ原裁判所ニ於テ證據充分ナラスト認定シ無罪ヲ言渡シ且言渡ニ理由ヲ附記セサルハ擬律ノ錯誤及ヒ越權ノ處分アル不當ノ裁判ナリト云フニ外ナラヌ對手人被告直次郎ハ瓦ヲ騙取シタルコトアシストノ事及ヒ上告ノ理由ナキ旨趣ヲ答辨セリ茲ニ大審院於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意

見テ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

五五〇

本案上告ノ旨趣タル其名トスル所ハ擬律ニ錯誤アリト云フコアレ其事實論告スル所ハ悉ク探證及ヒ事實判定上ニ涉リ即チ裁判官ノ職權ニ侵入シ批難ヲ試ムルニ過サレハ以テ上告正當ノ原由トナスヲ得ヌ又無罪ノ理由ヲ付セサルハ不法ナリト論告スト雖モ抑無罪ノ旨渡ヲ爲スニハ只其證憑ナキコト明示スルニ止ルコトハ治罪法第三百五條ノ法文ニ依リ明灼ニシテ今ヤ原裁判官渡書ニハ其證憑充分ナラサルコト明示シアレハ毫モ問然スル所ナシトス右辨明ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノ也
第一千三百三十三號

○判文〔詐欺取財〕明治十六年三月十九日上告
同 十七年四月三十一日發付

長崎縣北松浦郡平戸村平民

木村 十 作

明治十五年十月二十九號

詐欺取財及官吏ニ抗拒シタル被告事件ニ付明治十五年十二月二十二日平戸治安裁判所ニ開キタル長崎縣輕罪裁判所會議局カ豫審終結ノ旨渡ヲ認可シタルヲ不當ナリトシ被告ハ上告セリ其要領ハ被告カ池田藤四郎ヨリ委託ヲ受ケテ尾崎貞治ヨリ請取リタル金員ヲ右藤四郎ニ相渡シタルコトハ同人ヨリ被告ニ宛タル金子請取證及ヒ其代人願ニ照シテ明白ナル而已ナラズ巡査カ暴行ヲ加ヘタルコト之ナキニ豫審判官於テ有罪ノ旨渡ヲセラレシハ不當ナルニ付故障ナシタルニ原裁判所會議局ニ於テ故障ノ理由ナレトシ之レヲ棄却セラレシハ不當ナリト云フニアリ

云フニアリ

同裁判所檢察官警部佐藤秀夫ハ上告ノ理由之ナキ旨ヲ答辨セリ茲ニ專任判事ノ報告ニヨリ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之レヲ判決スル左ノ如シ
上告ノ理由トスル處豫審判官ニ於テ無罪ノ被告ヲ有罪ナリトセラレシハ不當ナルニ付原裁判所會議局ニ於テ故障及ヒタルニ同會議局於テ故障ヲ棄却セラレシハ不當ナリト云フモ是全ク事實判定上ニ對スル論告ナレハ之ヲ以テ故障ノ原由ト爲スヲ得ヌ何ソトナレハ治罪法第二百四十六條第二項被告人ハ云々輕罪裁判所又ハ違警罪裁判所ニ移スノ旨渡ニ對シテハ豫審判官ノ管轄違越權又ハ其事件ヲ移スヘキ裁判所ノ管轄違越ニ非サレハ故障ヲ爲スコト許サ、ルヲ以テナリ然ラハ則チ同會議局カ故障ノ趣意ハ該條項ニ記載スル以外ノ點ナリト判定シ故障ヲ棄却シ以テ豫審判官ノ旨渡ヲ認可セシハ至當ノ判決ニシテ上告ノ原由ナキモノトス仍チ治罪法第四百廿七條ノ規則ニ基キ該上告ヲ棄却スル者也
第一千三百三十四號

○判文〔重典賣〕明治十七年四月四日上告
同 年四月三十日發付

宮城縣警城國刈田郡八ッ宮

村二番地平民

日下 幸八 郎

明治十七年一月四十年七ヶ月

不動産重典賣被告事件ニ付明治十七年一月十六日仙臺輕罪裁判所カ刑法第三百九十三條第

五五一

二項及同第三百九十條ニ依リ四月ノ重禁錮ニ處シ五圓ノ罰金ヲ附加シ仍ホ同第三百九十
 四條ニ照シ六月ノ監視ヲ付スト言渡タル裁判確定ノ後右幸八郎ハ再審ノ訴ヲ爲シタリ其要
 旨ハ被告カ小野政治相續人小野峯三郎へ賣却シタル地所ハ其以前公證ヲ經右政治へ抵當ト
 ナシ置タル者コソ其負債ノ督促ニ遇ヒ已ムヲ得テ元利金ヲ以テ賣却シタル次第ナリ然リ而
 シテ佐藤新吉負債ノ方へ該地所ヲ抵當トナシ置タルモ個ハ二番書入ニシテ單ニ辨濟ヲ認ム
 ルニ止マリ固ヨリ公證ヲ受ケタルニアラサレハ其効ナク且新吉ニ於テモ其前小野政治へ抵
 當ニ差入アルハ承諾上ノ事ナレハ被告ハ爲メニ重典賣ノ罪ト爲ルヘキノ理ナキヲ以テ原裁
 判破毀ノ上更ニ無罪ノ言渡アラシムト云ヒ而シテ公正ノ證トシテ小野政治外一八ニ
 宛タル地所書入公證及ヒ書入證書ヲ差出シタリ

大審院檢事長渡邊誠ハ被告カ公正ノ證トシテ提供シタル證書ハ小野政治相續人小野峯三郎
 へ賣却セシ地所ハ其元政治へ抵當ナリシコトヲ證スヘシモ本件ノ所爲ニ付無罪ナリトノ事實
 ナリ證明スルニ足ラサル者ニシテ到底被告カ訴旨ハ再審ノ理由之ナキ旨ノ意見ヲ付セリ
 大審院ニ於テ治罪法第四百四十四條ノ法式ヲ履行シ判決スルノ左ノ如シ
 再審ノ訴ノ理由トスル所被告カ小野政治相續人小野峯三郎へ賣却シタル地所ハ其以前公證
 ナリ經政治負債ノ方へ抵當ニ差入レ置タル者ニシテ佐藤新吉へハ二番書入ニ過キス而シテ個
 ハ單ニ辨濟ヲ認ムルマテノコトニシテ固ヨリ公證ヲ受ケタルニアラサレハ其効ナク且新吉
 ニ於テモ其前小野政治へ抵當ニ差入アルハ承諾上ノ事ナレハ被告ハ爲メニ重典賣ノ罪ト爲
 ルヘキノ理ナシト云フニ在ルモ其公正ノ證トシテ差出シタル證書ハ大審院檢事長意見ノ如

ノ峯三郎へ賣却シタル地所ハ其元政治へ抵當ニ差入レアルコトヲ證スルニ止マリ本件ノ所爲
 ニ付無罪ナリトノ事實ヲ證明スルニ足ラストス要スルニ其訴旨タルヤ徒ニ確定裁判ニ對シ
 不服ヲ訴フルニ過キスニテ治罪法第四百二十九條ニ規定セル第一ヨリ第五ニ至ル場合ニ適
 當セサルヲ以テ再審ノ訴ヲ爲スノ原由ナキ者トス因テ該訴件ヲ棄却スル者也
 第一千二百三十五號

○判文(持兇器強盜) 明治十七年三月十二日上告
 同年四月三十日發付

山口縣長門國美禰郡山中村
 平民農

松田長七
 明治十七年二月
 四十年

同村平民農
 松田新七
 明治十七年二月
 三十六年七月

同村平民農
 松田慶次
 明治十七年二月
 三十二年

右三名カ被告事件ニ對シ明治十七年二月十九日廣島重罪裁判所於テ被告等カ犯罪ハ明治十
 四年十月已來都テ七回ニシテ其第一第二第三ノ所爲ハ二人已上持兇器強盜ノ罪ト爲シ所犯
 五五三

新法實施以前ニ係ルヲ以テ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從ヒ刑法第三百七十八條第三百七十九條
 第三百四條ニ依リ各有期徒刑第四第五ノ所爲ハ刑法第三百七十八條第三百七十九條第四百
 條ニ依リ各有期徒刑第六ノ所爲ハ二人以上持兇器強盗人ヲ傷スル罪ト爲シ刑法第三百八十
 條第四百條ニ依リ各無期徒刑第七ノ所爲ハ二人以上持兇器強盗人ヲ殺傷シタル罪ト爲シ刑
 法第三百七十八條第三百七十九條第三百八十條第四百條ニ依リ死刑トス以上數罪俱發スル
 ヲ以テ刑法第百條ニ依リ一ノ重キ死刑ニ處スル旨言渡シテ被告等ハ之レヲ不當ナリトシ
 上告セリ其要領ハ被告ノ内長七新七ニオイテハ明治十四年度ニ在テ強盗ヲ行ヒタルトシ
 シ又明治十五年度ニ係ル犯罪ハ松田喜三郎外三名カ強盗ヲ行フニ當リ舟子ニ被雇タル迄ナ
 レハ則チ從犯タルニ過キス而シテ同人等カ人ヲ殺傷シタルハ全ク被告意思外ノ所爲ニ付之
 レニ關ルヘキ道理ナシ然ルニ原裁判所ハ被告カ公判庭ニ爲シタル事實ノ辨明ヲ採ラスシテ
 警察署及ヒ豫審廷ノ調査ニ信ヲ置カレタルハ甚シキ誤認ナリト云ヒ被告慶次ニ於テハ會テ
 強盗及ヒ人ヲ殺傷シタル覺ヘ無シ已ニ其旨申立置タルニ原裁判所ハ之レニ拘ハラヌ別冊ノ
 如キ裁判言渡サレタリ是レ或ハ兄長七新七等ト共ニ廣島區ニ逗留セシヨリ漫ニ共謀者ナラ
 シトノ推測ヲ下サレタルモノナラン以上ノ事實ナルヲ以テ原裁判所カ被告三名ハ與ヘラレ
 タル裁判ハ治罪法第四百十條第十項ニ照シ上告ノ原由アリト云フニアリトス對手人檢事加
 納謙ハ本案被告等カ所爲ハ偶然立談ノ間ニ成立タル犯罪ニアラスシテ始メヨリ強盗ヲ行ハ
 シトシ共謀シタルニ無相違ハ彼等カ任意ノ供狀諸般ノ證據ニ徴シ明テ疑ナキモノナリ又慶
 次ニオイテ長七等ト共謀シタル覺ヘナシトノ云々ハ口頭ノ陳述ニ止リ探ルニ足ラス到底無

効ノ上告ナリト云フニアリ

茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ式ヲ履行シ上告代理人森條右衛門立會檢事堀田
 正忠ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

代官人森條右衛門ハ上告ノ趣意ヲ擴張シ且被告長七新七カ公判庭ノ調査ニ照セハ原判文ハ
 不相當ナリト云ヒ又慶次カ第六第七ノ所爲ニ對シ人ヲ傷シ人ヲ殺シタリトノ裁判ハ服シ能
 ハス其故ハ同人ハ長七新七カ行兇ノ際甲板上ニ在テ乘客ノ騷擾ヲ制止シタル迄ニテ毫モ殺
 傷ノ事ニ干與セスト申立本院檢事堀田正忠ハ本案上告ハ効ナキモノニ付速ニ棄却アリ度旨
 ヲ陳述ス依テ案スルニ被告及ヒ代官人ノ論述會テ原裁判所公判庭ニオイテ爲セシ辨論ヲ反
 覆再言スルニ過キスシテ一モ裁判官ノ認メタル被告ノ行爲ヲ動スニ足ルモノナシ何ントナ
 レハ原裁判ハ諸般ノ證據ヲ採擇シ其事實ヲ認メタルモノナレハナリ凡ソ刑事裁判ニ對シ上
 告ヲ爲シ得ヘキ場合ハ治罪法第四百十條ニ規定シアル如クナリ本案上告ニ至テハ該規定ニ
 則シサル而已ナラス論旨ノ歸着スル所徒ラニ事實承審官カ職權ニ屬スル採證及ヒ事實認定
 上ニ立入り不服ヲ唱フルニ過キサルヲ以テ本案上告ノ原由ナキモノナリトス
 右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ棄却スルモノナリ

第一千三百三十六號

○判文(強盜)明治十六年五月二日上告
 同 十七年四月三十日發付

栃木縣下野國下都賀郡福真

村平民農業

岩淵伊三郎

明治十六年四月

二十九年九月

同縣同國同郡同村平民農業

大浦長太郎

明治十六年四月

二十五年八月

同縣同國同郡高橋村平民農業

田村房吉

明治十六年四月

三十四年八月

同縣同國同郡高橋村平民農業

明治十六年四月七日栃木重罪裁判所ニ於テ右被告人三名カ強盜事件ヲ審判シ新舊ノ法ヲ比照シ舊法ノ輕キニ從ヒ改正強盜律ニ依リ岩淵伊三郎田村房吉ハ持兇器強盜自首シテ贓物ニハカラサル者ト爲シ犯罪自首條ニ照シ本罪ニ二等ヲ減シ大浦長太郎ハ從犯ニシテ戶外ニ在リ瞭望セシ者ト爲シ犯罪分首從條及ヒ改定律例第百二十八條ニ照シ亦本罪ニ二等ヲ減シ各輕懲役七年ニ處スト旨渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事柿原義則ハ上告ヲ爲シテ其要領被告伊三郎房吉ハ四次強盜ヲ爲シ第一第二第三ノ犯罪ハ發覺前自首シタルモ其第四ノ罪ハ首出セサルノミナラス檢察官ノ訊問ニ對シ之ヲ包藏シ其後豫審判事ノ訊問ニ因テ之ヲ白狀セシモノナレハ固ヨリ自首ト同視スルヲ得ス然ルニ裁判官ハ豫審官推問以外ノ白狀ト爲シ自首ト同リ論シタルハ不當ナリ又長太郎ハ五次強盜ヲ爲シ常ニ戶外ニ在テ瞭望セシモ

他ノ共犯人ト同謀シ終始事ヲ共ニシタル者ナレハ固ヨリ從犯ト爲スヲ得ス且改定律例第百二十八條ヲ適用ス可キ者ニ非ス故ニ被告三名ノ所爲舊法ニ於テハ改正強盜律ニ依リ各懲役終身新法ニ於テハ刑法第三百七十八條第三百七十九條ニ依リ本刑ニ二等ヲ累加シ各有期徒刑ニ該ルヲ以テ新法ノ輕キニ從ヒ處斷ス可キ者ナルニ原裁判所カ各懲役七年ニ處シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ被告人三名ハ答辨書ヲ出シ伊三郎房吉カ第四ノ犯罪ハ共犯人増吉春吉ノ所爲ニシテ其事ニ關係セザリシヲ以テ自首書ニ記載セズ檢察官ニ白狀セサルモ豫審廷ニ於テ其事ヲ憶ヒ起シタルニ因リ之ヲ自首セシ者ナレハ自首ト同視セサル可カラズ又長太郎ハ共犯人ノ脅迫ニ遇ヒ已ムヲ得ス隨從シ戶外ニ瞭望セシ者ナレハ正犯ヲ以テ論セタル可キ者ニ非ス故ニ原裁判ハ至當ニシテ上告ノ論旨ハ不當ナリト辨駁セリ大審院ニ於テ治罪法ノ定式ヲ履行シ檢事堀田正忠ノ意見及ヒ被告代言人大矢早利ノ辨明ヲ聽キ之ヲ審案スルニ

被告伊三郎房吉カ第四ノ犯罪ハ豫審判事ノ訊問ニ對シ始テ之ヲ供述シタル者ナレハ上告論旨ノ如ク自首ヲ以テ論スルヲ得サルモノトス長太郎ノ犯罪ハ改正強盜律ニ兇器ヲ持シ財ヲ得ル者皆懲役終身トアルニ因リ首從ヲ分ツ可キ者ニ非サルモ其造意者ナリト認ム可キ證ナキヲ以テ戶外ニ在テ瞭望セシ所爲ハ改定律例第百二十八條ニ照シ本罪ニ一等ヲ減ス可キ者ナレハ原裁判所カ從犯ト爲シタルハ不當ナルモ檢察官カ造意者ナリトシ減等ス可キ者ニ非ストノ論旨モ亦其當ヲ得サルモノトス而シテ原裁判言渡書ニ掲載スル事實ニ依レハ伊三郎房吉ハ四個ノ犯罪人ニシテ第一第二第三ノ所爲ハ兇器ヲ持シ強盜ヲ爲シ發覺前自首セ

シモノナリ第四ハ強盜戸外ニ在テ瞭望シタルモノナリ長太郎ハ五個ノ犯罪ニシテ第一第二第三第四ハ共ニ戸外ニ在テ瞭望シ第五ハ強盜ヲ爲サントシテ遂ケス發覺前自首シタルモノナリ之ヲ法律ニ照スニ舊法ニ於テハ伊三郎房吉カ自首シテ贖免ス可シタル所爲ハ犯罪自首條ニ依リ本罪ニ二等ヲ減シ懲役七年其戸外瞭望ノ所爲ハ改定律例第二百二十八條ニ依リ本罪ニ一等ヲ減シ懲役十年ニ該ル長太郎カ瞭望ノ所爲モ亦同條ニ依リ懲役十年其強盜未遂罪ハ自首スルヲ以テ全免シ一ノ重キ各懲役十年ニ處ス可キモノナリ新法ニ於テハ二人以上兇器ヲ携帯シテ強盜ヲ犯シタルハ刑法第三百七十八條第三百七十九條ニ依リ本刑ニ二等ヲ累加シ共ニ有期徒刑ニ該リ伊三郎房吉カ第一第二第三ノ罪ハ自首セシテ以テ一等ヲ減シ長太郎カ第五ノ罪ハ未遂犯ナルヲ以テ二等ヲ減シ自首ニ因リ仍ホ一等ヲ減ス可キモノノ重キ各有期徒刑ニ該ル依テ舊法ノ輕キニ從ヒ處斷ス可キモノトス然ルニ原裁判茲ニ出テサリシハ擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第十ノ場合ニ適當スル破毀ノ原由アリト判定ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲スノ左ノ如シ

岩淵伊三郎
大浦長太郎
田村房吉

前ニ辨明スル如クナルニ因リ被告人三名ノ所爲舊法ニ在テハ改正強盜律ニ依リ各懲役終

身ニ處ス可キ處伊三郎房吉カ第一第二第三ノ所爲ハ自首シテ贖免ス可カラサルヲ以テ犯罪自首條ニ照シ本罪ニ二等ヲ減シ懲役七年第四ノ所爲ハ外ニ在テ瞭望セシ者ナルヲ以テ改定律例第二百二十八條ニ照シ本罪ニ一等ヲ減シ懲役十年ニ該ル長太郎カ第一第二第三第四ノ所爲ハ亦同條ニ照シ懲役十年其第五ノ所爲ハ未タ遂ケス且自首スルヲ以テ犯罪自首條ニ照シ其罪ヲ全免シ一ノ重キ各懲役十年ニ處ス可キモノトス新法ニ在テハ刑法第三百七十八條ニ依リ其二人以上兇器ヲ携帯シテ犯シタルヲ以テ同第三百七十九條ニ照シ本刑ニ二等ヲ累加シ共ニ有期徒刑ニ該リ伊三郎房吉カ第一第二第三ノ所爲ハ自首セシテ以テ同第八十五條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ重懲役ニ該リ長太郎カ第五ノ所爲ハ未遂犯ナルヲ以テ同第二百十二條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ輕懲役ニ該リ其自首セシテ以テ同第八十五條ニ照シ仍ホ一等ヲ減シ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ該ルモノノ重キ各有期徒刑ニ處ス可キモノトス依テ刑法第三條二項ニ照シ舊法ノ輕キニ從ヒ被告人三名ハ各懲役十年ニ處スルモノナリ

但物品還付沒收及ヒ裁判費用ノ處分ハ原裁判言渡ノ通りタル可シ

第千百卅七號

○判文(竊盜)明治十六年三月十六日上告
同 十七年四月三十日發付

高知縣土佐國幡多郡戸内村
平民無職業
小島命藏
五五九

五六〇
明治十五年十二月
三十一年二月

右命藏カ被告事件ニ付明治十五年十二月十六日中村輕罪裁判所會議局ハ豫審故障ヲ審判シ豫審終結言渡ヲ取消シ竊盜ノ罪アルモノト認メ公判ニ移ストノ判決ニ服セス上告ヲ爲シテ其要領ハ被告人カ栗實ヲ採取シタルハ全ク自己ノ所有地内ニ生立スル處ノ栗木ニテ決シテ告訴人川村久太郎カ所有ニ屬スルモノニアラサルナリ其栗木ニ就テハ曾テ爭論ヲ生シタルヲアルモノ一旦平和ノ局ヲ結ビ被告人ニ於テハ素ヨリ自己ノ所有ナリト確信シアリテ之ヲ採取シタル所爲ナリ然ルニ原判決ハ證人ノ陳述ニ依レハ境界判然セルモノナリトノ臆測ニ出テタルハ審理不盡ナリ又假ニ被告人カ所有地外ノ栗木ナリトスルモ其所有地ハ極メテ接近シタル箇所ニシテ果實ハ被告人カ地内ニ散落セシモノナリ斯ノ如キ事實ナルニ原會議局ハ充分ナル審理ヲ盡サス被告人カ緊要ナリトスル點ニ付テハ一言ノ辨明ヲモ與ヘサルハ不當ナルヲ以テ破毀アリトシト要求セリ

對手人檢事補柳田正介ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シテ原裁判允當ナリト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ
上告ノ理由トスル處自己ノ所有地内ニアル栗木ナリト云ヒ又ハ一旦爭論ニナリタルモノナルニ其境界如何ヲ糾サス概シ處斷セテレタルハ不當ナリト云フコアリト雖モ原會議局カ各種ノ徵憑ニ依リ認定シタル事實ヲ非難スルニ止リテ上告ノ理由ト爲スヲ得ヌ何トナレハ治罪法第四百四十六條第二項ニ被告人ノ自狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアルヲ以テナリ因テ上告趣旨ハ相立タル者ト

判定ス

以上ノ如クナルヲ以テ本案ハ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

第一千三百三十八號

○判文(竊盜)明治十六年十一月廿七日上告
同 十七年四月三十日發付

愛媛縣伊豫國温泉郡千船村
平民大工職

近藤彌藏

明治十六年十月
二十九年八月

右近藤彌藏カ被告事件ニ付明治十六年十月卅一日松山輕罪裁判所ニ於テ被告ハ重岡喜十郎ト申合セ黒川繁次カ所有ノ證券ヲ竊取シタル者ト認定シ刑法第三百六十六條第三百六十九條第三百七十六條ニ依リ重懲罰七月廿日ニ處シ監視六月ヲ附加シ且黒川繁次カ印影ヲ白紙ニ押捺シ退テ受取書及ヒ定約書ヲ作爲シ父政藏方ニ差置タル所爲ハ未タ豫備ニ過キサルヲ以テ治罪法第二百五十八條ニ依リ無罪ト言渡シタリ檢事補水野正也ハ之レヲ不當トシ上告セリ其要旨ハ原裁判所ニ於テ被告カ竊盜罪ニ對スル處分ハ間然スルナシト雖モ其印影盜用ノ點ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ據律錯誤ト云ハサルヲ得ヌ如何トナレハ此所爲タル直ニ刑法第二百八條ノ末項ヲ適用ス可キニ非ザルモ決テ未遂犯タルヲ免ガレサルモノナレハナリ依テ更ニ至當ノ判決アリシト望ムト云フコアリ對手人近藤彌藏ハ上告ヲ相當ト思料スル旨申立タリ

大審院於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
抑刑法第三百八條第二項ノ法文タル「若シ他人ノ印影ヲ盜用シタルモノハ一等ヲ減ス」ト此
法文ハ同條第一項「他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者」ニ云々「トアル精神ヲ承ケ來ルモノ
ニ付單ニ盜捺而已テ處スルノ律意ニ非ル可シ本案被告ノ如キハ他人ノ印影ヲ盜捺シタルモ
其文書ヲ一家内ニ藏置シ未ダ使用ニ着手セザリシハ原判文但書ニ明示シタリ然ラハ未ダ豫
備ノ區域ヲ出テサルモノナリトス故ニ原裁判所ニ於テ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ヲ
言渡シタルハ相當ニシテ上告ノ點ハ同法第四百十條ノ項目ニ適應セル原由ナキモノナリト
ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ棄却スルモノナリ
第千三百三十九號

○判文(竊盜) 明治十六年十一月八日上告
同 十七年四月三十日發付

神奈川縣南多摩郡元子安村
千九百一番地中山マツ方寄
留三重縣平民

松田榮吉

明治十六年十月

三十九年

右松田榮吉カ被告事件ニ對シ明治十六年十月十五日橫濱輕罪裁判所八王子支廳ニ於テ被告
長田齋次郎ニ他人ノ懷中セル紙入ヲ竊取セシメ金員ヲ分配ナシタルモノト判定シ刑法第

百五條同法第三百六十六條同法第三百七十六條ニ照シ重禁錮二年ニ處シ監視一年ニ附スト
言渡シタル裁判ニ服セズ上告ヲ爲シタリ其要領ハ原裁判所カ被告ノ罪ヲ斷シ刑ノ言渡ヲナ
シタルハ一モ其證據ノアルコトヲ被告カ長田齋次郎ヨリ金員ヲ請取リタルハ貸金ノ返償ヲ
得タルモノニテ被告ハ同人カ物品ヲ竊取セル現場ニ居リタルコトヲ只同人カ警察署於テ取
調ノ嚴ナルコトヨリ不實ノ申供ヲナシタルト探偵掛リノ不完全ナル告發ニヨリ共謀者ト推測
ヲ下シタルハ治罪法第四百六十六條第二項ニ背馳セル不法ノ裁判ナリ又假リニ刑法上ニ於テ
罪セタル、モノトスルモ教唆者ヲ以テ論セラルヘキ者ニアラサレハ擬律ノ錯誤ナリト云ヒ
且辨明書ヲ以テ上告ノ趣意ヲ擴張セリ

對手人檢事補瀧本了最ハ原裁判ハ相當ニテ上告ノ趣意ハ不法ナリト答辨セリ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

本案上告ノ旨趣タル教唆シ竊盜ヲ爲サシメタル證據ナク長田齋次郎カ警察署於テ嚴ナル取
調ヲ受ルニ因リ爲シタル申供ト不完全ナル告發狀ニ因リ推測ヲ下シタルハ治罪法第四百十
六條第一項ニ背馳セル不法ノ裁判ニテ又假リニ刑法上罰セラル、モノトスルモ教唆者ヲ以
テ論スヘキモノニアラサレハ擬律ノ錯誤ナリト云フニアレハ警察署ニ於テ嚴ナル取調ヲナ
シタル證據左ナキノミナラズ徒ニ承審官カ認定シタル事實及ヒ探證ノ當否ヲ論難スルニ止マ
リテ毫モ治罪法第四百六十六條第一項ニ背馳シタル者ニ非ス何ントナレハ原裁判官ハ右第百
四十六條第二項ニ適當シタル被告人等ノ自狀等ニヨリ事實ノ判定ヲ爲シタルモノナレハナ
リ而シテ原判文ニ(長田齋次郎ト申合セ同人ヲシテ同郡榎木村橋本彦右衛門カ懷中セル紙

入ヲ竊取セシメ在中ノ金員ヲ分配シタル云々」トアリテ教唆者ト認メタルヲ明カナレハ原
裁判所カ刑法第百五條同法第百六十六條同法第百七十六條ヲ適用セシハ相當ニシテ治
罪法第四百十條ニ定メタル擬律ノ錯誤ナキモノトス
右ノ理由ナルヲ以テ本案上告ハ棄却スルモノ也

第一千四百十號

○判文〔竊盜〕明治十七年四月一日上告
同 年四月三十日發付

滋賀縣近江國滋賀郡下博勞

町平民當時滋賀縣總役人

大橋 菊松

出生年月不詳

明治十五年四月二十五日本院ニ於テ右菊松カ京都裁判所大津支廳ノ裁判官渡ニ對スル上告
ヲ審判シ上告人大橋菊松ニ於テハ山本鶴吉ナル者ヨリ盜品賣捌キ方ノ依頼ヲ受ケ之レカ周
旋ヲ爲シタルコト有之モ伊庭ノ方ヘ忍入リ反物ヲ竊取セシメ無之旨申立ルト雖モ口頭
無證ノ陳述ナレハ之ヲ採用スルニ由リナクシテ原裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀
ヲ却下スル旨官渡シタル處右菊松ニ於テ明治十七年三月十八日付ヲ以テ再審ノ訴ヲ起シタ
リ其要領ハ自分ニ於テハ決シテ伊庭ノ方ヘ忍入リ反物ヲ竊取シタル覺之ナレ右ハ全ク
近江國高島郡今津村中川喜太郎ノ所爲ナルコトハ大津輕罪裁判所ニ於テ右喜太郎ヘ官渡サレ
タル裁判宣告書及被害者ヨリ差出タル盜難屆書等ニ依テ顯著ナリ是ニ由テ右二個ノ謄本ヲ

證トシ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

爰ニ大審院會議局ニ於テ專任判事ノ報告書及檢事長ノ意見書ニ依リ判決ヲ爲スル左ノ如シ
本案ノ證據書類ヲ監査スルニ明治十四年十二月二十八日京都裁判所大津支廳ニ於テ大橋菊
松ニ對シ爲シタル裁判官渡中伊庭ノ方ヘ被害ニ係ル竊盜事件ハ即チ明治十五年五月六日
大津輕罪裁判所ニ於テ近江國高島郡今津村平民中川喜太郎ヘ對シ官渡シタル裁判中ノ一部
ト恰モ其實事同一ニシテ而カモ亦共犯者ト視認スヘキモノアラスト爲ス故ニ本訴ハ治罪
法第四百三十九條第二項ノ場合ニ適當スル再審ノ原由アルモノニ付右大津支廳ノ裁判官渡
中其伊庭ノ方ヘ官渡スル竊盜事件ヲ破毀シ更ニ再審ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ京都輕罪裁判
所ニ移スモノナリ

第一千四百十一號

○判文〔財產藏匿〕明治十六年四月二十日上告
同 十七年四月三十日發付

島根縣出雲國大原郡遠所村

四百四十三番地平民農

武田 幾左衛門

明治十六年二月
六十六年十ヶ月

同縣同國同郡西日登町六百

五十一番地平民農

周藤 金五郎

五六五

五六六
明治十六年二月
三十六年三月
同縣同國同郡遠所村四百四
十三番地平民農

武田平市

明治十六年二月

三十九年

明治十六年二月六日松江輕罪裁判所ニ於テ右武田幾左衛門外二名カ身代限りノ際財產ヲ隱匿セシ被告事件ヲ審判シ所犯新法實施前ニ係ルヲ以テ新舊法ヲ比照シ輕キ新法ニ從ヒ刑法第三百八十八條ニ依リ被告人周藤金五郎武田幾左衛門ハ各重禁錮四年ニ處シ武田平市ハ一家共犯ニシテ其真者ニ係ルヲ以テ舊法名例律共犯罪分首從條第二項ニ照シ其罪ヲ論セスト官渡タル裁判ニ服セス右被告三名ハ上告ヲ爲シタリ武田幾左衛門上告ノ要領ハ原裁判書中明治十三年九月身代限りノ處分ヲ受ケル前長男武田平市ヲ分家シ財產ヲ讓與セタリトノハ決テ犯罪ノ證トナル可キモノニ非ス何トナレハ被告カ身代限りノ處分ヲ受ケシハ明治十三年九月ニシテ本市ヲ分家セシハ明治十二年ニアリ故ニ當時已ニ犯罪ノ故意アリトノ證ナクハ之ヲ以テ犯罪ノ證トハ爲スヘカヲサレモノト思量ス又第二項モ亦犯罪ノ證タルヘキモノニ非ス何トナレハ武田一家ハ當時衰運ニ屬スルヲ以テ親戚等ニ關シテハ許多ノ負債アリ不得止地所ヲ讓付シタレハ爾后倍衰運ニ進クヲ憐察シ其好意ヲ以テ讓付或ハ賣得ノ手續ヲ以テ平市ヘ取入タルモノナリ又證人中山本平八ハ被告カ田地ノ小作人ニハ之ヲクシテ事實ニ關係ナキモノナレハ證人タル可キモノニ非ス又周藤金五郎ヨリ被告ニ宛タル返リ證

云々トアルモ該證ハ被告於テ毫モ關係ナキモノニ之アリ右之如ク本件ニ付テハ全ク證據ハ之ナキナリ其他宣告書中ニ「贓金百十圓以上トアルモ業已ニ大半ヲ償却セシモノナレハ是亦誤リヨ出タルモノナリ然ルニ原裁判所ハ審理茲ニ及ハス被告ヲ犯罪者ト斷定セラレタルハ不當ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云ヒ仍ホ追申書ヲ以テ前意ヲ擴張セリ

周藤金五郎カ上告ノ要領ハ原裁判所ニ於テ被告ヲ犯罪者トセラレタル證ハ武田幾左衛門ヨリ數百圓貸金ノ代リニ請取リタリト云フ田地ヲ僅カ百餘圓ニテ同人長男武田平市ヘ賣却セタル事實ト證人山本平八武田彌太郎等ノ陳述ト武田平市ヨリ被告ヘ宛タル信書及ヒ約定書ト之ニ關スル一切ノ書類トニ在リトスルモ右證據ハ悉ク犯罪ノ證タルヘキ効力ヲ有スルモノニ非サルニ原裁判所ニ於テ犯罪ノ證トシ刑ヲ言渡サレタルハ不當ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云ヒ仍ホ追申書ヲ以テ前意ヲ擴張セリ

武田平市カ上告ノ要領ハ被告ハ父幾左衛門ト謀議シテ佐藤清吉ニ故ヲニ損害ヲ被ムラシメタルヲナシ且證據トシ舉ラレタル事實ハ渾テ證據トナルヘキモノニ非ス然ルニ原裁判所カ有罪ナリト斷定セラレタルハ不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云ヒ仍ホ追申書ヲ以テ前意ヲ擴張セリ

對手人原裁判所檢事補三瀬綾一郎ハ上告ノ不理ナルヲ逐一辨駁シ原裁判相當ニシテ毫モ破毀ノ原由ナキモノナリト答辨セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ成規ニ從ヒ判決ヲ爲スコト左ノ如シ
被告人等ハ原裁判官カ判定シタル事實ニ對シ其當否ヲ論難シ以テ上告ノ理由ト爲スト雖モ

凡ソ諸般ノ證據ヲ採擇シ犯罪ノ有無ヲ斷定スルハ裁判官ノ特有ナル權内ニ屬スルモノナレハ越權等不法ノ虞アルコト非サレハ之ニ對シ漫リニ不服ヲ訴フルコトヲ得ス今訴訟書類ニ徴スルニ原裁判ハ毫モ不法ノ點アルヲ見サレハ本案上告ノ趣旨總テ相立タサルモノトス右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スルモノナリ
第一千四百二十二號

○判文(財産藏匿)明治十六年十一月十三日上告
同 十七年四月三十日發付

兵庫縣淡路國津名郡佐野村
平民

稻室伊八郎

明治十六年十月

四十七年

大坂府攝津國東成郡東高津

村平民

稻室三木太

明治十六年十月

五十二歲

右伊八郎外一名ヲ財産藏匿被告事件ニ付明治十六年十月九日神戸輕罪裁判所洲本支廳ニ於テ刑法第三百八十八條ヲ適用シ三木太ヲ重禁錮二月ニ處シ伊八郎ハ原諒ス可キ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九條ニ照ラシ重禁錮一月十五日ニ處スト旨渡シタル裁判ニ服セス被告兩名ハ上告セリ其要領ハ明治十五年十二月身代限財産取調ニ際シ「藤トウシ」外三十五

點ノ物品ヲ惡意アリテ藏匿セシコトヲ其際混雜ニ取紛レ記載落ニ爲リタルカ故ニ明治十六年七月廿二日再ヒ戶長ノ立會ヲ要シ該品取調書ヲ裁衝ニ提出セリ爰ニ以テ藏匿ノ所爲ニアラサルヲ知ルヘシ尙辨明書ヲ呈呈シ上告ノ趣意ヲ擴張シ或曰ク假リニ惡意アリタルトスルモ單ニ豫備ニ止リテ犯罪ノ成立ニアラス又三木太ハ總理代人タルコト該判文ニ後見人ノ身ニアリナカラ云々トアルハ事實ニ阻礙アル不法ノ裁判ナリト云コアリ

對手人檢事補城三郎ハ上告ノ不理ナルヲ駁撃シテ速ニ棄却アルヘキ旨ヲ答辨セリ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ニ從ヒ之ヲ審案スルコト

上告ノ理由トスル所ハ財産取調ハ兩回ヒ戶長立會ヲ要シ其點數付ヲ提出セシ上ハ隱匿ノ所爲ニアラス假リコト之アリトスルモ犯罪ノ成立ニアラス又三木太ハ總理代人タルニ後見人ト該判文ニ掲載セシハ不當ト云ト雖モ被告カ初度身代限リニ際シ取調ヘタル財産ヲ估賣スルニ方リ「藤トウシ」外二十五點ノ物件脱漏ニ掛リタル事狀發露シタルハ再度取調ノ節立會戶長生村計吉カ該裁衝ニ呈出セシ手續答書其他一件書類ニ徴シテ脱漏ノ犯罪著明ナリ豈敢テ豫備ニ止ル所爲ナラシヤ又三木太ハ伊八郎カ後見人タルヲ豫審公判庭ニ自カラ供述セシヲ以テ該判文ニ掲載セシモノナリ假令後見人ニアラサルモ何等原裁判ニ影響ヲ及ス可キモノニアラス之ヲ畢竟スルニ本案上告ハ承審官カ法律上ノ特權内ニ侵入シ事實ノ有無ヲ批難スルニ在リテ治罪法第四百十條各項外ニ涉ル論旨ナルヲ以テ原裁判ヲ破毀スルノ理由ト爲スヲ得サルモノト判定ス

右ノ理由ナルコト據リ治罪法第四百二十七條ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也

○判文(新聞條例違反) 明治十七年四月一日上告
同年四月三十日發付

大坂府河内國志紀郡太田村
百四十一番地平民同府東區
道修町一丁目四番地八木ア
イ方寄留日本立憲政黨新聞
編輯人

多田直勝

明治十七年三月
二十六年八月

明治十七年三月八日大坂輕罪裁判所ニ於テ有多田直勝カ被告事件ヲ審判シ被告ハ明治十七年二月五日刊行第五百四十九號雜報欄内ニ特別ノ五注意ト題シタル一項ヲ掲ケ又同年二月十九日刊行第五百六十號雜報欄内ニ怪聞ト題シタル一項ヲ掲職シタルモ該原稿タル投書ニ葉及ヒ對皮一葉ヲ提供シ其出所ヲ證明シタルモノニシテ新聞條例第二十七條ニ違背シタルモノニ非スト認定シ無罪ト宣渡タル裁判ヲ不法ナリトシ檢事補戸田荒太郎上告ノ趣旨ヲ節約セハ新聞紙條例第二十七條ニ依リ其新聞紙ニ掲載シタル事項ノ出所ヲ證明スルハ唯其投書ニ係ルヲ答ヘ而シテ其原稿ヲ提供セシノミヲ以テ充分ナリトセス故ニ裁判所ハ其原稿ノ眞偽如何ヲ審判シ而シテ之レカ判定ヲ下スヘキモノナリ則本案ノ原稿ニ於ケル其投書人ノ住所ノ町名若シハ番地氏名等之ニ適當ノ者ナク且其氏名モ亦甚々怪ムヘキモノナルニ趣ヲ答辨セリ

原裁判官ハ其原稿ノ虛構ナルト否トヲ別タス之ヲ提供シタルノミヲ以テ其出所ヲ證明セシモノトナシ該條例第二十七條第四十一條ニ照シ其刑ヲ併科スヘキ被告人ヲ無罪トシタルハ越權ノ處分ナリト云フニ在リ被告多田直勝ハ上告ハ不當ニシテ原裁判允當ナリト云フノ旨趣ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルヲ左ノ如シ

新聞紙條例第二十七條ヲ案スルニ證明トハ投書者ノ住所氏名等確實ニシテ其虛構ニ出シニアラサルヲ證明スルノ旨趣ナルヤ論ヲ俟タス故ニ本件ノ審判ニ於テハ其投書ノ確實ト認ムルニ足ル事理ヲ示シ而シテ其無罪タルヘキノ判決ヲ與ヘサルヘカラス今マ原判文ヲ閱スルニ〔投書ニ葉及對皮一葉ヲ提供シ其出所ヲ證明シタルモノニシテ云々〕トアルノミニテ果シテ其投書者ノ住所氏名等確實ニシテ虛構ニアラサルヤ否ヤノ點ニ至リテハ漠然之ヲ知ルニ由ナク則事實理由ノ不備ナルモノニテ治罪法第四百十條第九ニ當ル上告ノ原由アルモノナレハ治罪法第四百二十八條ニ基キ原裁判ノ全部ヲ破毀スヘキモノト判定シ本件ヲ神戸輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也

第千四百四十四號

○判文(銃砲犯則) 明治十六年五月八日上告
十七年四月三十日發付

岡山縣備中國川上郡近似村
士族獵銃製造職

石川忠三郎

五七一